

平塚市転入出者アンケート調査 結果報告書

平成28年2月
平塚市

はじめに

この冊子は、平成27年6月に実施した「平塚市転入出者アンケート調査」の結果を取りまとめたものです。

この調査では、今後のまちづくりを進めていくための基礎資料として活用することを目的とし、本市へ転入をした市民の皆様、また本市から転出をした市民の皆様の転入出のきっかけや理由、本市への印象などを調査しました。

この結果を、これからの行政運営や計画策定の参考にするとともに、市民の皆様を始め各方面の皆様にご活用いただければ幸いです。

最後に、この調査にご協力をいただいた市民の皆様に御礼を申し上げます。

平成28年2月

平塚市長 落合 克宏

目次

第1章 調査の概要	1
1 目的	2
2 調査方法	2
3 標本数及び回収結果	2
4 調査項目	3
5 結果利用上の注意	4
第2章 結果の概要	5
1 転入者アンケート調査結果	7
2 転出者アンケート調査結果	31
第3章 結果の考察	55
1 結果の考察	55
資料編	
1 調査票（転入者アンケート）	69
2 調査票（転出者アンケート）	79

第1章 調査の概要

1. 目的

全国的に人口減少や地方から東京への人口流入が問題となっているが、本市においても、近年、転出超過の状態が続いている。本調査は、他市区町村から平塚市へ転入した市民、平塚市から他市区町村へ転出した市民の実態を調査し、今後の市政運営の基礎資料とする。

2. 調査方法

- (1) 調査対象 平成26年1月1日から平成26年12月31日における転入出者のうち、「20～49歳の男女」かつ「平塚市から東京都または神奈川県内他市町村への転出者」、「東京都または神奈川県内他市町村から平塚市への転入者」に該当する各々1,000人
- (2) 抽出方法 住民基本台帳より無作為抽出
- (3) 調査方法 郵送配布、郵送回収（料金受取人払いの返信用封筒を添えて郵送）
- (4) 調査期間 平成27年6月19日（金）～7月3日（金）
- (5) 調査票 本報告書の巻末を参照

3. 標本数及び回収結果

(1) 標本数

【転入者】

発送	1,000件
戻り	3件（相手方の不明のため）
実質標本数	997件

【転出者】

発送	1,000件
戻り	20件（相手方の不明のため）
実質標本数	980件

(2) 有効回収数 【転入者】 340件 【転出者】 317件

(3) 有効回収率 【転入者】 34.1% 【転出者】 32.3%

【転入者】

区分 地区	発送 A	戻り B	実質標本数 C=A-B	有効回収数 D	未回収数 C-D	有効回収率 D/C
計	1,000	3	997	340	657	34.1%

【転出者】

区分 地区	発送 A	戻り B	実質標本数 C=A-B	有効回収数 D	未回収数 C-D	有効回収率 D/C
計	1,000	20	980	317	663	32.3%

4. 調査項目

(1) 転入者アンケート

種別	設問No.	設問内容
属性	1	性別
	2	年齢(対象者5歳区分)
	3	職業等
	4	同居の子どもの人数
	5	子ども年代別
	6	転入前の住所
	7	平塚市との関わり
きっかけ	8	きっかけとなった方
	9	転入理由(きっかけ)
転入先検討状況	10	他市町村の検討状況
	11	転入先に重視した条件
	12	検討した他市町村(2つまで)
	13	転入先の検討情報源
転入先決定理由	14	転入後の平塚市の居住地区
	15	平塚市に決めた理由
	16	平塚市の行政サービスの調査
転入の影響	17	住居の種類の変化
	18	世帯構成の変化
	19	勤務場所の変化
評価・印象	20	平塚市に居住しての評価
	21	転入前の平塚市のイメージ
	22	転入後の平塚市のイメージ

(2) 転出者アンケート

種別	設問No.	設問内容
属性	1	性別
	2	年齢(対象者5歳区分)
	3	職業等
	4	同居の子どもの人数
	5	子ども年代別
	6	転出前の平塚市での居住地区
	7	平塚市に居住した年数
きっかけ	8	きっかけとなった方
	9	転居理由(きっかけ)
転出先検討状況	10	平塚市内の検討状況
	11	転出先に重視した条件
	12	検討した他市町村(2つまで)
	13	転出先の検討情報源
転出先決定理由	14	転出後の住所
	15	転出先を決めた理由
	16	転出先の行政サービスの調査
転出の影響	17	住居の種類
	18	世帯構成
	19	勤務場所
評価・印象	20	平塚市に居住しての評価
	21	平塚市の良かったところ
	22	平塚市の悪かったところ

(3) 市内居住地区 ※町丁名の分類は調査票参照



5. 結果利用上の注意

- (1) 結果は百分率(%)で表示し、小数第二位を四捨五入して算出しました。従って、数値の合計が100%にならない場合があります。また、端数処理の関係上、個々の選択肢の百分率の合計が100%にならない場合があります。
- (2) 回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問は、全ての比率を合計すると100%を超えることがあります。
- (3) 統計表中の符号の用途は次のとおりです。
「0.0」・・・単位未満
「-」・・・・・・皆無又は該当数字なし
- (4) 標準誤差についてはおおよそ次のとおりです。

	回答者数	10%または90%	20%または80%	30%または70%	40%または60%	50%前後
転入者	340	±3.25%	±4.34%	±4.97%	±5.31%	±5.42%
転出者	317	±3.37%	±4.49%	±5.15%	±5.5%	±5.62%

転入者340人中、ある質問の回答率が50%の時、真の値が44.58%~55.42%の間にあることが、95%確かであるとしています。

※信頼度95%の係数を $1.96 \div 2$ とし、母集団とサンプル数の係数を $\div 1$ として、次の式により算出。

$$x = 2 \times \sqrt{\frac{p((100-p))}{n}}$$

第2章 結果の概要

転入者アンケート調査結果の概要

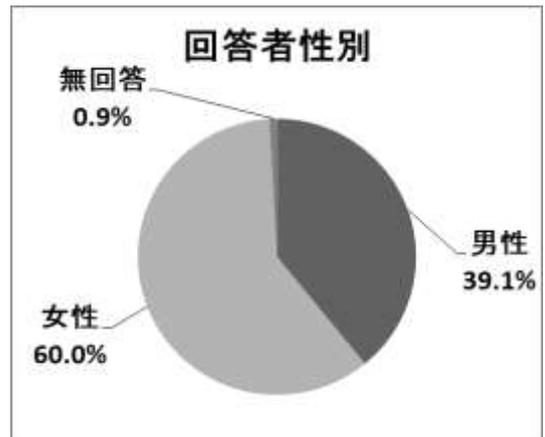
【1】転入者アンケート調査

○回答者の属性

問1 性別

回答者 340 人を男女別にみると、男性は 39.1%、女性は 60.0%、無回答は 0.9%であった。

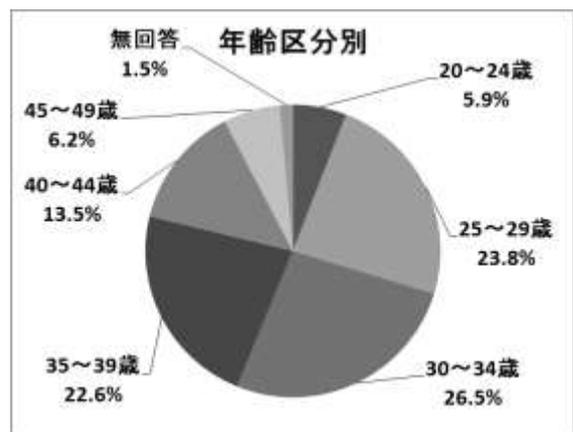
設問	選択肢	総数	割合
性別	男性	133	39.1%
	女性	204	60.0%
	無回答	3	0.9%
	計	340	100.0%



問2 年齢

年齢区分別にみると、「20～24歳」は 5.9%、「25～29歳」は 23.8%、「30～34歳」は 26.5%、「35～39歳」は 22.6%、「40～44歳」は 13.5%、「45～49歳」は 6.2%であり、20代は 29.7%、30代は 49.1%、40代は 19.7%という結果であった。

設問	選択肢	総数	割合
年代	20～24	20	5.9%
	25～29	81	23.8%
	30～34	90	26.5%
	35～39	77	22.6%
	40～44	46	13.5%
	45～49	21	6.2%
	50歳以上	0	0.0%
	無回答	5	1.5%
計	340	100.0%	

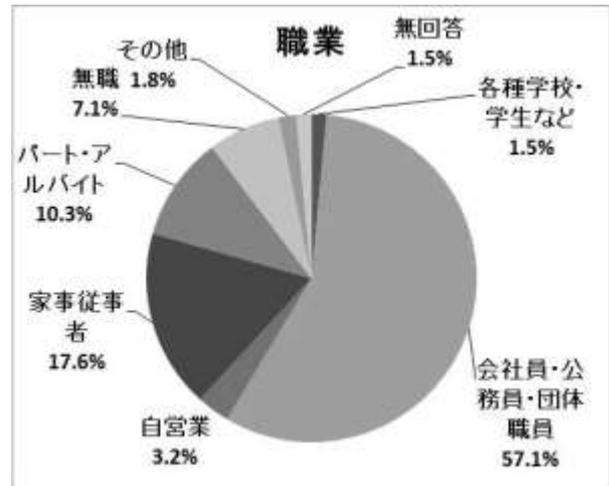


【1】転入者アンケート調査

問3 職業等

職業別にみると、「会社員・公務員・団体職員」は57.1%で最も高い割合となっている。

設問	選択肢	総数	割合
職業	各種学校・学生など	5	1.5%
	会社員・公務員・団体職員	194	57.1%
	自営業	11	3.2%
	家事従事者	60	17.6%
	パート・アルバイト	35	10.3%
	無職	24	7.1%
	その他	6	1.8%
	無回答	5	1.5%
	計	340	100.0%



問4 同居の子ども的人数

同居の子ども的人数について、「1人」と答えた方は31.8%、以下「2人」13.8%、「3人」2.6%、「4人」0.6%、また、「子どもはいない」と答えた方は49.4%、無回答は1.8%であった。同居の子どもがいる方は合わせて48.8%となり、いないと答えた方とほぼ同じ割合であった。

設問	子ども的人数	総数	割合
同居の子ども的人数	1人	108	31.8%
	2人	47	13.8%
	3人	9	2.6%
	4人	2	0.6%
	5人以上	0	0.0%
	子どもはいない	168	49.4%
	無回答	6	1.8%
	計	340	100.0%

設問	子どもの有無	総数	割合
同居の子ども有無	子どもがいる(1~5人)	166	48.8%
	子どもはいない	168	49.4%
	無回答	6	1.8%
	計	340	100.0%

【1】 転入者アンケート調査

問5 子どもの年代別 (※複数回答可) (N=166)

問4で子どもがいると答えた方のうち、子どもを年代別にみると、「就学前」は86.7%、「小学生」は14.5%、「中学生」は4.2%であった。調査対象の年代を20から49歳としたことから、就学前の子どもの割合が高い結果となったと考えられる。

	選択肢	総数	割合
同居の子ども (※複数回答) 子どもの人数回答者が母数	就学前	144	86.7%
	小学生	24	14.5%
	中学生	7	4.2%
	高校生	6	3.6%
	専門学校・短大・大学・大学院など	1	0.6%
	既に学校教育終了	6	3.6%
	その他	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	計(回答総数)	188	-
	回答者数(子どもがいる方)	166	

問6 転入前の市区町村

転入以前に神奈川県内に住んでいた方は全体の78.5%、東京都内に住んでいた方は全体の20.0%であった。市区町村別でみると、横浜市が全体の15.6%で最も高く、以下、茅ヶ崎市8.2%、秦野市7.4%、藤沢市7.1%、川崎市と伊勢原市が6.5%と続いている。

・都県別

都県別	人数	比率
神奈川県	267	78.5%
東京都	68	20.0%
その他	1	0.3%
無回答	4	1.2%
計	340	100.0%

・市区町村別

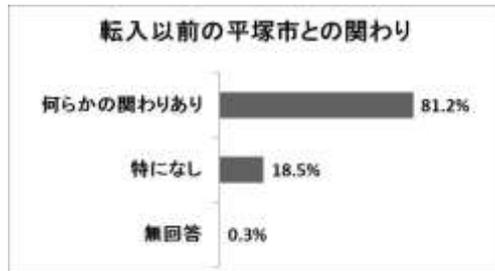
順位	市区町村	人数	比率	順位	市区町村	人数	比率
1	横浜市	53	15.6%	29	文京区	2	0.6%
2	茅ヶ崎市	28	8.2%	29	江東区	2	0.6%
3	秦野市	25	7.4%	29	北区	2	0.6%
4	藤沢市	24	7.1%	29	葛飾区	2	0.6%
5	川崎市	22	6.5%	29	八王子市	2	0.6%
5	伊勢原市	22	6.5%	29	三鷹市	2	0.6%
7	相模原市	15	4.4%	29	小平市	2	0.6%
8	小田原市	13	3.8%	29	国立市	2	0.6%
8	厚木市	13	3.8%	38	横須賀市	1	0.3%
10	大磯町	11	3.2%	38	南足柄市	1	0.3%
11	大田区	7	2.1%	38	山北町	1	0.3%
11	練馬区	7	2.1%	38	真鶴町	1	0.3%
13	二宮町	6	1.8%	38	湯河原町	1	0.3%
14	大和市	5	1.5%	38	台東区	1	0.3%
14	町田市	5	1.5%	38	墨田区	1	0.3%
14	無回答	5	1.5%	38	品川区	1	0.3%
17	新宿区	4	1.2%	38	目黒区	1	0.3%
17	世田谷区	4	1.2%	38	中野区	1	0.3%
17	江戸川区	4	1.2%	38	杉並区	1	0.3%
17	足立区	4	1.2%	38	豊島区	1	0.3%
21	鎌倉市	3	0.9%	38	立川市	1	0.3%
21	海老名市	3	0.9%	38	武蔵野市	1	0.3%
21	座間市	3	0.9%	38	府中市	1	0.3%
21	綾瀬市	3	0.9%	38	日野市	1	0.3%
21	寒川町	3	0.9%	38	清瀬市	1	0.3%
21	中井町	3	0.9%	38	武蔵村山市	1	0.3%
21	箱根町	3	0.9%	38	瑞穂町	1	0.3%
21	板橋区	3	0.9%	38	その他	1	0.3%
29	愛川町	2	0.6%				

【1】 転入者アンケート調査

問7 転入前の平塚市との関わり (※複数回答可)

転入以前の本市との関わりについて、「親や親族が住んでいる(いた)」が最も高く、全体の42.6%、次いで、「友人や知人が住んでいる(いた)」が34.7%、「買い物や遊びに来たことがある」が33.8%で続いている。また、「特になし」と答えた方は18.5%であり、特になしと無回答を除いた、平塚市と何らかの関わりがあった方は全体の81.2%であった。

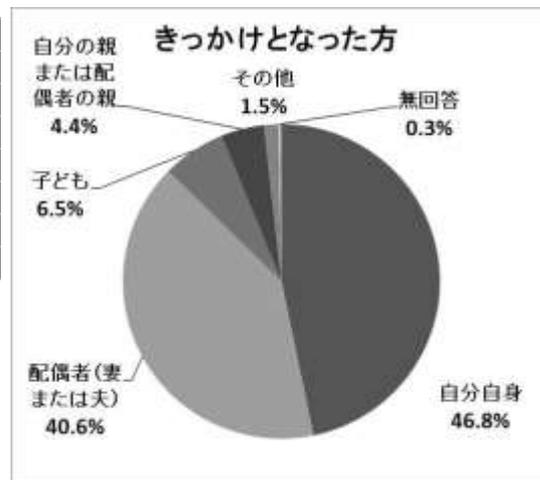
設問	平塚との関わり	総数	割合
平塚市との関わり	買い物や遊びに来たことがある	115	33.8%
	通勤や通学で通っていたことがある	75	22.1%
	以前に住んでいたことがある	86	25.3%
	親や親族が住んでいる(いた)	145	42.6%
	友人や知人が住んでいる(いた)	118	34.7%
	特になし	63	18.5%
	その他	21	6.2%
	無回答	1	0.3%
	計	624	183.5%
	計(回答者数)	340	



問8 転入するきっかけとなった方

本市へ転入するきっかけとなった方について、「自分自身」が最も高く46.8%、次いで「配偶者」が40.6%であった。

設問	選択肢	総数	割合
主なきっかけの方	自分自身	159	46.8%
	配偶者(妻または夫)	138	40.6%
	子ども	22	6.5%
	自分の親または配偶者の親	15	4.4%
	その他	5	1.5%
	無回答	1	0.3%
	計	340	100.0%



【1】転入者アンケート調査

問9 転入することになったきっかけ（※複数回答可）

転入することになったきっかけは、「結婚」が最も高く 32.9%、次いで、「住宅の都合」が 27.9%、「仕事上の都合」が 21.8%で続いている。

男女別にみると、男性は「住宅の都合」が最も高く 38.3%、次いで「仕事上の都合」28.6%、「結婚」19.5%、「親や子との同居または近くに住む必要」18.8%、「通勤・通学の利便性を高めるため」18.0%となっている。

女性は、「結婚」が最も高く 41.7%、次いで「住宅の都合」21.6%、「仕事上の都合」17.6%、「親や子との同居または近くに住む必要」15.7%となっている。

年齢区別にきっかけの上位をみると、「20～24歳」では「仕事上の都合」が最も高く 45.0%。

「25～29歳」では「結婚」が最も高く 40.7%、次いで「仕事上の都合」が 27.2%。

「30～34歳」では「結婚」が最も高く 38.9%、次いで「住宅の都合」32.2%。

「35～39歳」では「住宅の都合」が最も高く 35.1%、次いで「結婚」が 26.0%。

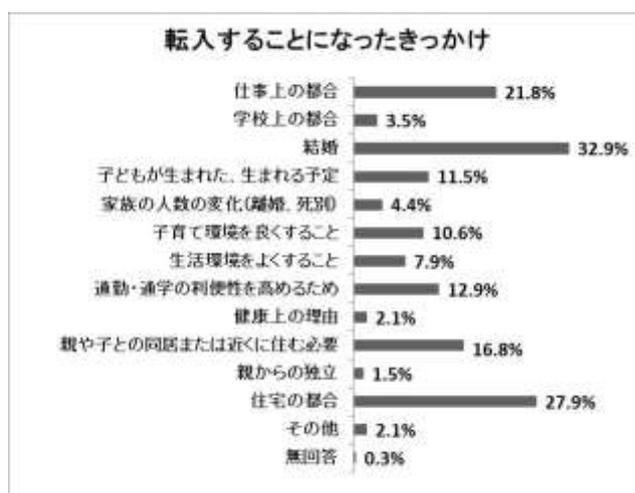
「40～44歳」では「結婚」、「住宅の都合」が 30.4%で並んでいる。

「45～49歳」では、「結婚」、「住宅の都合」のほか、「親や子との同居」が 28.6%で並んでいる。

子どもの有無別でみると、「子どもがいる」方は、「住宅の都合」が 34.9%で最も高く、「結婚」(24.1%)、「子どもが生まれる」(22.9%)、「子育て環境を良くする」(21.1%)、「親や子との同居（近くに住む）」(21.1%)と続く。

「子どもはいない」方は、「結婚」が 42.3%で最も高く、「仕事上の都合」(24.4%)、「住宅の都合」(21.4%)、「通勤・通学の利便性を高める」(14.9%)と続く。

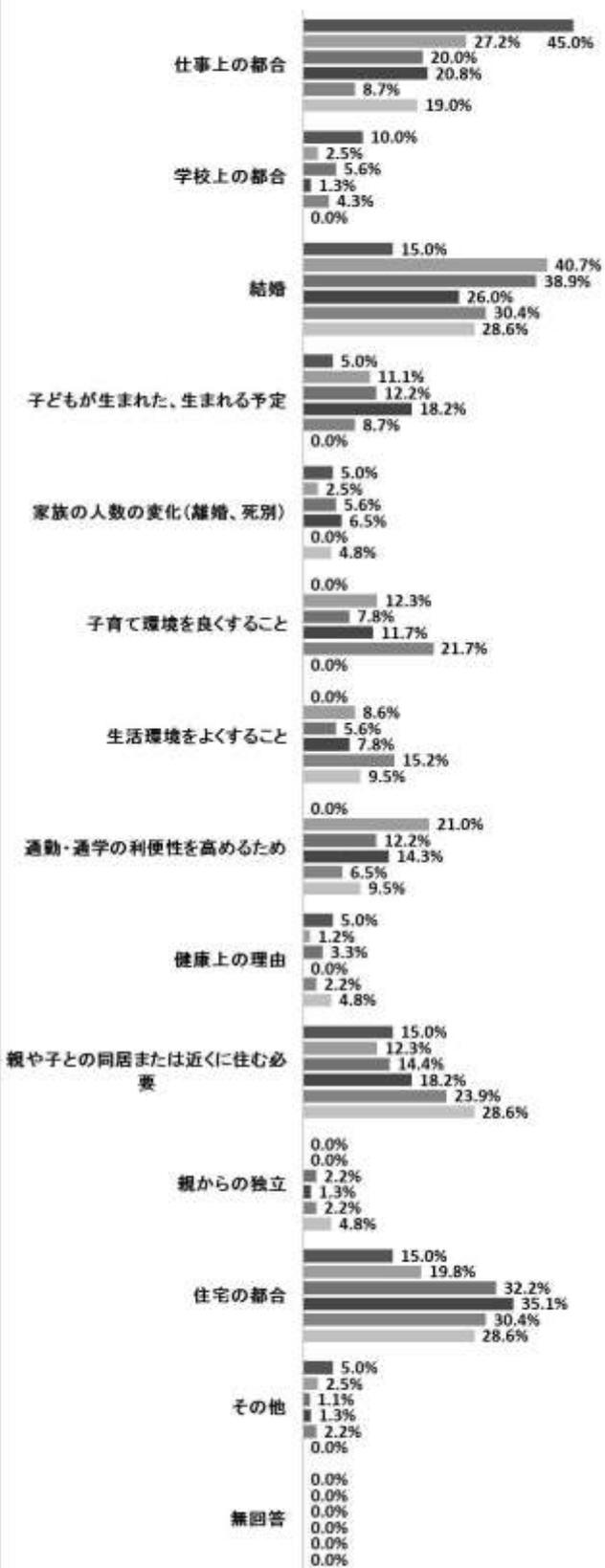
	選択肢	総数	割合
転入することになったきっかけ	仕事上の都合	74	21.8%
	学校上の都合	12	3.5%
	結婚	112	32.9%
	子どもが生まれた、生まれる予定	39	11.5%
	家族の人数の変化(離婚、死別)	15	4.4%
	子育て環境を良くすること	36	10.6%
	生活環境をよくすること	27	7.9%
	通勤・通学の利便性を高めるため	44	12.9%
	健康上の理由	7	2.1%
	親や子との同居または近くに住む必要	57	16.8%
	親からの独立	5	1.5%
	住宅の都合	95	27.9%
	その他	7	2.1%
	無回答	1	0.3%
	計(回答総数)	531	-
計(回答者数)	340	-	



【1】転入者アンケート調査

転入することになったきっかけ(年齢区分別)

■ 20～24歳 ■ 25～29歳 ■ 30～34歳 ■ 35～39歳 ■ 40～44歳 ■ 45～49歳



転入することになったきっかけ(男女別)

■ 男性 ■ 女性



男女別
男性(N=133)
女性(N=204)

転入することになったきっかけ(子ども有無別)

■ 子どもがいる ■ 子どもはいない



子ども有無別
子ども有(N=133)
子ども無(N=204)

年齢区分別

20～24歳(N=20) 24～29歳(N=81) 30～34歳(N=90)
35～39歳(N=77) 40～44歳(N=46) 45～49歳(N=21)

【1】転入者アンケート調査

問10 他の市区町村の検討状況

「他の市区町村も検討した」は38.5%、「平塚市に決めていたので、他に検討しなかった」は32.6%、「平塚市に住むことが決まっていた（社宅・家族の持ち家など）」は28.5%となった。全体の約70%は平塚市を選択して転入した方、残りの約30%はすでに平塚市内で住む場所が決まっていたことがわかる。

	選択肢	全体	割合
平塚市以外の検討状況	他の市区町村も検討した	131	38.5%
	平塚市に決めていたので、他に検討しなかった	111	32.6%
	平塚市に住むことが決まっていた（社宅、家族の持ち家など）	97	28.5%
	無回答	1	0.3%
	計	340	100.0%

問11 転入先の検討にあたり重視した条件（※複数回答可）

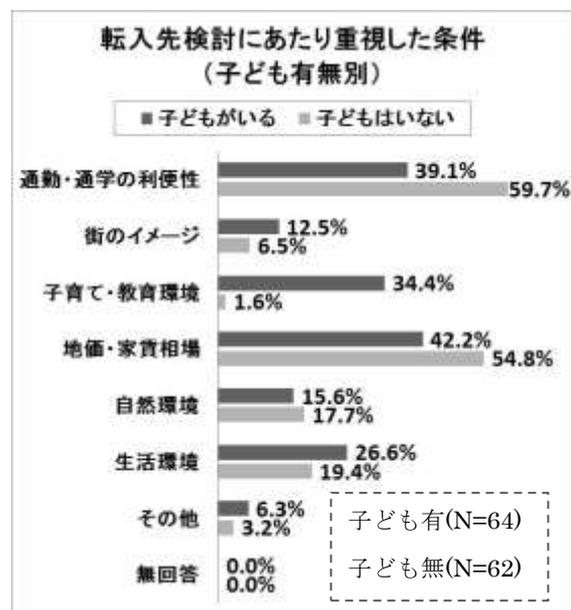
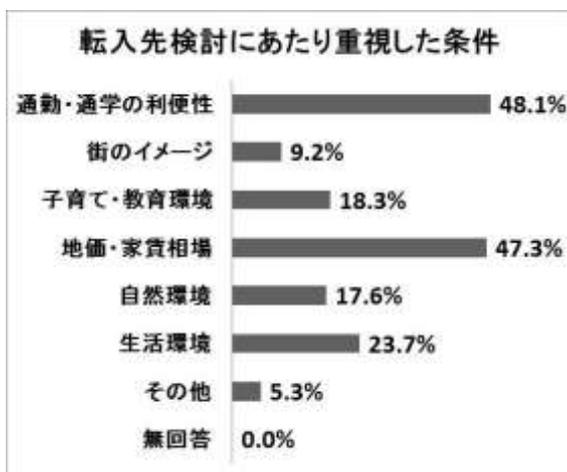
（N=131 問10で「他の市区町村も検討した」方が回答）

全体でみると、「通勤・通学の利便性」は48.1%で最も高く、次いで「地価・家賃相場」は47.3%。年齢区別にみると、「20～34歳」では「通勤・通学の利便性」をより重視する傾向があるが、「35～49歳」では「地価・家賃相場」をより重視する傾向が見られる。

子どもの有無別でみると、「子どもがいる」方は、「地価・家賃相場」42.2%、「通勤・通学の利便性」39.1%に次いで、「子育て・教育環境」が34.4%と高い割合を示している

「子どもはいない」方は、「通勤・通学の利便性」59.7%、「地価・家賃相場」54.8%が他の選択肢に比べて特に高い割合を示している。

「子育て・教育環境」については、子どもの有無により、割合に大きな差が見られた。



【1】転入者アンケート調査

問12 平塚市以外に検討した市区町村（※複数回答可）

（N=131 問10で「他の市区町村も検討した」方が回答）

平塚市以外に検討した市区町村の割合は、茅ヶ崎市が最も高く32.1%、次いで藤沢市22.1%、横浜市15.3%、秦野市13.0%、伊勢原市12.2%、大磯町10.7%と続いている。

・検討した市区町村（上位11位）

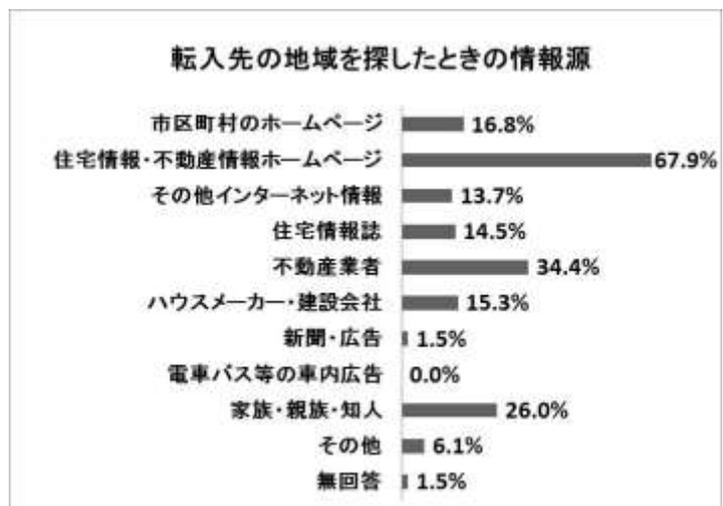
順位	市区町村	人数	割合
1	茅ヶ崎市	42	32.1%
2	藤沢市	29	22.1%
3	横浜市	20	15.3%
4	秦野市	17	13.0%
5	伊勢原市	16	12.2%
6	大磯町	14	10.7%
7	厚木市	12	9.2%
8	鎌倉市	8	6.1%
9	川崎市	5	3.8%
9	相模原市	5	3.8%
9	寒川町	5	3.8%

問13 転入先の地域を探したときの情報源（※複数回答可）

（N=131 問10で「他の市区町村も検討した」方が回答）

転入先の地域を探したときの情報源は、「住宅情報・不動産情報ホームページ」が67.9%で最も高く、次いで「不動産業者」が34.4%、「家族・親族・知人」が26.0%と続いている。「市区町村のホームページ」は16.8%に留まっている。

	転入先の情報源	総数	割合
転入先の 情報源	市区町村のホームページ	22	16.8%
	住宅情報・不動産情報ホームページ	89	67.9%
	その他インターネット情報	18	13.7%
	住宅情報誌	19	14.5%
	不動産業者	45	34.4%
	ハウスメーカー・建設会社	20	15.3%
	新聞・広告	2	1.5%
	電車バス等の車内広告	0	0.0%
	家族・親族・知人	34	26.0%
	その他	8	6.1%
	無回答	2	1.5%
	計	259	197.7%
		計(回答者数)	131



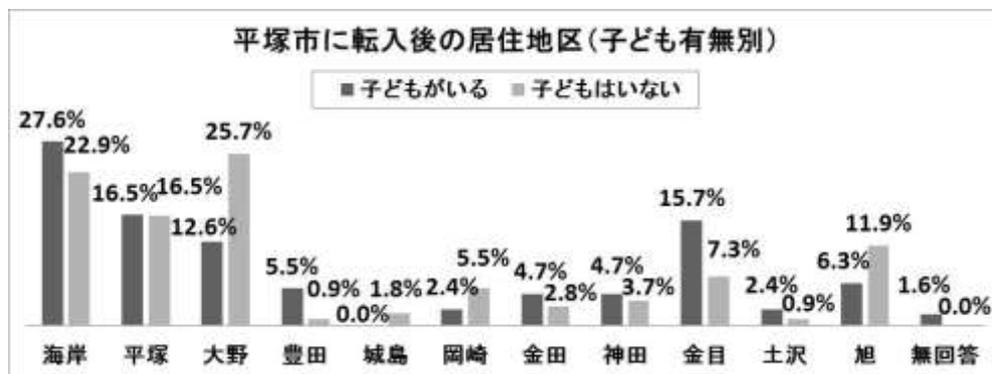
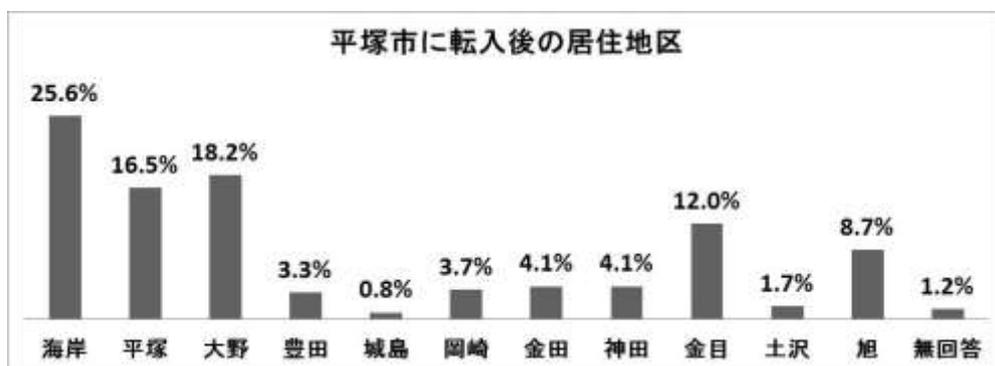
【1】転入者アンケート調査

問14 転入後の平塚市内の居住地区 (N=242 問10で「他の市区町村も検討した」及び「平塚市に決めていたので、他に検討しなかった」方が回答)

海岸地区が25.6%で最も高く、大野地区18.2%、平塚地区16.5%、金目地区12.0%、旭地区8.7%と続いている。

子どもの有無別でみると、「子どもがいる」方の地区別割合は、海岸地区で27.6%と最も高く、平塚地区16.5%、金目地区15.7%と続いております。「子どもはいない」と答えた方の地区別割合は、大野地区が25.7%で最も高く、海岸地区22.9%、平塚地区16.5%と続いております。

人口割合と比較すると、金目地区への「子どもがいる」方の転入割合が高いことがわかります。



子ども有無別
子ども有(N=127)
子ども無(N=109)

(参考) H27.7.1時点の人口の地区別比率と転入割合(N=242)

	地区	総人口	人口割合	転入割合
1	海岸	40,400	15.8%	25.6%
2	平塚	39,053	15.2%	16.5%
3	大野	57,352	22.4%	18.2%
4	豊田	5,388	2.1%	3.3%
5	城島	4,050	1.6%	0.8%
6	岡崎	9,270	3.6%	3.7%
7	金田	10,228	4.0%	4.1%
8	神田	24,085	9.4%	4.1%
9	金目	18,024	7.0%	12.0%
10	土沢	7,195	2.8%	1.7%
11	旭	41,366	16.1%	8.7%
	無回答			1.2%
	計	256,411	100.0%	100.0%

【1】転入者アンケート調査

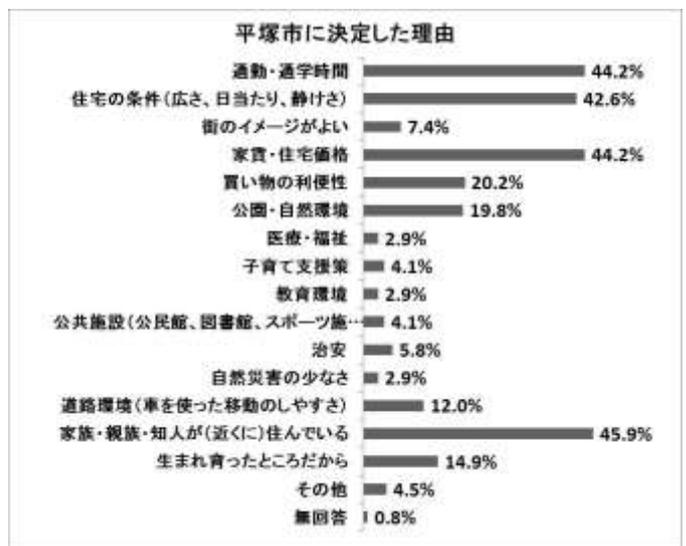
問15 転入先を平塚市に決めた理由 (N=242 問10で「他の市区町村も検討した」及び「平塚市に決めていたので、他に検討しなかった」方が回答) (※複数回答可)

全体では「家族・親族・知人が(近くに)住んでいる」が45.9%で最も高く、「通勤・通学時間」「家賃・住宅価格」が並んで44.2%、「住宅の条件(広さ、日当たり、静けさ)」が42.6%で続き、これら4つが高い割合を示している。

問11で、転入先の条件として重視するものとして「通勤・通学の利便性」、「地価・家賃相場」が高い割合となっていたが、決定理由としてもこれらが上位となっている。

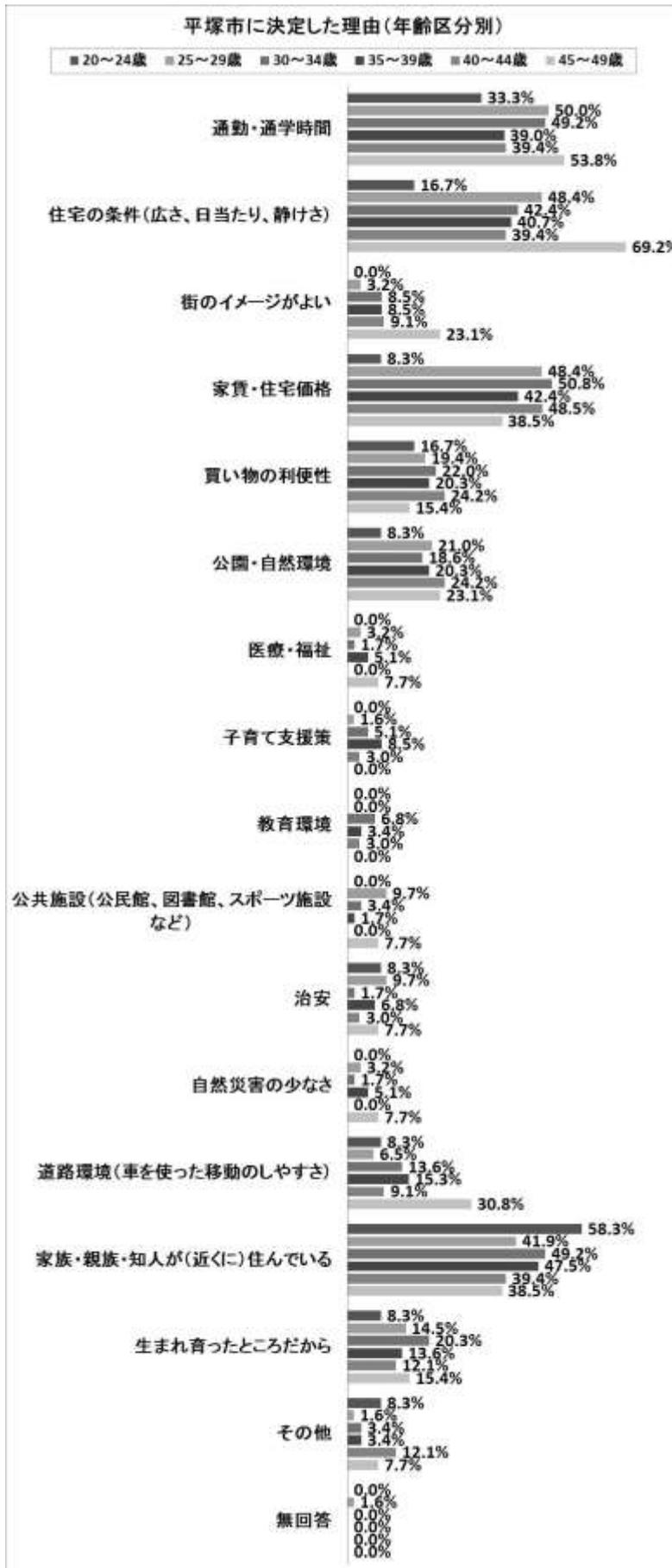
また、「子どもがいる」方は、問11で転入先として重視する条件として「通勤・通学の利便性」、「地価・家賃相場」のほか、「子育て・教育環境」が高い割合であったが、本市に決定した理由として、「子育て支援策」(6.3%)、「教育環境」(4.7%)は低い割合となった。

平塚市に決定した理由		総数	割合
決定理由	通勤・通学時間	107	44.2%
	住宅の条件(広さ、日当たり、静けさ)	103	42.6%
	街のイメージがよい	18	7.4%
	家賃・住宅価格	107	44.2%
	買い物の利便性	49	20.2%
	公園・自然環境	48	19.8%
	医療・福祉	7	2.9%
	子育て支援策	10	4.1%
	教育環境	7	2.9%
	公共施設(公民館、図書館、スポーツ施設など)	10	4.1%
	治安	14	5.8%
	自然災害の少なさ	7	2.9%
	道路環境(車を使った移動のしやすさ)	29	12.0%
	家族・親族・知人が(近くに)住んでいる	111	45.9%
	生まれ育ったところだから	36	14.9%
	その他	11	4.5%
	無回答	2	0.8%
計(回答総数)	676	279.3%	
回答者数	242		



子ども有無別
 子ども有(N=127)
 子ども無(N=109)

【1】転入者アンケート調査



年齢区分別
 20~24歳(N=12)
 24~29歳(N=62)
 30~34歳(N=59)
 35~39歳(N=59)
 40~44歳(N=33)
 45~49歳(N=13)

【1】 転入者アンケート調査

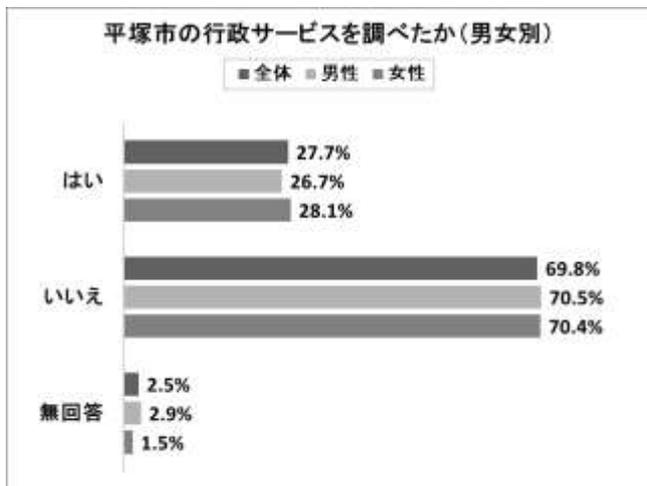
問16 転入先を平塚市に決めるにあたり、平塚市の行政サービスを調べたか。

(N=242 問10で「他の市区町村も検討した」及び「平塚市に決めていたので、他に検討しなかった」方が回答)

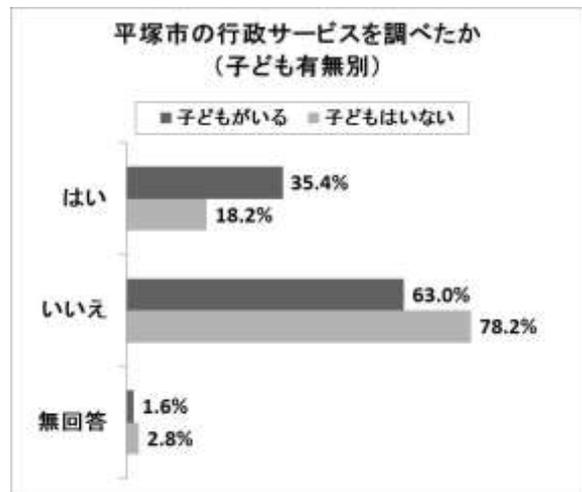
全体では「はい」が27.7%、「いいえ」が69.8%となっている。

年齢区分別でみると、「はい」と答えた方は、「20～24歳」が0.0%で最も低く、「35～39歳」が35.6%で最も高かった。

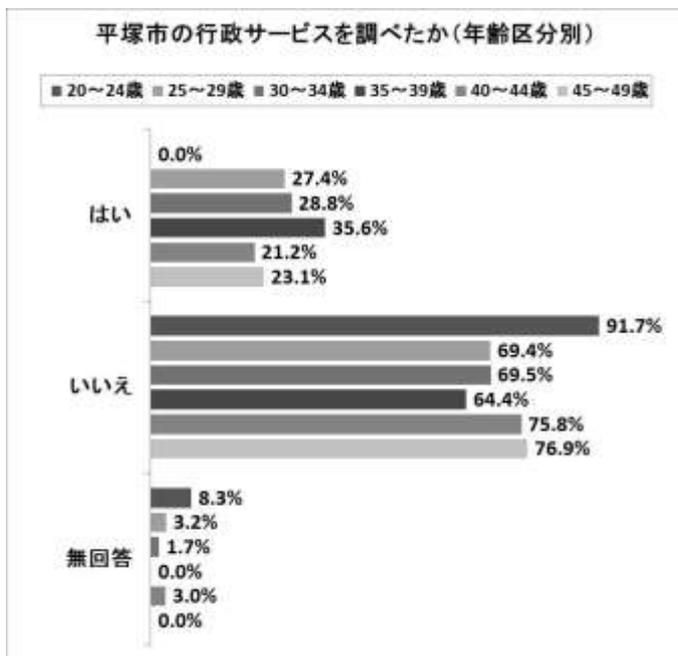
子どもの有無別でみると、「はい」と答えた方は、「子どもがいる」方が3人に1人、「子どもはいない」方で約5人に1人であり、「子どもがいる」方のほうが行政サービスを調べる傾向にあることがわかった。



男女別
男性(N=105) 女性(N=135)



子ども有無別
子ども有(N=127) 子ども無(N=109)



年齢区分別
20～24歳(N=12)
24～29歳(N=62)
30～34歳(N=59)
35～39歳(N=59)
40～44歳(N=33)
45～49歳(N=13)

【1】転入者アンケート調査

問17 転入前と現在の住居の種類

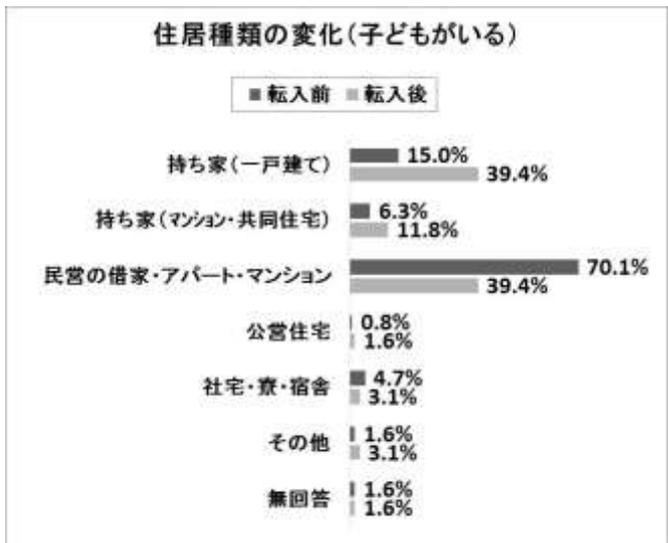
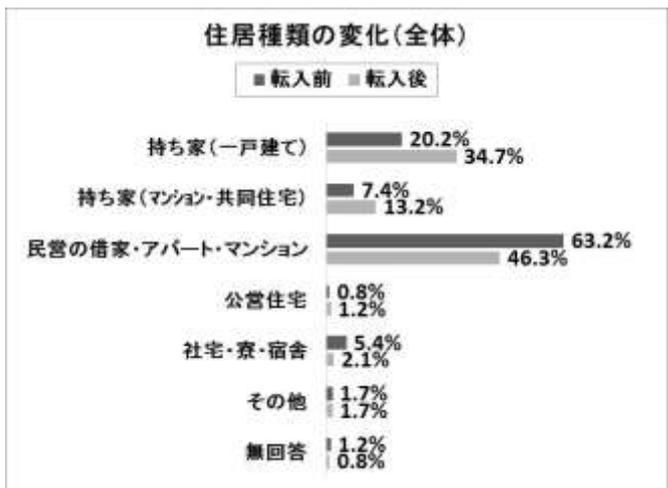
(N=242 問10で「他の市区町村も検討した」及び「平塚市に決めていたので、他に検討しなかった」方が回答)

転入前後の住居の割合の変化は、「持ち家（一戸建て）」が転入前 20.2%から転入後 34.7%へ、「持ち家（マンション・共同住宅）」が転入前 7.4%から転入後 13.2%、「民営の借家・アパート・マンション」が転入前 63.2%から転入後 46.3%となっており、一戸建てとマンション等を合わせた持ち家の割合は、転入前 27.6%から転入後 47.9%に高まっている。

年齢区別にみると、30代、40代で、特に持ち家の割合が高まっている。

子どもの有無別にみると、「子どもはいない」方は転入前後であまり変化が見られないが、「子どもがいる」方は、「持ち家（一戸建て）」が転入前 15.0%から転入後 39.4%、「持ち家（マンション・共同住宅）」が転入前 6.3%から転入後 11.8%、「民営の借家・アパート・マンション」が転入前 70.1%から転入後 39.4%となっており、持ち家の割合、特に一戸建ての割合が高まっている。

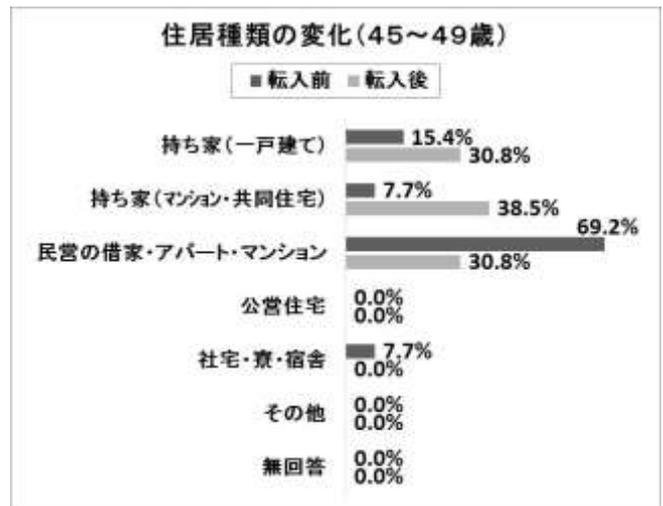
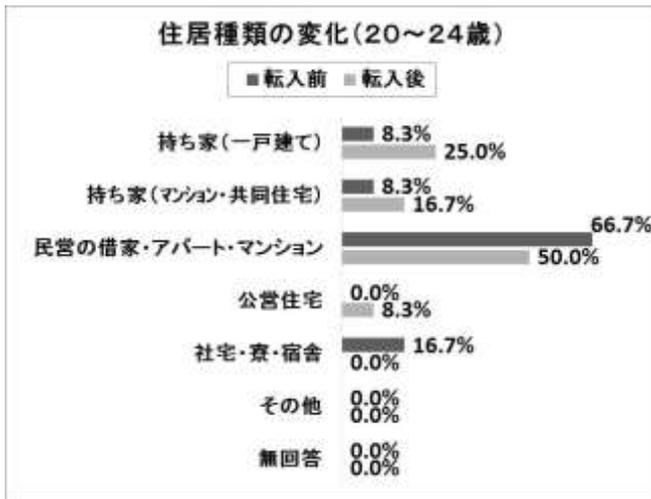
住居種類	転入前	転入後	転入前	転入後
持ち家(一戸建て)	49	84	20.2%	34.7%
持ち家(マンション・共同住宅)	18	32	7.4%	13.2%
民営の借家・アパート・マンション	153	112	63.2%	46.3%
公営住宅	2	3	0.8%	1.2%
社宅・寮・宿舍	13	5	5.4%	2.1%
その他	4	4	1.7%	1.7%
無回答	3	2	1.2%	0.8%
計	242	242	100.0%	100.0%



子ども有無別

子ども有(N=127) 子ども無(N=109)

【1】転入者アンケート調査



年齢区分別
 20～24歳(N=12) 24～29歳(N=62) 30～34歳(N=59)
 35～39歳(N=59) 40～44歳(N=33) 45～49歳(N=13)

【1】転入者アンケート調査

問18 転入前と現在の世帯構成

(N=242 問10で「他の市区町村も検討した」及び「平塚市に決めていたので、他に検討しなかった」方が回答)

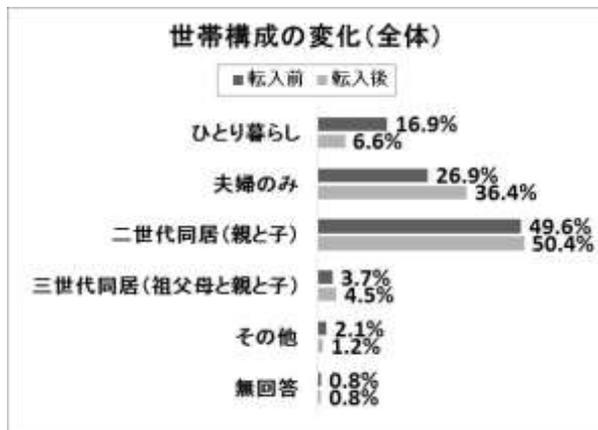
転入前後の割合の変化は、「ひとり暮らし」が転入前 16.9%から転入後 6.6%、「夫婦のみ」が転入前 26.9%から転入後 36.4%、「二世帯同居(親と子)」が転入前 49.6%から転入後 50.4%となっており、「ひとり暮らし」の割合が減少し、「夫婦のみ」の割合が高まっている。

男女別にみると、男性は「ひとり暮らし」が転入前 18.1%から転入後 11.4%、「夫婦のみ」が転入前 25.7%から転入後 34.3%となり、一人暮らしの割合が減少し夫婦のみの割合が高まっている、女性についても、「ひとり暮らし」が転入前 15.6%から転入後 2.2%、「夫婦のみ」が転入前 27.4%から転入後 38.5%と同様の傾向を示している。

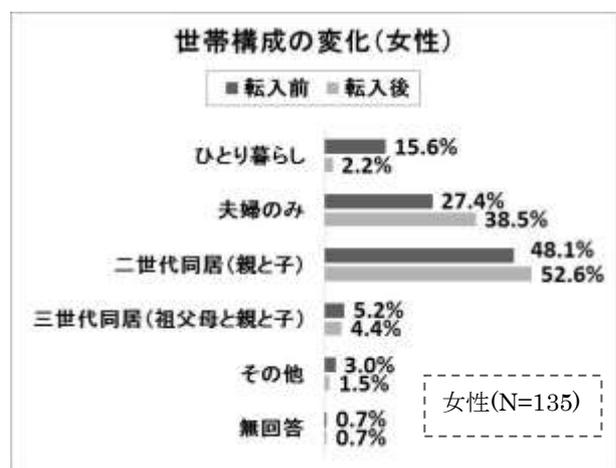
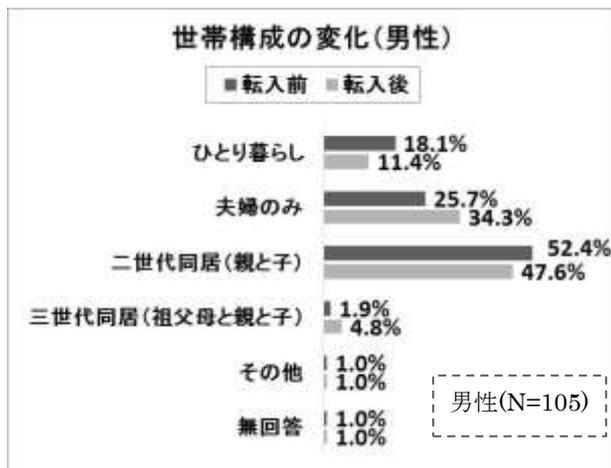
年齢区分別にみると、全体的な傾向としては、一人暮らしの割合が減少し、夫婦の割合の増加が見られる。

子どもの有無別でみると、「子どもがいる」方は、「夫婦のみ」が転入前 24.4%から転入後 7.9%と大きく減少し、「二世帯同居(親と子)」が転入前 63.8%から転入後 83.5%、「三世帯同居(祖父母と親と子)」が転入前 3.9%から転入後 6.3%と割合が高まっている。

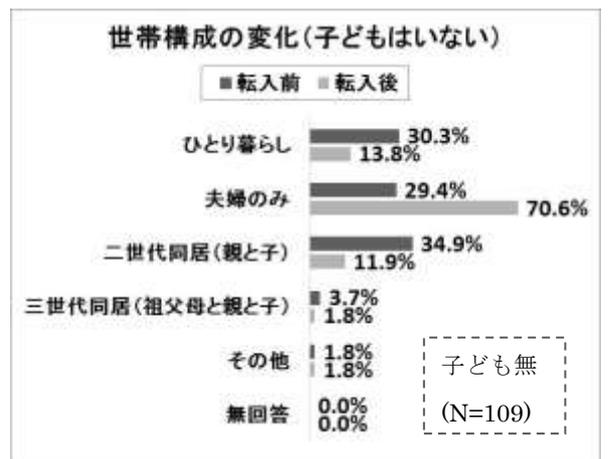
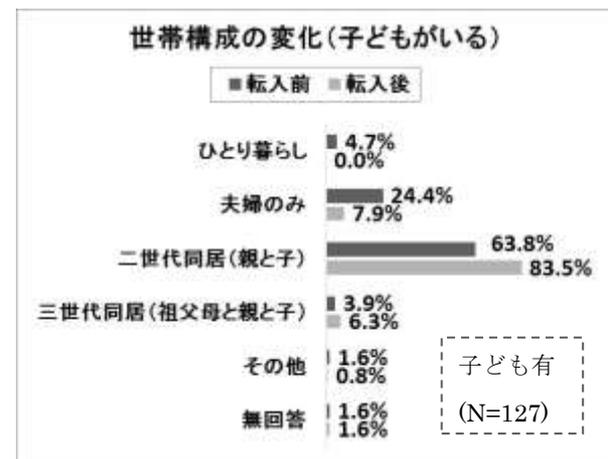
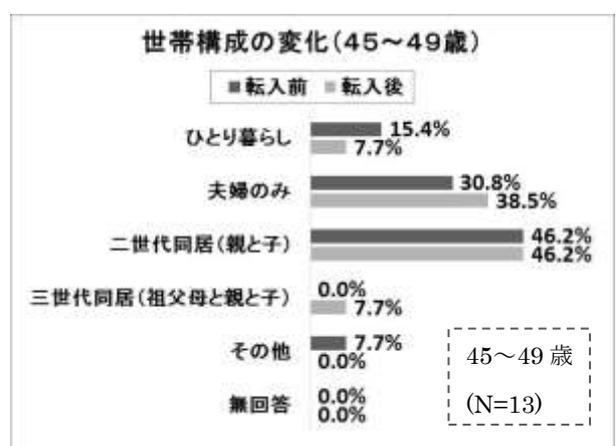
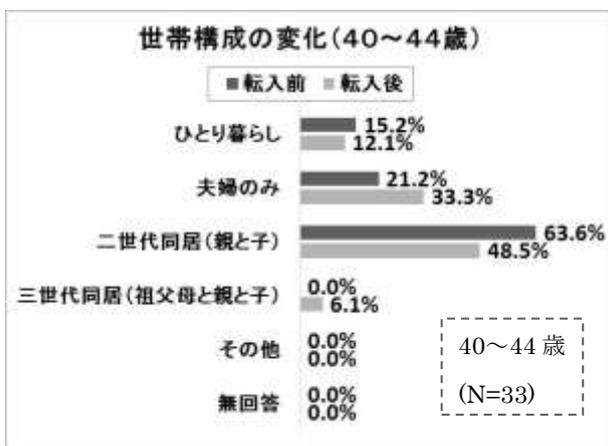
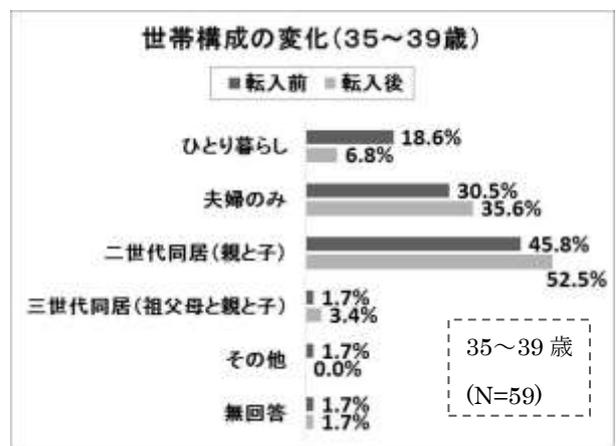
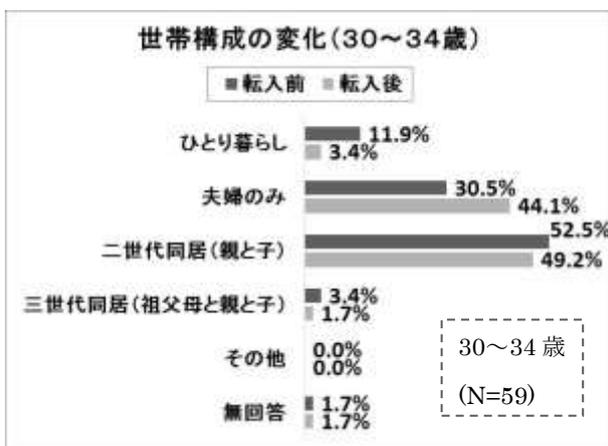
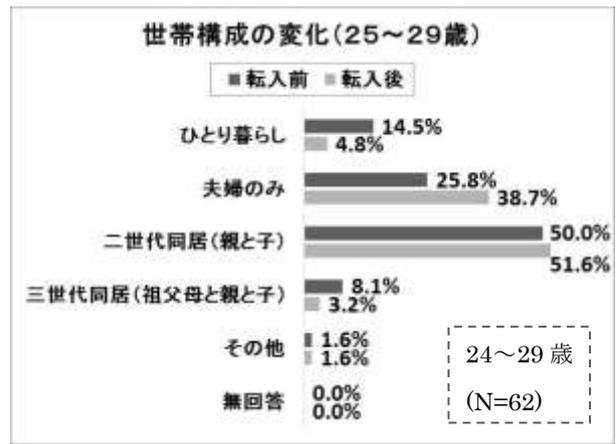
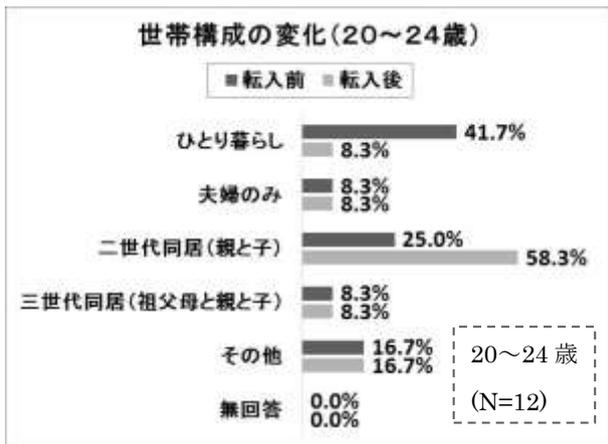
「子どもはいない」方は、「一人暮らし」が転入前 30.3%から転入後 13.8%、「二世帯同居(親と子)」が転入前 34.9%から転入後 11.9%とそれぞれ減少し、「夫婦のみ」が転入前 29.4%から転入後 70.6%と割合が高まっている。



世帯構成	集計		割合	
	転入前	転入後	転入前	転入後
ひとり暮らし	41	16	16.9%	6.6%
夫婦のみ	65	88	26.9%	36.4%
二世帯同居(親と子)	120	122	49.6%	50.4%
三世帯同居(祖父母と親と子)	9	11	3.7%	4.5%
その他	5	3	2.1%	1.2%
無回答	2	2	0.8%	0.8%
計	242	242		



【1】 転入者アンケート調査



【1】転入者アンケート調査

問19 転入前と現在で通勤・通学場所が変わったか

(N=340 以降全員が回答) ※主たる家計を支える方の勤務場所

全体では、通勤・通学場所が「変わった」が21.8% (N=74)、「変わっていない」が65.0% (N=221)、「通勤・通学していない」が11.8%(N=40)となっている。転入前後で通勤・通学場所が変わった方は2割程度という結果となった。

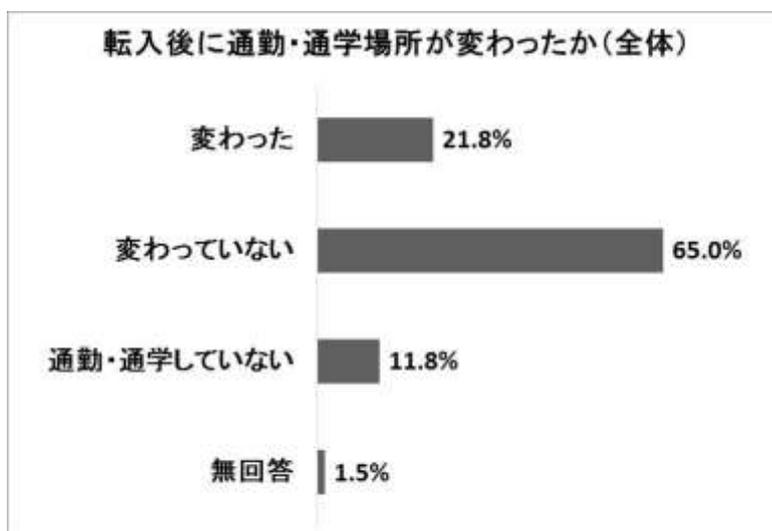
通勤・通学先は、神奈川県内が76.3%、東京都内が19.0%であり、市区町村別では平塚市が28.5%で最も高く、以下、横浜市10.5%、伊勢原市5.4%、厚木市4.7%、東京都港区4.7%、藤沢市4.4%、茅ヶ崎市4.1%、秦野市3.7%、東京都品川区2.7%と続いている。

「変わった」方の現在の通勤・通学地をみると、神奈川県内が93.2%、東京都内が2.7%であり、ほとんどが県内への通勤・通学である。市区町村別にみると、平塚市が50.0%と最も高く、以下、横浜市8.1%、伊勢原市6.8%、藤沢市4.1%、茅ヶ崎市4.1%、秦野市4.1%、厚木市4.1%と続いている。

「変わっていない」方の通勤・通学先をみると、神奈川県内が70.6%、東京都内が24.4%であり、「変わった」方にくらべ東京圏への通勤の割合が高い。市区町村別でみると、平塚市が最も高く21.3%、次いで横浜市11.3%、東京都港区5.4%、厚木市5.0%、伊勢原市5.0%、藤沢市4.5%、茅ヶ崎市4.1%、秦野市3.6%、東京都品川区3.6%、川崎市2.7%、東京都千代田区2.7%と続いている。

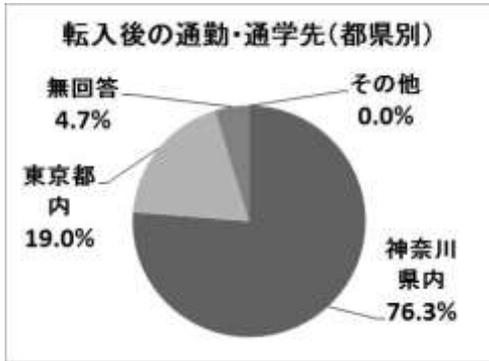
問15で「通勤・通学時間」が本市に転入を決定した理由の上位であったように、本市に通勤・通学している方が比較的高い割合を示し、また、鉄道や車などで比較的通いやすい場所が通勤・通学地となっていることがわかる。

設問	選択肢	総数	割合
通勤・通学場所の変更の有無	変わった	74	21.8%
	変わっていない	221	65.0%
	通勤・通学していない	40	11.8%
	無回答	5	1.5%
	計	340	100.0%



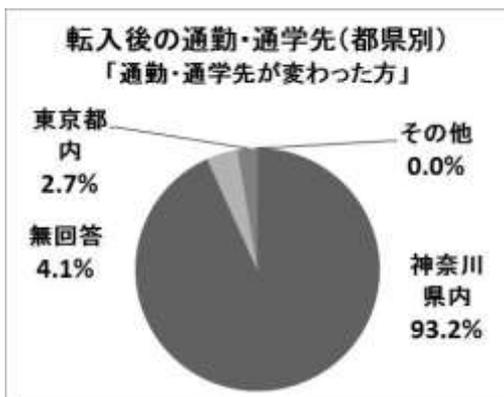
【1】転入者アンケート調査

・現在の通勤・通学先（都県別、市区町村別）（N = 295）



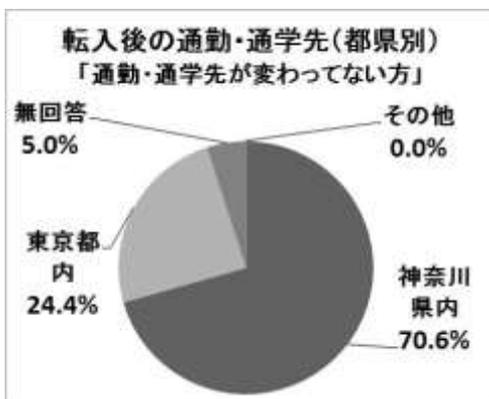
順位	市区町村	総数	割合	順位	市区町村	総数	割合
1	平塚市	84	28.5%	20	横須賀市	2	0.7%
2	横浜市	31	10.5%	20	大和市	2	0.7%
3	無回答	19	6.4%	20	綾瀬市	2	0.7%
4	伊勢原市	16	5.4%	20	寒川町	2	0.7%
5	厚木市	14	4.7%	20	新宿区	2	0.7%
5	港区	14	4.7%	20	文京区	2	0.7%
7	藤沢市	13	4.4%	20	世田谷区	2	0.7%
8	茅ヶ崎市	12	4.1%	20	渋谷区	2	0.7%
9	秦野市	11	3.7%	28	逗子市	1	0.3%
10	品川区	8	2.7%	28	中井町	1	0.3%
11	川崎市	7	2.4%	28	松田町	1	0.3%
12	相模原市	6	2.0%	28	箱根町	1	0.3%
12	千代田区	6	2.0%	28	愛川町	1	0.3%
12	小田原市	6	2.0%	28	台東区	1	0.3%
15	鎌倉市	5	1.7%	28	中野区	1	0.3%
15	海老名市	5	1.7%	28	豊島区	1	0.3%
15	中央区	5	1.7%	28	江戸川区	1	0.3%
18	大田区	3	1.0%	28	立川市	1	0.3%
18	江東区	3	1.0%	28	調布市	1	0.3%

・「通勤・通学先が変わった方（N = 74）」の現在の通勤・通学先（都県別、市区町村別）



順位	市区町村	総数	割合
1	平塚市	37	50.0%
2	横浜市	6	8.1%
3	伊勢原市	5	6.8%
4	藤沢市	3	4.1%
4	茅ヶ崎市	3	4.1%
4	秦野市	3	4.1%
4	厚木市	3	4.1%
4	無回答	3	4.1%
9	鎌倉市	2	2.7%
9	港区	2	2.7%
11	川崎市	1	1.4%
11	相模原市	1	1.4%
11	横須賀市	1	1.4%
11	小田原市	1	1.4%
11	逗子市	1	1.4%
11	海老名市	1	1.4%
11	寒川町	1	1.4%

・「通勤・通学先が変わってない方（N = 221）」の現在の通勤・通学先（都県別、市区町村別）



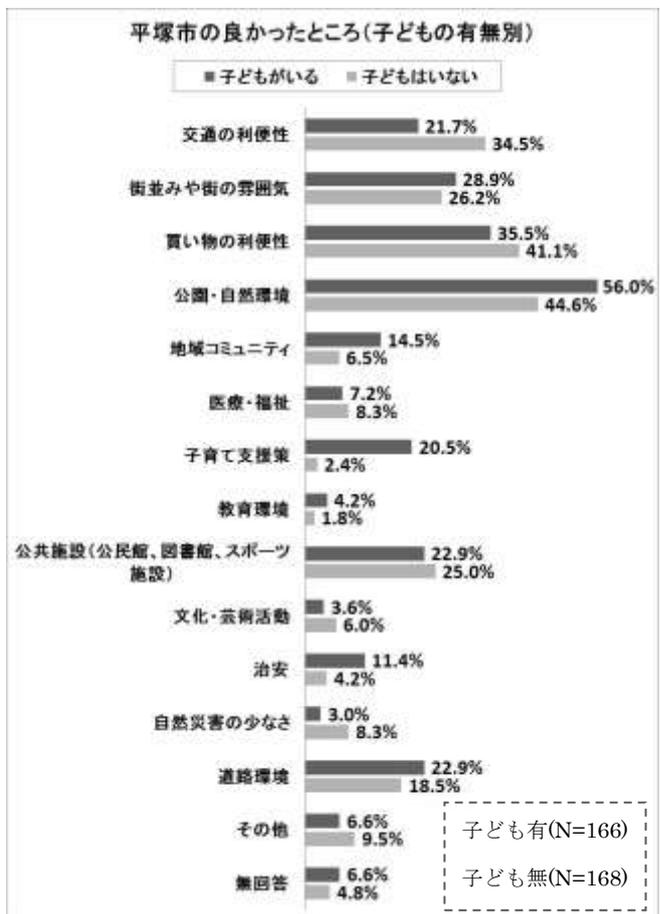
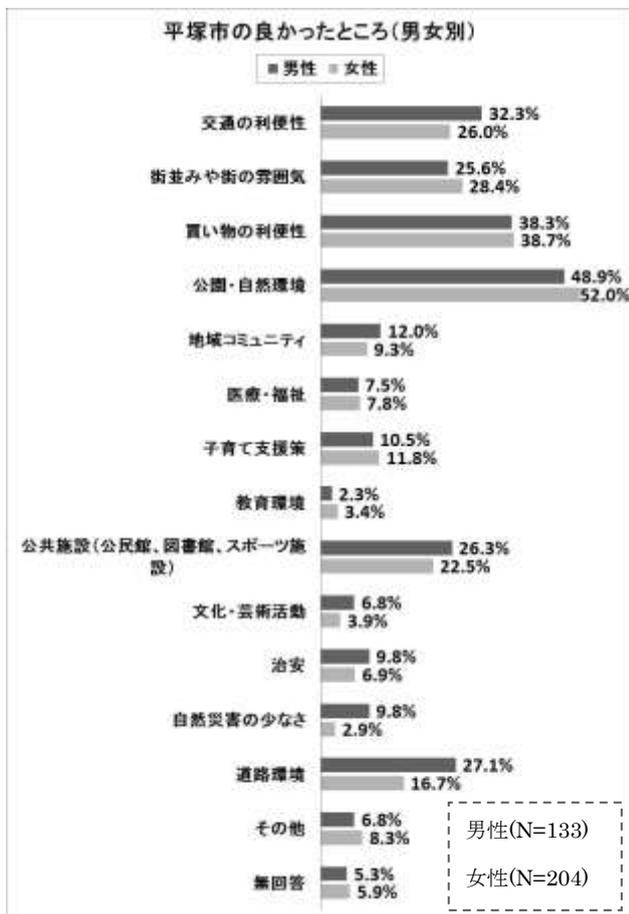
順位	市区町村	総数	割合	順位	市区町村	総数	割合
1	平塚市	47	21.3%	20	大和市	2	0.9%
2	横浜市	25	11.3%	20	綾瀬市	2	0.9%
3	無回答	16	7.2%	20	新宿区	2	0.9%
4	港区	12	5.4%	20	文京区	2	0.9%
5	厚木市	11	5.0%	20	世田谷区	2	0.9%
5	伊勢原市	11	5.0%	20	渋谷区	2	0.9%
7	藤沢市	10	4.5%	26	横須賀市	1	0.5%
8	茅ヶ崎市	9	4.1%	26	寒川町	1	0.5%
9	秦野市	8	3.6%	26	中井町	1	0.5%
9	品川区	8	3.6%	26	松田町	1	0.5%
11	川崎市	6	2.7%	26	箱根町	1	0.5%
11	千代田区	6	2.7%	26	愛川町	1	0.5%
13	相模原市	5	2.3%	26	台東区	1	0.5%
13	小田原市	5	2.3%	26	中野区	1	0.5%
13	中央区	5	2.3%	26	豊島区	1	0.5%
16	海老名市	4	1.8%	26	江戸川区	1	0.5%
17	鎌倉市	3	1.4%	26	立川市	1	0.5%
17	江東区	3	1.4%	26	調布市	1	0.5%
17	大田区	3	1.4%				

【1】 転入者アンケート調査

問20 平塚市に住んでみて良かったところ (※複数回答可)

全体でみると「公園・自然環境」が50.6%で最も高く、以下、「買い物の利便性」38.2%、「交通の利便性」28.5%、「街並みや街の雰囲気」27.1%、「公共施設（公民館、図書館、スポーツ施設など）」24.1%と続いている。「公園・自然環境」は、男女別、年齢区分別、子どもの有無別のいずれにおいても高い割合を示している。

	印象(良かったところ)	総数	割合
印象(良かったところ)	交通の利便性	97	28.5%
	街並みや街の雰囲気	92	27.1%
	買い物の利便性	130	38.2%
	公園・自然環境	172	50.6%
	地域コミュニティ	35	10.3%
	医療・福祉	27	7.9%
	子育て支援策	38	11.2%
	教育環境	10	2.9%
	公共施設(公民館、図書館、スポーツ施設)	82	24.1%
	文化・芸術活動	17	5.0%
	治安	27	7.9%
	自然災害の少なさ	19	5.6%
	道路環境	70	20.6%
	その他	27	7.9%
	無回答	20	5.9%
	計	863	-
	計(回答者数)	340	-



【1】 転入者アンケート調査

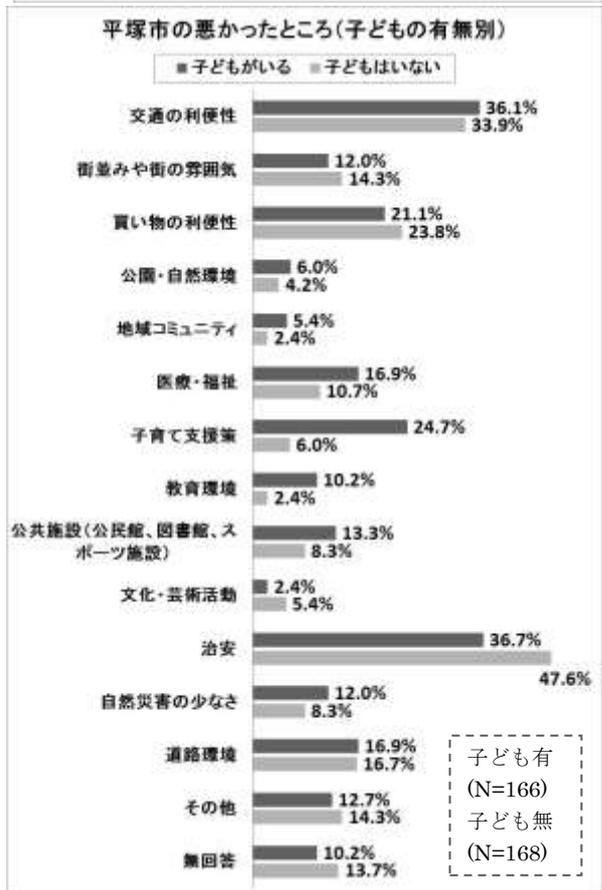
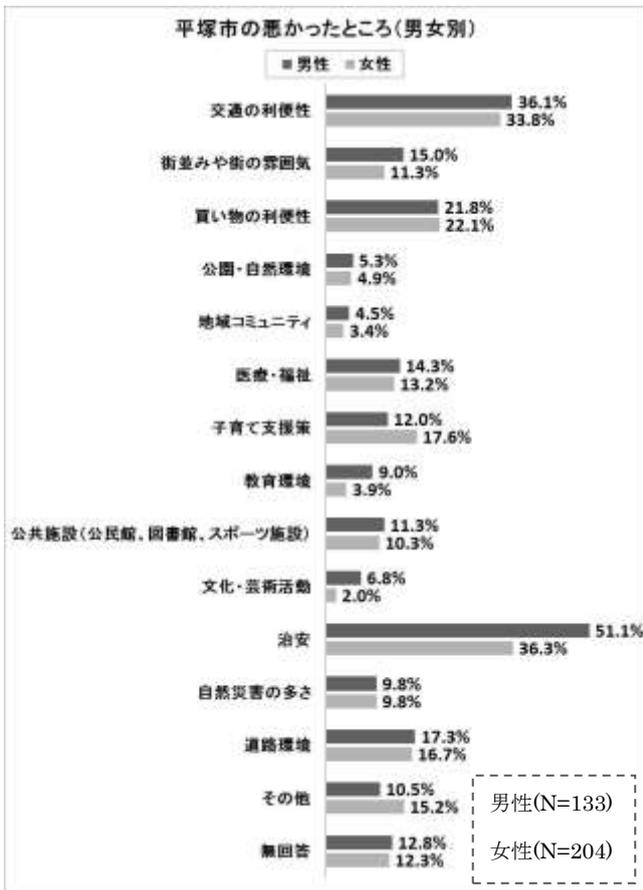
問20 平塚市に住んでみて悪かったところ (※複数回答可)

全体でみると「治安」が42.1%で最も高く、以下、「交通の利便性」34.4%、「買い物の利便性」22.1%、道路環境17.1%と続いている。

男女別にみると、「治安」を選択した割合は、男性が51.1%、女性が36.3%となっており、女性よりも男性の方が、平塚市の治安が悪いと感じていることがわかる。

「治安」は、男女別、年齢区分別、子どもの有無別のいずれにおいても高い割合を示している。

印象(悪かったところ)		総数	割合
印象(悪かったところ)	交通の利便性	117	34.4%
	街並みや街の雰囲気	45	13.2%
	買い物の利便性	75	22.1%
	公園・自然環境	17	5.0%
	地域コミュニティ	13	3.8%
	医療・福祉	46	13.5%
	子育て支援策	52	15.3%
	教育環境	22	6.5%
	公共施設(公民館、図書館、スポーツ施設)	36	10.6%
	文化・芸術活動	13	3.8%
	治安	143	42.1%
	自然災害の多さ	34	10.0%
	道路環境	58	17.1%
	その他	45	13.2%
	無回答	43	12.6%
計	759	-	
計(回答者数)	340	-	



【1】 転入者アンケート調査

問21 転入前の平塚市のイメージ（自由記載）

回答をキーワードごとに分割・分類したところ、「無回答」が35.9%で最も高く、以下、「治安」24.1%、「自然環境・景観」15.3%、「七夕まつり」11.2%と続く。

「治安」に関しては、ネガティブなイメージがほとんどであった。「自然環境・景観」については、田舎、海、自然が多いといったイメージがあげられているが、田舎については、回答者によって、ポジティブ・ネガティブそれぞれの捉え方が見られた。

「特になし」と「無回答」を合わせると、全体の40%を超えることから、転入前に本市のイメージをつかめていない方がかなり多くいることが分かった。また、市外の方にとっては、「七夕まつり」、「湘南」、「ベルマーレ」、「囲碁」といった本市の特色であるキーワードに関するイメージが比較的少なく、「治安」に関する否定的なイメージが多いという結果となった。

・転入前のイメージ意見

順位	分類	意見数	割合
1	無回答	122	35.9%
2	治安	82	24.1%
3	自然環境・景観	52	15.3%
4	七夕まつり	38	11.2%
5	その他	29	8.5%
6	交通・道路環境	27	7.9%
7	生活環境	23	6.8%
8	特になし	18	5.3%
9	街の景観	15	4.4%
10	ベルマーレ	13	3.8%
11	湘南	10	2.9%
12	子育て環境	7	2.1%
13	自然災害	3	0.9%
13	競輪	3	0.9%
15	教育環境	2	0.6%
16	囲碁	1	0.3%
16	ベ이스ターズ	1	0.3%
	意見数	446	
	回答者数	340	

【1】 転入者アンケート調査

問22 転入後の平塚市のイメージ（自由記載）

回答をキーワードごとに分割・分類したところ、「無回答」が38.2%で最も高く、以下、「生活環境」17.4%、「交通・道路環境」12.6%、「治安」12.4%、「自然環境・景観」11.2%、「街の景観」9.4%と続く。

「生活環境」、「自然環境・景観」、「子育て環境」では、「住みやすい」、「子育てしやすい」、「住むには良い」などの表現が多く見られた。「交通・道路環境」、「治安」、「街の景観」に関しては否定的な意見が多く見られた。

「特になし」と「無回答」を合わせると、全体の40%近くになることから、転入後もなお本市のイメージをつかめていない方がかなり多くいることがわかった。また、「七夕まつり」、「湘南」、「ベルマーレ」、「囲碁」といった本市の特色であるキーワードに関するイメージは、転入前と同様に少ない結果となった。

・ 転入後のイメージ意見

順位	分類	意見数	割合
1	無回答	130	38.2%
2	生活環境	59	17.4%
3	交通・道路環境	43	12.6%
4	治安	42	12.4%
5	自然環境・景観	38	11.2%
6	街の景観	32	9.4%
7	子育て環境	21	6.2%
8	その他	20	5.9%
9	七夕まつり	10	2.9%
10	特になし	5	1.5%
11	ベルマーレ	2	0.6%
11	自然災害	2	0.6%
13	湘南	1	0.3%
13	囲碁	1	0.3%
13	ベ이스ターズ	1	0.3%
-	競輪	0	0.0%
-	教育環境	0	0.0%
	意見数	407	
	回答者数	340	

転出者アンケート調査結果の概要

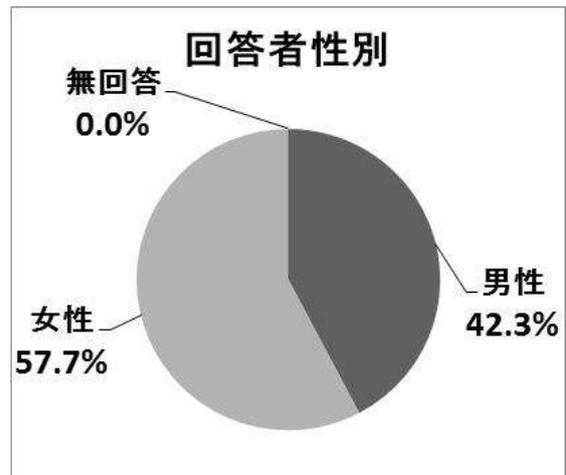
【2】転出者アンケート調査

○回答者の属性

問1 性別

回答者 317 人を、男女別にみると、男性は 42.3%、女性は 57.7%、無回答は 0.0%であった。

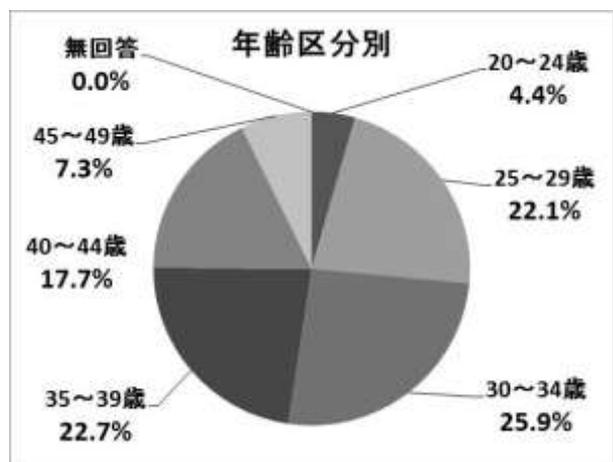
設問	選択肢	総数	割合
性別	男性	134	42.3%
	女性	183	57.7%
	無回答	0	0.0%
	計	317	100.0%



問2 年齢

回答者を年齢区分別でみると、「20～24歳」は 4.4%、「25～29歳」は 22.1%、「30～34歳」は 25.9%、「35～39歳」は 22.7%、「40～44歳」は 17.7%、「45～49歳」は 7.3%であり、20代は 26.5%、30代は 48.6%、40代は 24.9%という結果であった。

設問	選択肢	総数	割合
年代	20～24歳	14	4.4%
	25～29歳	70	22.1%
	30～34歳	82	25.9%
	35～39歳	72	22.7%
	40～44歳	56	17.7%
	45～49歳	23	7.3%
	無回答	0	0.0%
	計	317	100.0%

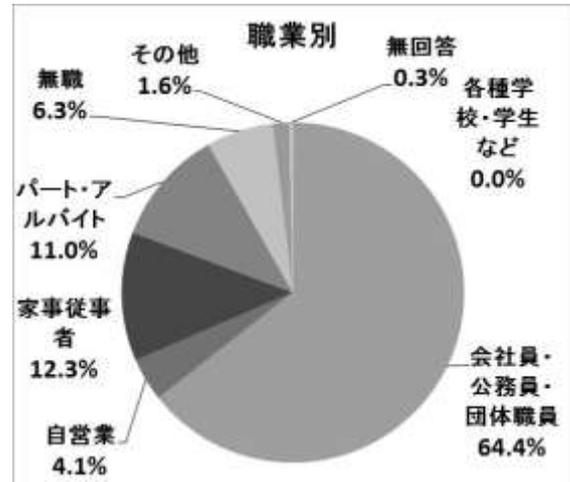


【2】 転出者アンケート調査

問3 職業等

職業別にみると、「会社員・公務員・団体職員」は64.4%で最も高い割合となっている。

設問	選択肢	総数	割合
職業	各種学校・学生など	0	0.0%
	会社員・公務員・団体職員	204	64.4%
	自営業	13	4.1%
	家事従事者	39	12.3%
	パート・アルバイト	35	11.0%
	無職	20	6.3%
	その他(記述)	5	1.6%
	無回答	1	0.3%
	計	317	100.0%



問4 同居の子ども的人数

同居の子ども的人数別にみると、「1人」と答えた方は26.2%、以下「2人」11.4%、「3人」3.2%、「4人」0.6%、「5人以上」0.3%、「子どもはいない」と答えた方は57.7%、無回答は0.6%であった。同居の子どもがいる方は合わせて41.6%であった。

設問	子ども的人数	総数	割合
同居の子ども的人数	1人	83	26.2%
	2人	36	11.4%
	3人	10	3.2%
	4人	2	0.6%
	5人以上	1	0.3%
	子どもはいない	183	57.7%
	無回答	2	0.6%
	計	317	100.0%

設問	子どもの有無	総数	割合
同居の子どもの有無	子どもがいる(1人~5人)	132	41.6%
	子どもはいない	183	57.7%
	無回答	2	0.6%
	計	317	100.0%

【2】 転出者アンケート調査

問5 子どもの年代別 (※複数回答可)

問4で子どもがいると答えた方のうち、子どもを年代別にみると、「就学前」は78.0%、「小学生」は26.5%、「中学生」は6.1%であった。調査対象の年代を20から49歳としたことから、就学前の子どもの割合が高い結果となったと考えられる。

設問	選択肢	総数	割合
同居の子ども (※複数回答)子ども の人数回答者が母数	就学前	103	78.0%
	小学生	35	26.5%
	中学生	8	6.1%
	高校生	6	4.5%
	専門学校・短大・大学・大学院など	3	2.3%
	既に学校教育終了	2	1.5%
	その他	0	0.0%
	無回答	1	0.8%
	計(回答総数)	158	-
	回答者数(子どもがいる方)	132	

問6 転出前の平塚市の居住地区

海岸地区が20.2%で最も高く、平塚地区17.7%、大野地区17.0%、旭地区12.9%、神田地区9.5%と続いている。

子どもの有無別でみると、「子どもがいる」方の地区別割合は、海岸地区で23.5%と多く、平塚地区22.7%、大野地区15.2%と続いております。「子どもはいない」方の地区別割合は、大野地区が18.6%で最も高く、海岸地区18.0%、旭地区15.3%と続いております。

設問	選択肢	総数	割合
転出前居住地区	海岸	64	20.2%
	平塚	56	17.7%
	大野	54	17.0%
	豊田	10	3.2%
	城島	5	1.6%
	岡崎	12	3.8%
	金田	18	5.7%
	神田	30	9.5%
	金目	17	5.4%
	土沢	8	2.5%
	旭	41	12.9%
	無回答	2	0.6%
	計	317	100.0%

子ども有無別
子ども有(N=132)
子ども無(N=183)



【2】 転出者アンケート調査

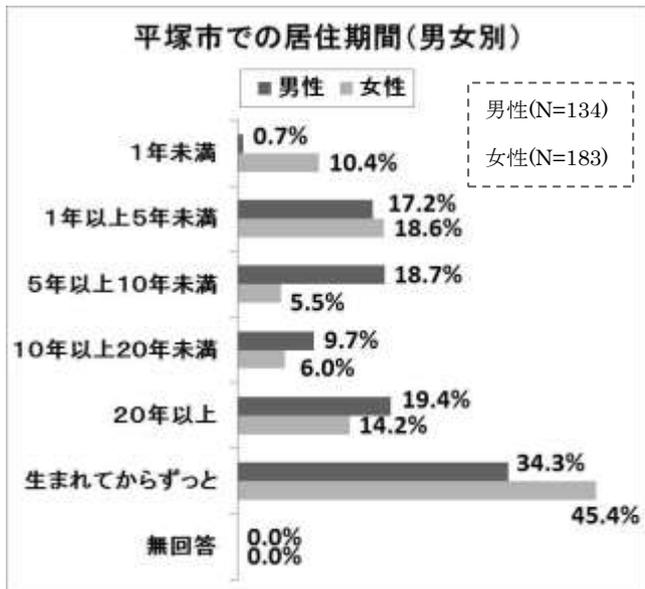
問7 転出までの平塚市での居住期間

「生まれてからずっと」が40.7%で最も高く、次いで、「1年以上5年未満」が18.0%、「20年以上」が16.4%、「5年以上10年未満」が11.0%で続いている。また、10年以上居住している方が全体の64.6%、5年未満で転出となった方は全体の24.3%であった。

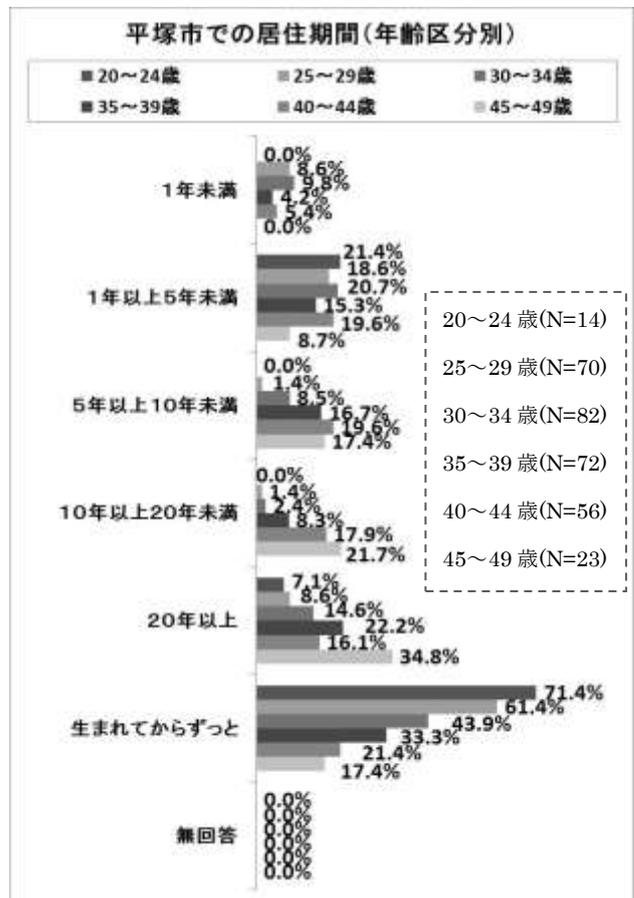
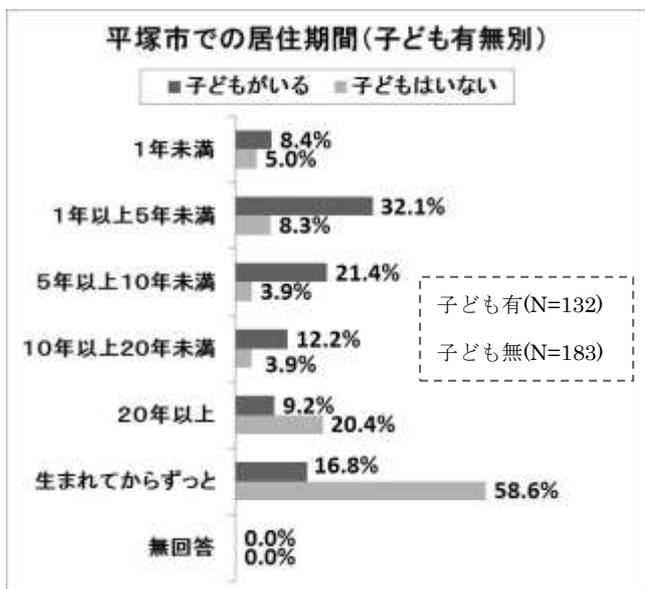
男女別にみると、女性で「生まれてからずっと」と答えた方は45.4%で、男性34.3%よりも高い割合であった。

年齢区分別にみると、年齢が進むにしたがって、「生まれてからずっと」の割合が低下しており、「20～24歳」では71.4%と高い割合を示すが、「45～49歳」では17.4%となっている。

子どもの有無別でみると、「子どもがいる」方は、10年未満の居住が61.4%で、「生まれてからずっと」、「20年以上」をあわせた平塚市に長く居住した方の割合は25.7%であった。「子どもはいない」方は、10年未満の居住が16.9%であり、「生まれてからずっと」、「20年以上」をあわせた平塚市に長く居住した人の割合は79.2%と高い割合を示している。



設問	選択肢	総数	割合
居住年数	1年未満	20	6.3%
	1年以上5年未満	57	18.0%
	5年以上10年未満	35	11.0%
	10年以上20年未満	24	7.6%
	20年以上	52	16.4%
	生まれてからずっと	129	40.7%
	無回答	0	0.0%
計		317	100.0%

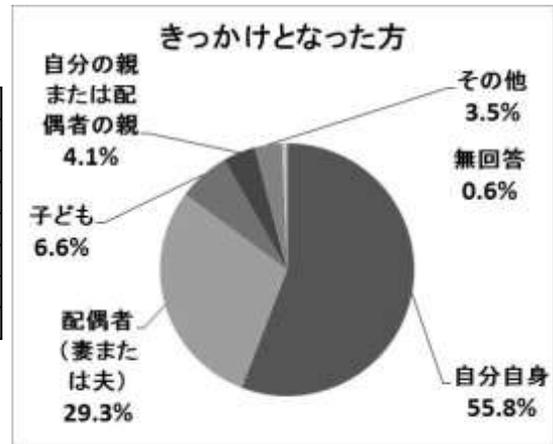


【2】 転出者アンケート調査

問8 転出するきっかけとなった方

他市区町村へ転出するきっかけとなった方について、「自分自身」が最も高く 55.8%、次いで配偶者が 29.3%であった。

	選択肢	全体	割合
主なきっかけの方	自分自身	177	55.8%
	配偶者(妻または夫)	93	29.3%
	子ども	21	6.6%
	自分の親または配偶者の親	13	4.1%
	その他	11	3.5%
	無回答	2	0.6%
	計	317	100.0%



問9 転出することになったきっかけ（※複数回答可）

転出することになったきっかけは、「結婚」が最も高く 38.2%、次いで「仕事上の都合（就職、転勤など）」が 29.0%、「通勤・通学の利便性を高めるため」が 24.6%、「住宅の都合（購入、借り換えなど）」が 20.8%で続いている。

男女別にみると、男性は「結婚」が最も高く 32.1%、次いで「仕事上の都合」 29.1%、「住宅の都合」 27.6%、「通勤通学の利便性を高めるため」 26.1%と続いている。

女性も、「結婚」が最も高く 42.6%、次いで「仕事上の都合」 29.0%、「通勤・通学の利便性を高めるため」 23.5%、「住宅の都合」 15.8%となっている。

年齢区分別にみると、「20～24歳」では「仕事上の都合」が最も高く 71.4%。

「25～29歳」では「結婚」が最も高く 48.6%、次いで「仕事上の都合」が 34.3%。

「30～34歳」では「結婚」が最も高く 43.9%、次いで「仕事上の都合」、「通勤・通学の利便性」が 24.4%で並んでいる。

「35～39歳」では「結婚」が最も高く 48.6%、次いで「仕事上の都合」が 27.8%。

「40～44歳」では「住宅の都合」が最も高く 32.1%、次いで「通勤・通学の利便性」 26.8%。

「45～49歳」では、「通勤・通学の利便性」が最も高く 26.1%、次いで「住宅の都合」 21.7%と続いている。

子どもの有無別でみると、「子どもがいる」方は、「住宅の都合」が 35.6%で最も高く、「子育て環境を良くすること」 25.8%、「仕事上の都合」 25.0%、「通勤・通学の利便性」 15.9%と続く。

「子どもはいない」方は、「結婚」 54.6%で最も高く、「仕事上の都合」 32.2%、「通勤・通学の利便性」 31.1%と続く。

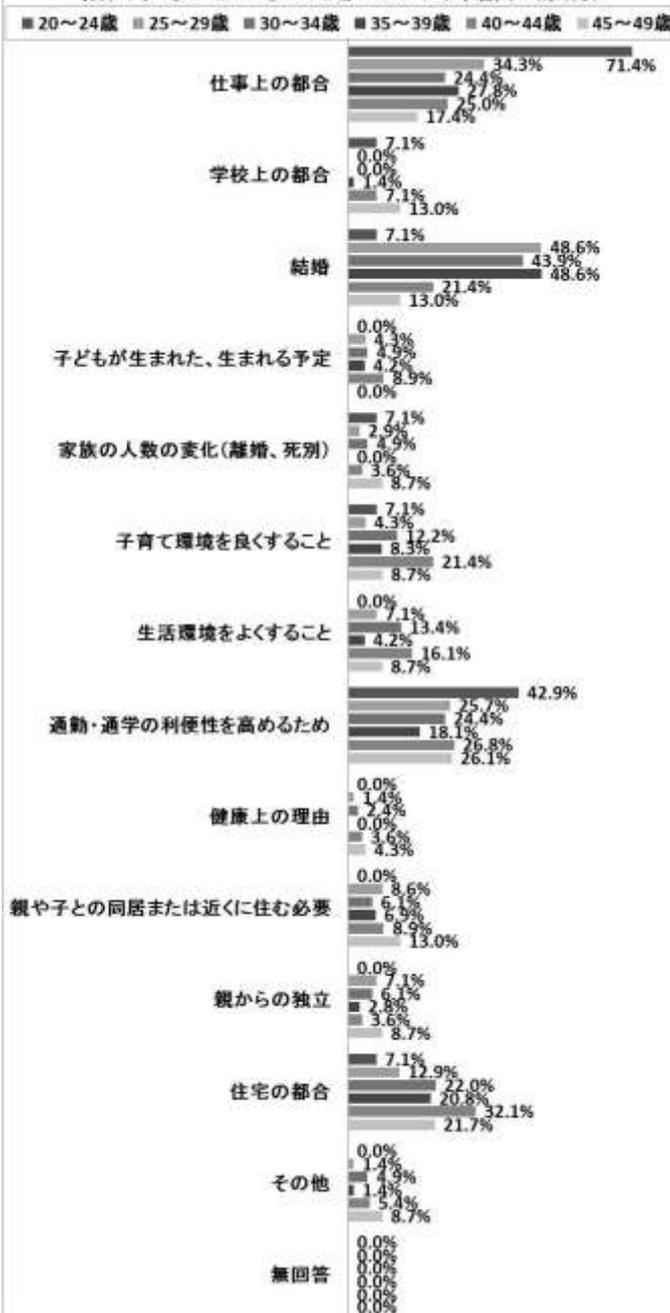
【2】転出者アンケート調査

	選択肢	総数	割合
転出することになったきっかけ	仕事上の都合(就職、転勤など)	92	29.0%
	学校上の都合	9	2.8%
	結婚	121	38.2%
	子どもが生まれた、生まれる予定	15	4.7%
	家族の人数の変化(離婚、死別)	11	3.5%
	子育て環境を良くすること	34	10.7%
	生活環境を良くすること	30	9.5%
	通勤・通学の利便性を高めるため	78	24.6%
	健康上の理由	6	1.9%
	親や子との同居または近くに住む必要	24	7.6%
	親からの独立	16	5.0%
	住宅の都合(購入、借り換えなど)	66	20.8%
	その他	11	3.5%
	無回答	0	0.0%
	計(回答総数)	513	-
	回答者数	317	-

転出することになったきっかけ(全体)



転出することになったきっかけ(年齢区分別)



転出することになったきっかけ(男女別)



転出することになったきっかけ(子ども有無別)



男性(N=134)

子ども有(N=132)

女性(N=183)

子ども無(N=183)

20～24歳(N=14) 25～29歳(N=70) 30～34歳(N=82)

35～39歳(N=72) 40～44歳(N=56) 45～49歳(N=23)

【2】 転出者アンケート調査

問10 平塚市内での居住の検討状況

「平塚市も検討したが、他市町村に決めた」は20.2%、「平塚市は検討しなかった」は52.4%、「現在の住所へ住むことが決まっていた（社宅・家族の持ち家など）」は26.8%であった。全体の約20%は平塚市内での居住も検討したが転出を選択した方、残りの約80%は転出にあたり平塚市内での居住について検討しなかったことがわかる。

	平塚市内の検討状況	単純集計				性別			
		総数	男性	女性	無回答	割合	男性	女性	無回答
平塚市内の検討状況	平塚市も検討したが、他市町村に決めた	64	37	27	0	20.2%	27.6%	14.8%	0.0%
	平塚市は検討しなかった	166	71	95	0	52.4%	53.0%	51.9%	0.0%
	現在の住所へ住むことが決まっていた	85	25	60	0	26.8%	18.7%	32.8%	0.0%
	無回答	2	1	1	0	0.6%	0.7%	0.5%	0.0%
	計	317	134	183	0	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%

問11 転出先の検討にあたり重視した条件（※複数回答可）

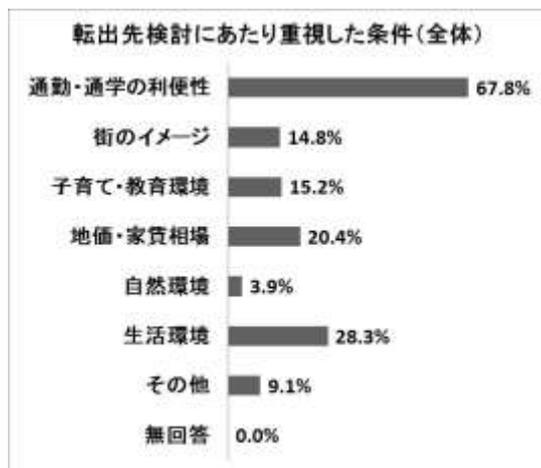
（N=230 問10で「平塚市も検討したが、他市町村に決めた」「平塚市は検討しなかった」方が回答）

全体でみると、「通勤・通学の利便性」が67.8%で最も高く、次いで「生活環境」が28.3%、「地価・家賃相場」が20.4%と続いている。

子どもの有無別でみると、「子どもがいる」方は「通勤・通学の利便性」が47.8%で最も高く、次いで「子育て・教育環境」37.8%、「生活環境」35.6%も高い割合を示している。

「子どもはいない」方は、「通勤・通学の利便性」が80.6%で非常に高く、次に「生活環境」23.7%と続いている。

重視した条件	総数	割合
通勤・通学の利便性	156	67.8%
街のイメージ	34	14.8%
子育て・教育環境	35	15.2%
地価・家賃相場	47	20.4%
自然環境	9	3.9%
生活環境	65	28.3%
その他	21	9.1%
無回答	0	0.0%
計(回答総数)	367	159.6%
回答者数	230	



子ども有無別
子ども有(N=90) 子ども無(N=139)



【2】転出者アンケート調査

問12 転出先の市区町村以外で検討した市区町村（※複数回答可）

（N=230 問10で「平塚市も検討したが、他市区町村に決めた」「平塚市は検討しなかった」方が回答）

「平塚市も検討したが、他市区町村に決めた（N=64人）」方の転出先以外で検討した市区町村を割合で見ると、藤沢市が最も高く12.5%、次いで茅ヶ崎市が10.9%、川崎市、秦野市が6.3%、横浜市、伊勢原市、海老名市、寒川町、二宮町が4.7%と続いている。

「平塚市は検討しなかった（N=166人）」方の転出先以外で検討した市区町村を割合で見ると、横浜市が最も高く24.1%、次いで川崎市、藤沢市がそれぞれ6.0%、厚木市3.6%、茅ヶ崎市3.0%、東京都品川区、東京都世田谷区、東京都渋谷区がそれぞれ1.8%と続いている。

・「平塚市も検討した」方の検討場所（市区町村別）（N=64）

順位	市区町村	総数	割合
1	藤沢市	8	12.5%
2	茅ヶ崎市	7	10.9%
3	川崎市	4	6.3%
3	秦野市	4	6.3%
5	横浜市	3	4.7%
5	伊勢原市	3	4.7%
5	海老名市	3	4.7%
5	寒川町	3	4.7%
5	二宮町	3	4.7%
5	その他	3	4.7%
11	鎌倉市	2	3.1%
11	厚木市	2	3.1%
13	座間市	1	1.6%
13	大磯町	1	1.6%
13	台東区	1	1.6%
13	墨田区	1	1.6%
13	目黒区	1	1.6%
13	大田区	1	1.6%
13	町田市	1	1.6%

・「平塚市は検討しなかった」方の検討場所（市区町村別）（N=166）

順位	市区町村	総数	割合	順位	市区町村	総数	割合
1	横浜市	40	24.1%	17	鎌倉市	1	0.6%
2	川崎市	10	6.0%	17	小田原市	1	0.6%
2	藤沢市	10	6.0%	17	逗子市	1	0.6%
4	厚木市	6	3.6%	17	秦野市	1	0.6%
5	茅ヶ崎市	5	3.0%	17	座間市	1	0.6%
6	品川区	3	1.8%	17	二宮町	1	0.6%
6	世田谷区	3	1.8%	17	中井町	1	0.6%
6	渋谷区	3	1.8%	17	箱根町	1	0.6%
9	伊勢原市	2	1.2%	17	愛川町	1	0.6%
9	海老名市	2	1.2%	17	千代田区	1	0.6%
9	大磯町	2	1.2%	17	文京区	1	0.6%
9	新宿区	2	1.2%	17	中野区	1	0.6%
9	台東区	2	1.2%	17	杉並区	1	0.6%
9	江東区	2	1.2%	17	足立区	1	0.6%
9	大田区	2	1.2%	17	武蔵野市	1	0.6%
9	町田市	2	1.2%	17	三鷹市	1	0.6%
17	相模原市	1	0.6%	17	その他	1	0.6%

【2】転出者アンケート調査

問13 転出先の地域を探したときの情報源（※複数回答可）

（N=230 問10で「平塚市も検討したが、他市区町村に決めた」「平塚市は検討しなかった」方が回答）

「住宅情報・不動産情報ホームページ」が最も高く58.3%、次いで「不動産業者」が34.8%、「家族・親族・知人」が26.5%と続いている。男女別、年齢区分別、子どもの有無別でも同様の傾向であった。

転出先の情報源	総数	割合
市区町村のホームページ	23	10.0%
住宅情報・不動産情報ホームページ	134	58.3%
その他インターネット情報	19	8.3%
住宅情報誌	15	6.5%
不動産業者	80	34.8%
ハウスメーカー・建設会社	32	13.9%
新聞・広告	4	1.7%
電車バス等の車内広告	0	0.0%
家族・親族・知人	61	26.5%
その他	12	5.2%
無回答	4	1.7%
計(回答総数)	384	167.0%
回答者数	230	



問14 転出先の市区町村（N=230 問10で「平塚市も検討したが、他市区町村に決めた」「平塚市は検討しなかった」方が回答）

神奈川県内への転出が全体の79.6%、東京都内への転出は全体の17.0%であった。市区町村別で見ると、横浜市が22.2%で最も高く、以下、藤沢市、伊勢原市が7.0%、川崎市6.5%、小田原市、茅ヶ崎市が5.7%、秦野市4.8%と続いている。転出先を回答した方の約70%は相模川以東の東京方面への転出となっている。

転出後の住所地	総数	割合
神奈川県	183	79.6%
東京都	39	17.0%
無回答	6	2.6%
その他	2	0.9%
計(回答数)	230	

順位	市区町村	人数	割合	順位	市区町村	人数	割合
1	横浜市	51	22.2%	20	愛川町	2	0.9%
2	藤沢市	16	7.0%	20	台東区	2	0.9%
2	伊勢原市	16	7.0%	20	目黒区	2	0.9%
4	川崎市	15	6.5%	20	杉並区	2	0.9%
5	小田原市	13	5.7%	20	板橋区	2	0.9%
5	茅ヶ崎市	13	5.7%	20	その他	2	0.9%
7	秦野市	11	4.8%	28	綾瀬市	1	0.4%
8	大田区	9	3.9%	28	葉山町	1	0.4%
9	大磯町	7	3.0%	28	中井町	1	0.4%
10	厚木市	6	2.6%	28	松田町	1	0.4%
10	無回答	6	2.6%	28	文京区	1	0.4%
12	鎌倉市	5	2.2%	28	墨田区	1	0.4%
12	海老名市	5	2.2%	28	江東区	1	0.4%
14	相模原市	4	1.7%	28	品川区	1	0.4%
14	寒川町	4	1.7%	28	豊島区	1	0.4%
14	二宮町	4	1.7%	28	北区	1	0.4%
14	新宿区	4	1.7%	28	荒川区	1	0.4%
14	世田谷区	4	1.7%	28	足立区	1	0.4%
19	町田市	3	1.3%	28	江戸川区	1	0.4%
20	大和市	2	0.9%	28	三鷹市	1	0.4%
20	座間市	2	0.9%	28	清瀬市	1	0.4%

【2】転出者アンケート調査

問10で「平塚市も検討したが他市区町村に転出した」方(N=64人)の実際に転出した市区町村は、伊勢原市が12.5%で最も高く、次いで大磯町10.9%、横浜市、茅ヶ崎市、秦野市が並んで9.4%、藤沢市7.8%、寒川町6.3%と続いている。このことから、平塚市も検討して転出した方は、問12でわかるように比較的近隣にある市町を検討し、転出をしていることを示している。

《問10で「平塚市も検討したが他市区町村へ転出した」方(N=64)》

・問12の検討場所(上位抜粋)

順位	市区町村	総数	割合
1	藤沢市	8	12.5%
2	茅ヶ崎市	7	10.9%
3	川崎市	4	6.3%
3	秦野市	4	6.3%
5	横浜市	3	4.7%
5	伊勢原市	3	4.7%
5	海老名市	3	4.7%
5	寒川町	3	4.7%
5	二宮町	3	4.7%
5	その他	3	4.7%

・実際の転出先(上位抜粋)

順位	市区町村	総数	割合
1	伊勢原市	8	12.5%
2	大磯町	7	10.9%
3	横浜市	6	9.4%
3	茅ヶ崎市	6	9.4%
3	秦野市	6	9.4%
6	藤沢市	5	7.8%
7	寒川町	4	6.3%
8	川崎市	3	4.7%
8	相模原市	3	4.7%
8	小田原市	3	4.7%

問10で「平塚市は検討しなかった」方(N=166人)の実際に転出した市区町村は、横浜市が27.1%で最も高く、川崎市7.2%、藤沢市6.6%、小田原市6.0%、東京都大田区5.4%、伊勢原市4.8%、茅ヶ崎市4.2%、厚木市3.6%と続いている。このことから、「平塚市は検討しなかった」方は、横浜市、川崎市、東京都内など東京方面への転出が多い一方、比較的近隣にある市町も検討し、転出している結果となった。

《問10で「平塚市は検討しなかった」方(N=166)》

・問12の検討場所(上位抜粋)

順位	市区町村	総数	割合
1	横浜市	40	24.1%
2	川崎市	10	6.0%
2	藤沢市	10	6.0%
4	厚木市	6	3.6%
5	茅ヶ崎市	5	3.0%
6	品川区	3	1.8%
6	世田谷区	3	1.8%
6	渋谷区	3	1.8%
9	伊勢原市	2	1.2%
9	海老名市	2	1.2%
9	大磯町	2	1.2%

・実際の転出先(上位抜粋)

順位	市区町村	総数	割合
1	横浜市	45	27.1%
2	川崎市	12	7.2%
3	藤沢市	11	6.6%
4	小田原市	10	6.0%
5	大田区	9	5.4%
6	伊勢原市	8	4.8%
6	無回答	8	4.8%
8	茅ヶ崎市	7	4.2%
9	厚木市	6	3.6%
10	秦野市	5	3.0%

【2】転出者アンケート調査

問15 転出先の市区町村を決めた理由 (N=230 問10で「平塚市も検討したが、他市町村に決めた」「平塚市は検討しなかった」方が回答) (※複数回答可)

全体では「通勤・通学時間」が68.3%で最も高く、次いで「住宅の条件(広さ、日当たり、静けさ)」が44.3%、「家賃・住宅価格」が43.5%、「買い物の利便性」が37.8%、「家族・親族・知人が(近くに)住んでいる」が31.7%で続いている。

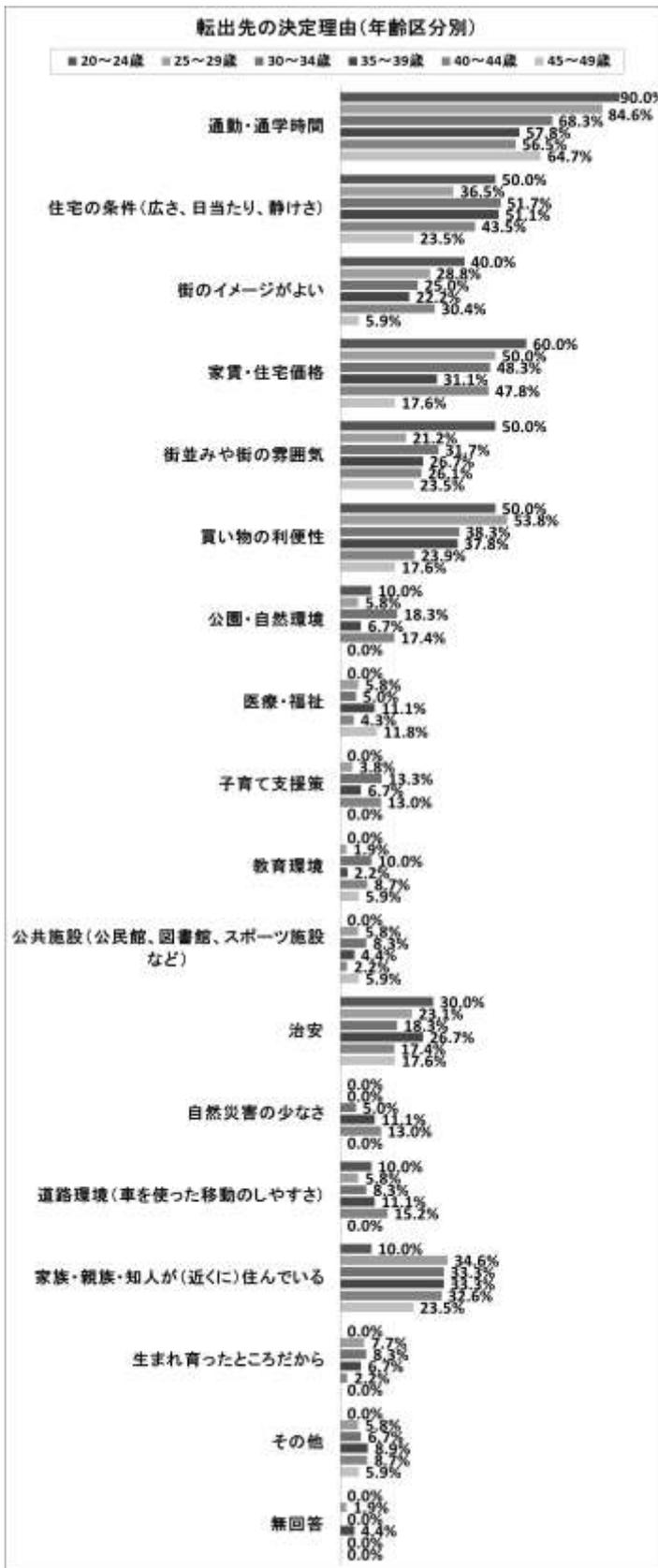
年代別でみると、20代は、「通勤・通学時間」、「家賃・住宅価格」、「買い物の利便性」が他の年代よりも高い割合となった。

子どもの有無別でみると、「子どもがいる」方は、「子どもはいない」方に比べ、「家族・親族・知人が(近くに)住んでいる」、「公園・自然環境」、「治安」、「子育て支援策」、「教育環境」が高い割合となっており、一方「通勤・通学時間」、「家賃・住宅価格」、「街並みや街の雰囲気」がやや低い割合となった。

	決定理由	総数	割合
決定理由	通勤・通学時間	157	68.3%
	住宅の条件(広さ、日当たり、静けさ)	102	44.3%
	街のイメージがよい	59	25.7%
	家賃・住宅価格	100	43.5%
	街並みや街の雰囲気	63	27.4%
	買い物の利便性	87	37.8%
	公園・自然環境	26	11.3%
	医療・福祉	15	6.5%
	子育て支援策	19	8.3%
	教育環境	13	5.7%
	公共施設(公民館、図書館、スポーツ施設など)	12	5.2%
	治安	49	21.3%
	自然災害の少なさ	14	6.1%
	道路環境(車を使った移動のしやすさ)	21	9.1%
	家族・親族・知人が(近くに)住んでいる	73	31.7%
	生まれ育ったところだから	13	5.7%
	その他	16	7.0%
	無回答	3	1.3%
		計(回答総数)	842
	回答者数	230	



【2】転出者アンケート調査

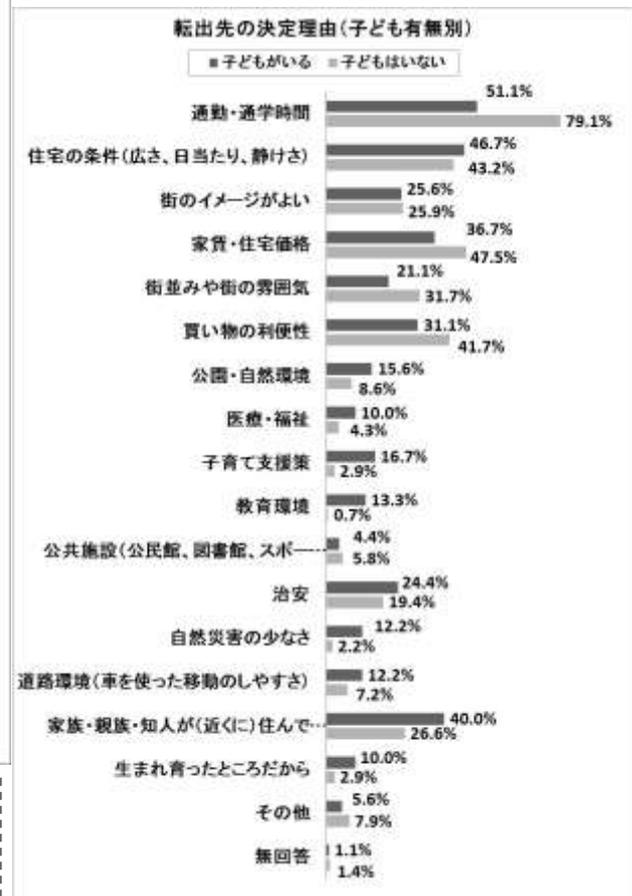


子ども有(N=90)

男性(N=108)

子ども無(N=139)

女性(N=122)



年齢区分別

20～24歳(N=10) 24～29歳(N=52) 30～34歳(N=60)

35～39歳(N=45) 40～44歳(N=46) 45～49歳(N=17)

【2】転出者アンケート調査

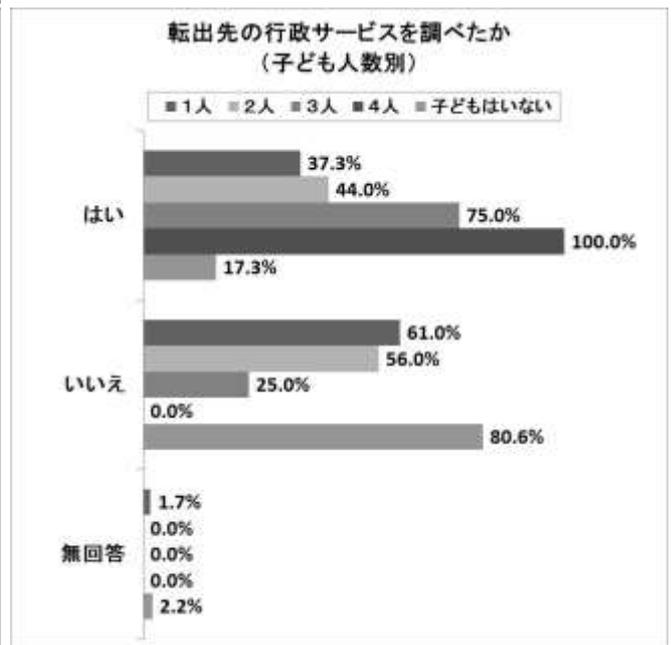
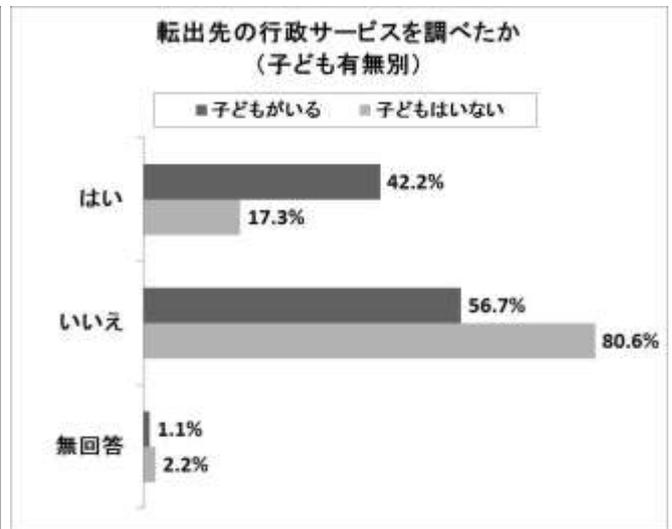
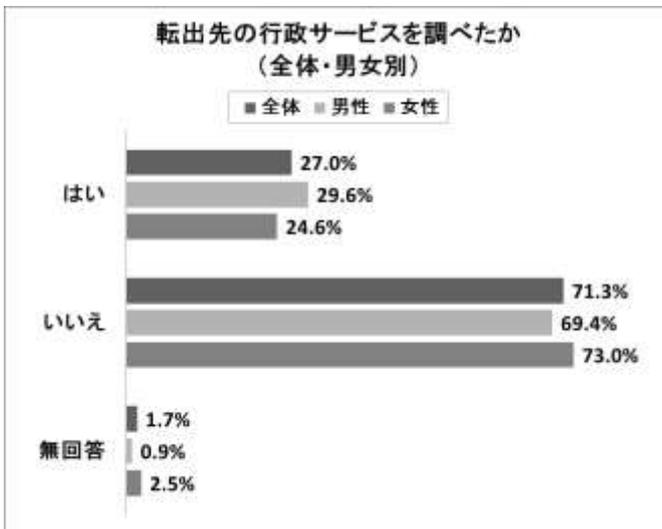
問16 転出先の市区町村を決めるにあたり、転出先の行政サービスを調べたか。

(N=230 問10で「平塚市も検討したが、他市区町村に決めた」「平塚市は検討しなかった」方が回答)

全体では「はい」が27.0%、「いいえ」が71.3%となっている。

年齢区分別でみると、「はい」と答えた方は、「25～29歳」が11.5%と、他の年齢区分に比べ低かった。

子どもの有無別でみると、「はい」と答えた方は、「子どもがいる」方で42.2%、「子どもはいない」方で17.3%であり、「子どもがいる」方のほうが行政サービスを調べる傾向にあることがわかった。また、「子どもがいる」方は、子どもの人数が増えるにつれ、「はい」の割合が高まっている。



20～24歳(N=10) 24～29歳(N=52) 30～34歳(N=60)
35～39歳(N=45) 40～44歳(N=46) 45～49歳(N=17)

子どもの人数
1人(N=59)、2人(N=25)、3人(N=4)、4人(N=2)

【2】転出者アンケート調査

問17 転出前と現在の住居の種類

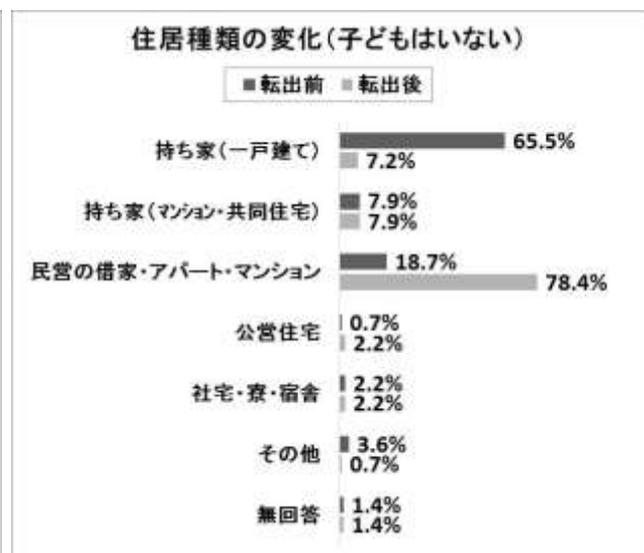
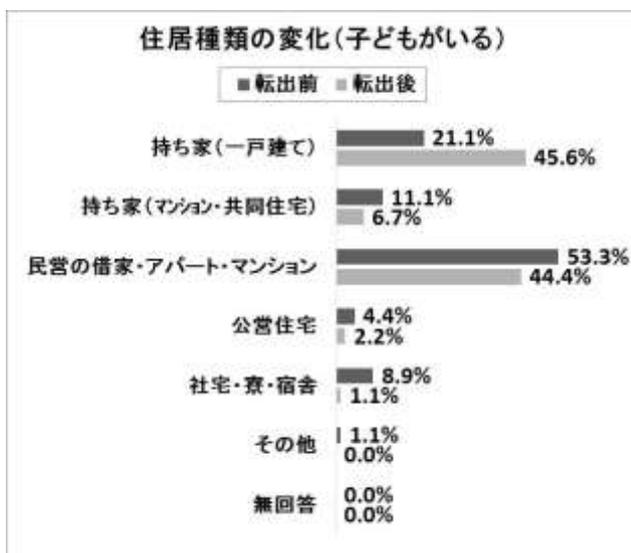
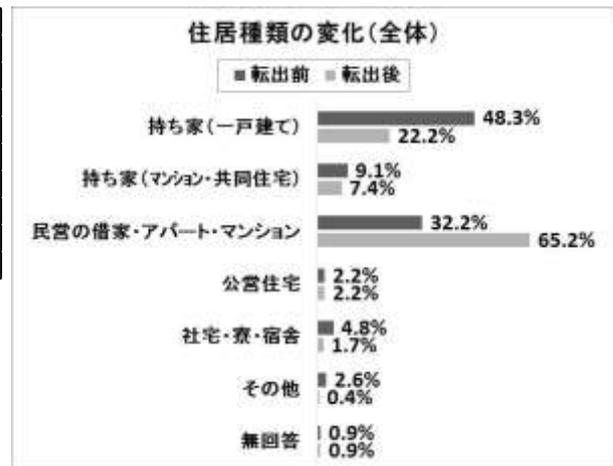
(N=230 問10で「平塚市も検討したが、他市区町村に決めた」「平塚市は検討しなかった」方が回答)

転出前後の住居の割合の変化は、「持ち家（一戸建て）」が転出前 48.3%から転出後 22.2%へ、「持ち家（マンション・共同住宅）」が転出前 9.1%から転出後 7.4%へ、「民営の借家・アパート・マンション」が転出前 32.2%から転出後 65.2%となっており、一戸建てとマンションなどを合わせた持ち家の割合が転出前 57.4%から転出後 29.6%と低下し、賃貸の住まいの割合が高まっている。

年齢区別にみると、「40～44 歳」で持ち家の割合が高まっているが、他の年齢区分では、持ち家の割合は低下している。

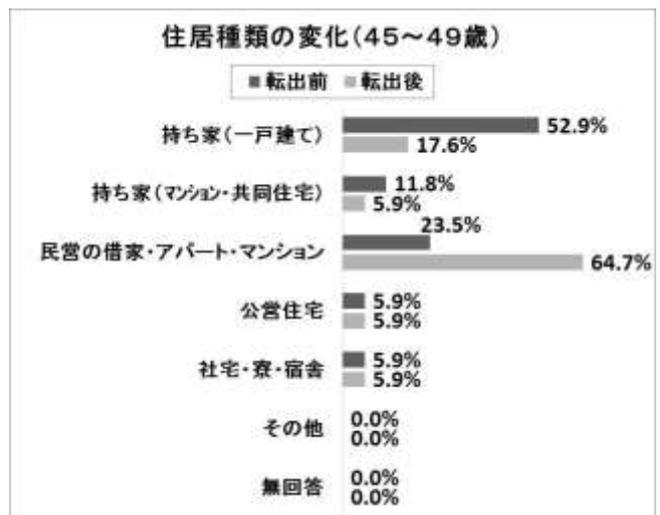
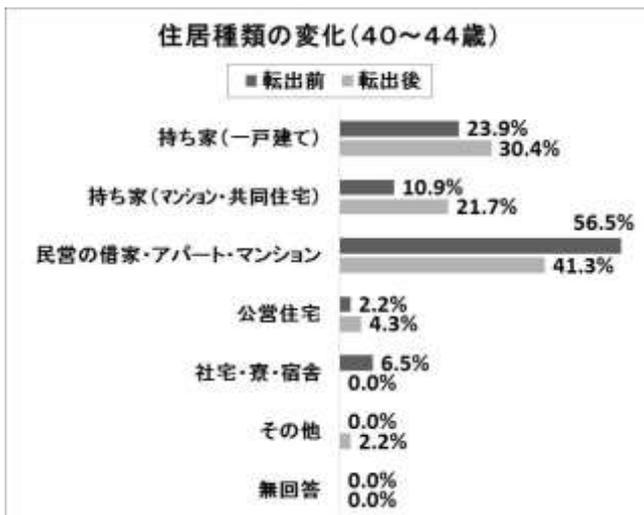
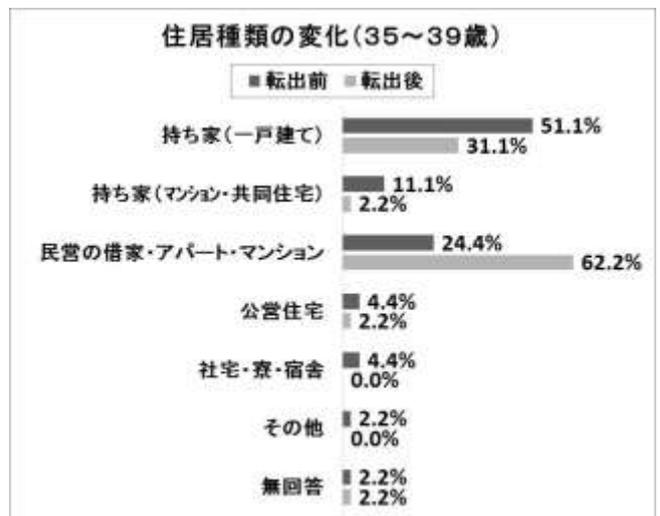
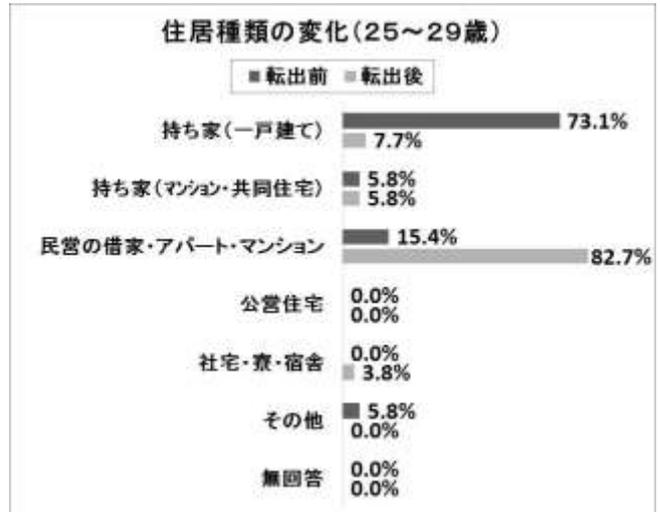
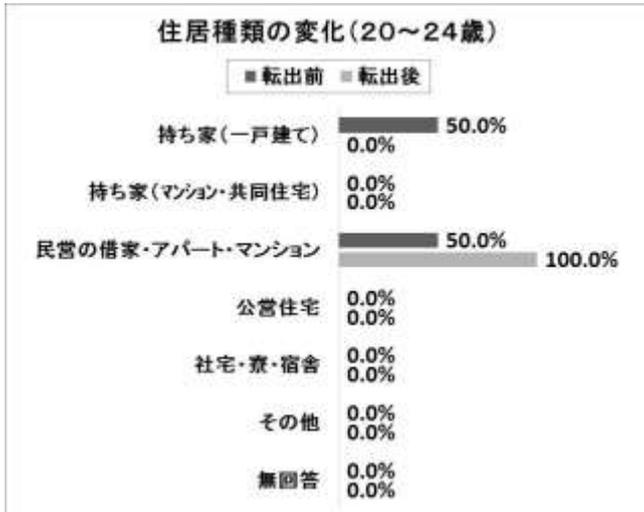
子どもの有無別にみると、「子どもがいる」方は一戸建てとマンションなどを合わせた持ち家の割合が転出前 32.2%から転出後 52.3%と高まっているが、「子どもがいない」方は、持ち家の割合が転出前 73.4%から転出後 15.1%と下がっており、「民営の借家・アパート・マンション」が転出前 18.7%から転出後 78.4%と高まっている。

住居種類	集計		割合	
	転出前	転出後	転出前	転出後
持ち家(一戸建て)	111	51	48.3%	22.2%
持ち家(マンション・共同住宅)	21	17	9.1%	7.4%
民営の借家・アパート・マンション	74	150	32.2%	65.2%
公営住宅	5	5	2.2%	2.2%
社宅・寮・宿舎	11	4	4.8%	1.7%
その他	6	1	2.6%	0.4%
無回答	2	2	0.9%	0.9%
計	230	230	100.0%	100.0%



子ども有(N=90)、子ども無(N=139)

【2】転出者アンケート調査



年齢区分別

20～24歳(N=10) 24～29歳(N=52) 30～34歳(N=60)

35～39歳(N=45) 40～44歳(N=46) 45～49歳(N=17)

【2】転出者アンケート調査

問18 転出前と現在の世帯構成

(N=230 問10で「平塚市も検討したが、他市区町村に決めた」「平塚市は検討しなかった」方が回答)

転出前後の割合の変化をみると、「ひとり暮らし」は転出前 3.0%から転出後 18.3%、「夫婦のみ」は転出前 13.9%から転出後 41.3%、「二世帯同居（親と子）」は転出前 69.6%から転出後 35.7%となっており、「二世帯同居」だった方が、転出後に「ひとり暮らし」、「夫婦のみ」に変化している状況が見受けられる。

年齢区別にみると、「20～24 歳」、「25～29 歳」では、転出後に「一人暮らし」及び「夫婦」の世帯の割合の伸びが顕著であるが、ほかの年齢区分でも、一人暮らし、夫婦の割合が伸びて、二世帯同居の割合が減少する傾向がみられる。

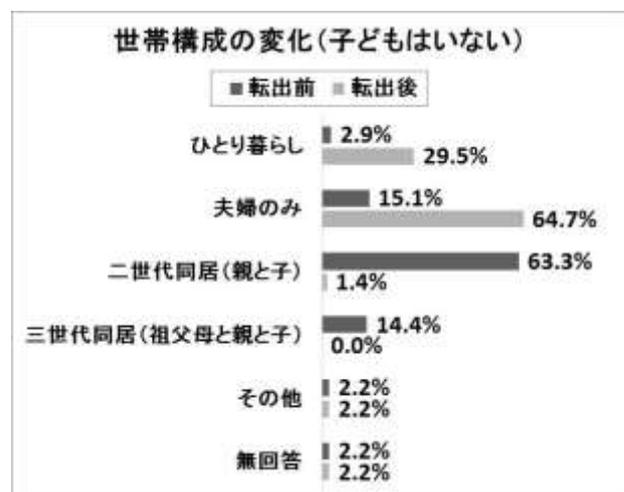
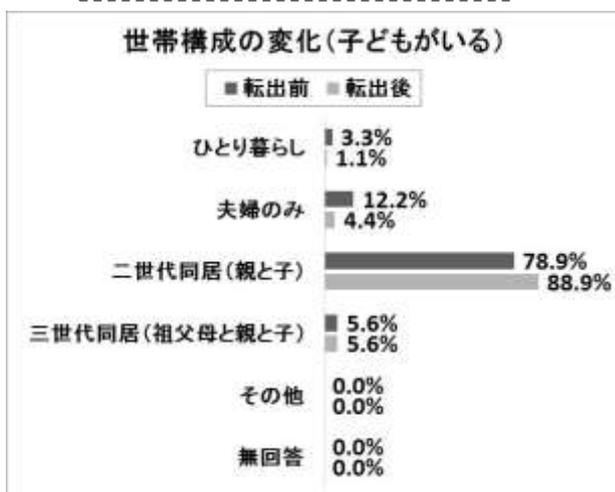
子どもの有無別でみると、「子どもがいる」方は、「二世帯同居（親と子）」の割合が転出前 78.9%から転出後 88.9%と転出前後で高い値を示している。

「子どもはいない」方は、「一人暮らし」転出前 2.9%から転出後 29.5%、「夫婦のみ」転出前 15.1%から転出後 64.7%の割合が高まり、「二世帯同居（親と子）」転出前 63.3%から転出後 1.4%、「三世帯同居（祖父母と親と子）」転出前 14.4%から転出後 0.0%となっており、それぞれ減少している。

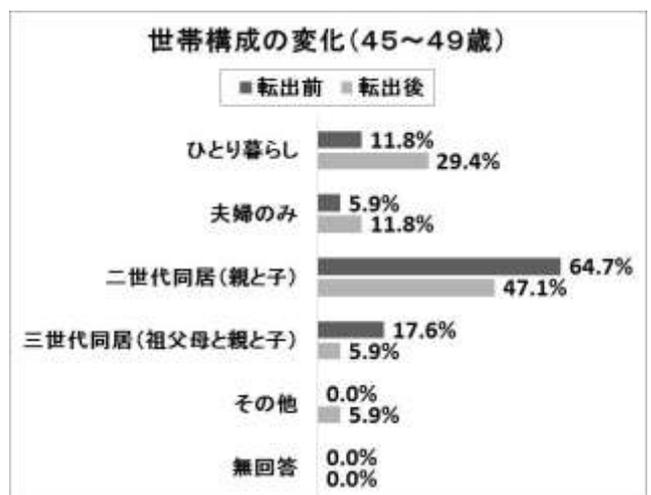
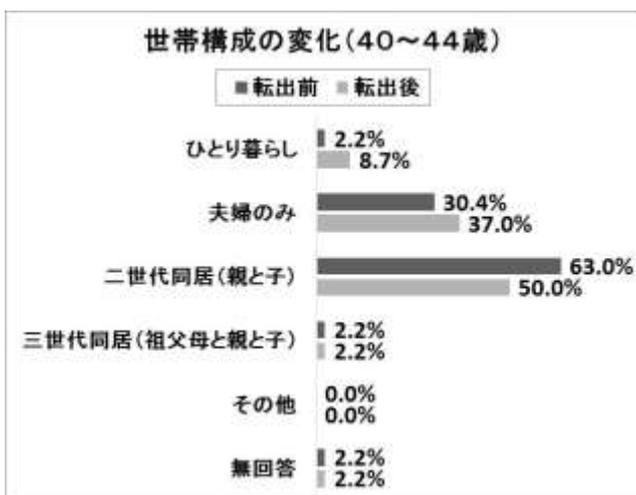
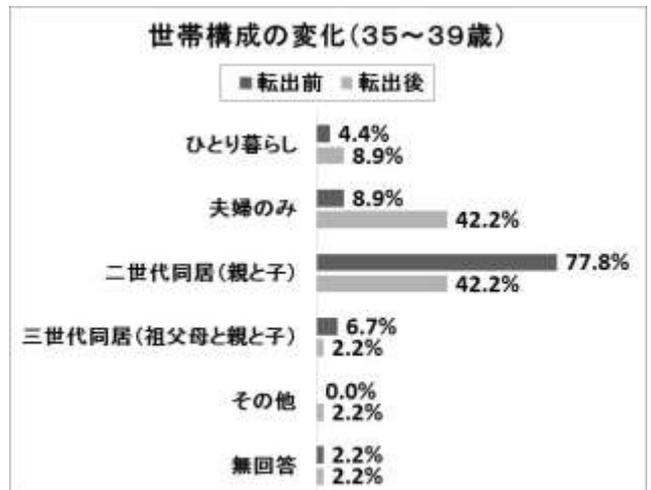
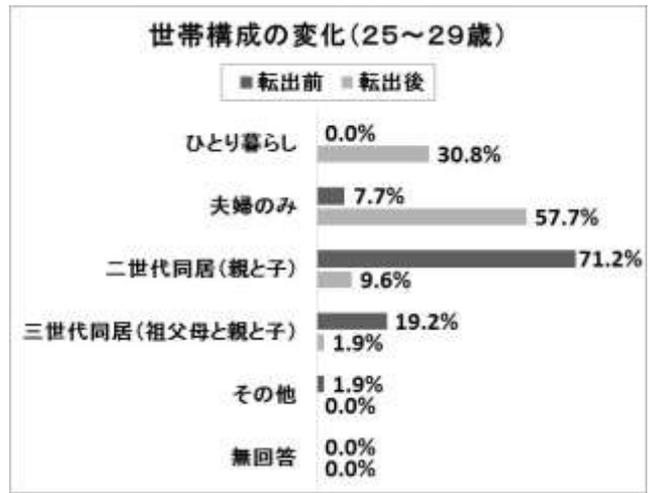
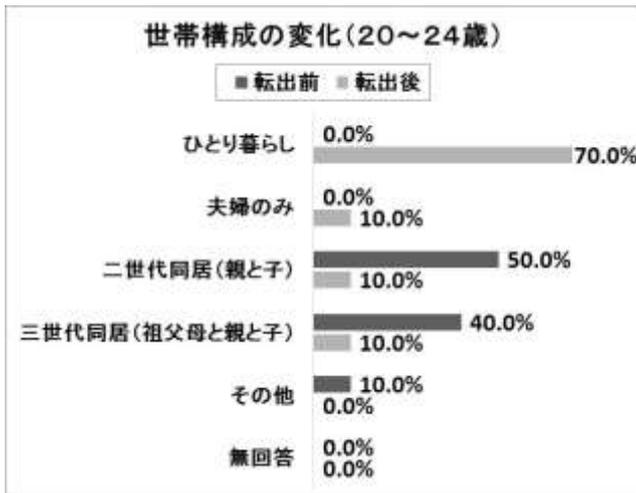
世帯構成	集計		割合	
	転出前	転出後	転出前	転出後
ひとり暮らし	7	42	3.0%	18.3%
夫婦のみ	32	95	13.9%	41.3%
二世帯同居(親と子)	160	82	69.6%	35.7%
三世帯同居(祖父母と親と子)	25	5	10.9%	2.2%
その他	3	3	1.3%	1.3%
無回答	3	3	1.3%	1.3%
計	230	230	100.0%	100.0%



子ども有無別
子ども有(N=90)、子ども無(N=139)



【2】転出者アンケート調査



年齢区分別

20～24歳(N=10) 24～29歳(N=52) 30～34歳(N=60)

35～39歳(N=45) 40～44歳(N=46) 45～49歳(N=17)

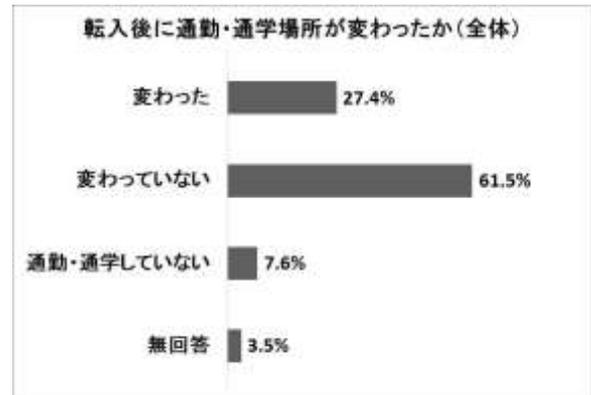
【2】転出者アンケート調査

問19 転出前と現在で通勤・通学場所が変わったか

(N=317 以降全員が回答) ※主たる家計を支える方の通勤・通学場所

全体では、通勤・通学場所が「変わった」27.4% (N=87)、「変わっていない」61.5% (N=195)、「通勤・通学していない」7.6%(N=24)となっている。

設問	選択肢	総数	割合
通勤・通学場所の変更の有無	変わった	87	27.4%
	変わっていない	195	61.5%
	通勤・通学していない	24	7.6%
	無回答	11	3.5%
	計	317	100.0%



通勤・通学場所が「変わった」方の転出前の通勤・通学場所は神奈川県内が82.8%、東京都内が11.5%であり、市区町村別では、平塚市が42.5%で最も高く、次いで横浜市9.2%、厚木市5.7%と続いている。また、転出後の通勤・通学場所は、神奈川県内が50.6%、東京都内が40.2%であり、転出前と比べ、東京都内への通勤・通学の割合が高まっている。市区町村別では、横浜市が16.1%と最も高く、以下、川崎市11.5%、伊勢原市及び東京都港区5.7%、東京都新宿区4.6%と続いている。平塚市内は0となっている。

《通勤・通学場所が「変わった」方 (N=87)》

・転出前の通勤・通学場所 (上位抜粋)

転出前の勤務地	割合
神奈川県	72 82.8%
東京都	10 11.5%
無回答	5 5.7%
その他	0 0.0%
計	87

順位	市区町村	総数	割合
1	平塚市	37	42.5%
2	横浜市	8	9.2%
3	無回答	6	6.9%
4	厚木市	5	5.7%
5	相模原市	2	2.3%
5	藤沢市	2	2.3%
5	小田原市	2	2.3%
5	茅ヶ崎市	2	2.3%
5	秦野市	2	2.3%
5	大和市	2	2.3%
5	伊勢原市	2	2.3%
5	海老名市	2	2.3%
5	千代田区	2	2.3%

・転出後の通勤・通学場所 (上位抜粋)

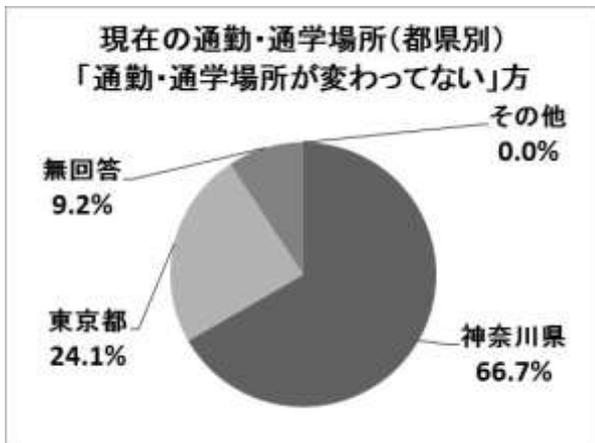
順位	市区町村	総数	割合
1	横浜市	14	16.1%
2	川崎市	10	11.5%
3	伊勢原市	5	5.7%
3	港区	5	5.7%
5	新宿区	4	4.6%
5	その他	4	4.6%
5	無回答	4	4.6%
8	千代田区	3	3.4%
8	渋谷区	3	3.4%
10	藤沢市	2	2.3%
10	小田原市	2	2.3%
10	茅ヶ崎市	2	2.3%
10	厚木市	2	2.3%

通勤・通学場所が「変わっていない」方の通勤・通学場所をみると、神奈川県内が66.7%、東京都内が24.1%であり、市区町村別でみると、平塚市が最も高く19.5%、次いで横浜市16.4%、藤沢市5.1%、東京都港区4.6%、厚木市4.1%、東京都新宿区、茅ヶ崎市、川崎市が3.1%と続いている。

【2】転出者アンケート調査

《転出前後で通勤・通学場所が「変わってない」方 (N=195)》

・「通勤・通学場所」(都県別)



・「通勤・通学場所」(上位抜粋)

順位	市区町村	総数	割合
1	平塚市	38	19.5%
2	横浜市	32	16.4%
3	無回答	18	9.2%
4	藤沢市	10	5.1%
5	港区	9	4.6%
6	厚木市	8	4.1%
7	新宿区	6	3.1%
7	茅ヶ崎市	6	3.1%
7	川崎市	6	3.1%
10	秦野市	5	2.6%
10	中央区	5	2.6%
10	渋谷区	5	2.6%
13	大磯町	4	2.1%

転出前後で通勤・通学場所が「変わっていない方」(家族の持ち家や社宅に転出した方除く)で、東京都内に通勤している方(N=59)の転出先は23区内が49.2%を占め、横浜市25.4%、川崎市10.2%となっている。また、本市内に通勤・通学している方(N=31)の転出先は、茅ヶ崎市が19.4%で最も高く、藤沢市、伊勢原市が12.9%と続いている。このことから、東京都内に通勤・通学している方は東京都内や横浜市方面の通勤・通学場所に近い場所に、また本市内に通勤・通学している方は、近隣の市町に転出をしたことがわかる。

《転出前後で通勤・通学場所が「変わってない」方、東京都内に通勤・通学 (N=59)》

・「通勤・通学場所」

現在の通勤・通学場所	総数	割合
東京都	23区	53 89.8%
	その他	5 8.5%
	無回答	1 1.7%
計	59	100.0%

・「転出先」

転出先の市区町村	総数	割合
東京都	23区	29 49.2%
	その他	2 3.4%
	無回答	0 0.0%
神奈川県	横浜市	15 25.4%
	川崎市	6 10.2%
	その他	5 8.5%
	無回答	1 1.7%
無回答	1	1.7%
計	59	100.0%

《転出前後で通勤・通学場所が「変わってない」方、本市内に通勤・通学 (N=31)》

・「通勤・通学場所」

現在の通勤・通学場所	総数	割合
神奈川県 平塚市	31	100.0%
計	31	100.0%

・「転出先」

転出先の市区町村	総数	割合
神奈川県	茅ヶ崎市	6 19.4%
	藤沢市	4 12.9%
	伊勢原市	4 12.9%
	横浜市	3 9.7%
	秦野市	2 6.5%
	厚木市	2 6.5%
	大磯町	2 6.5%
	その他	7 22.6%
無回答	1	3.2%
計	31	100.0%

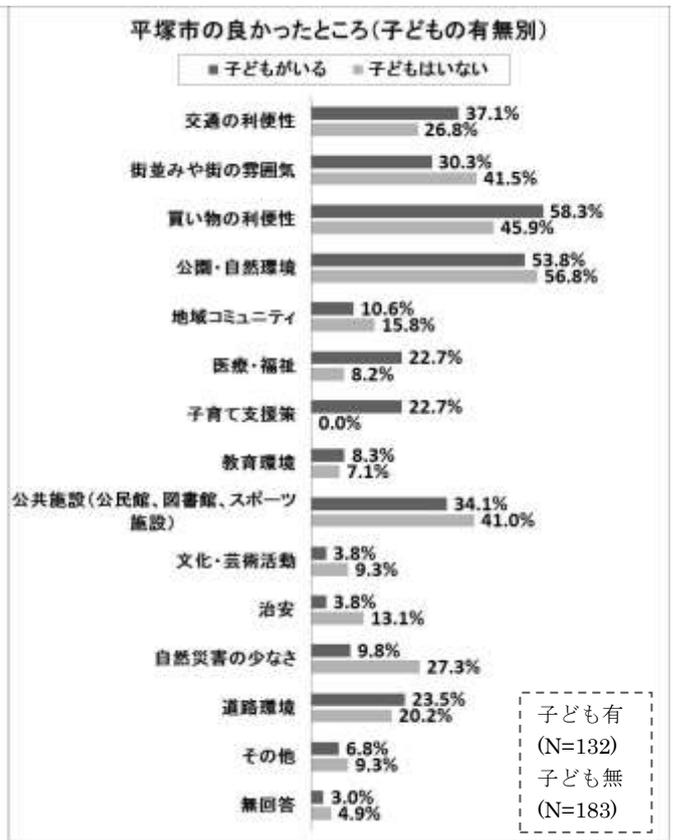
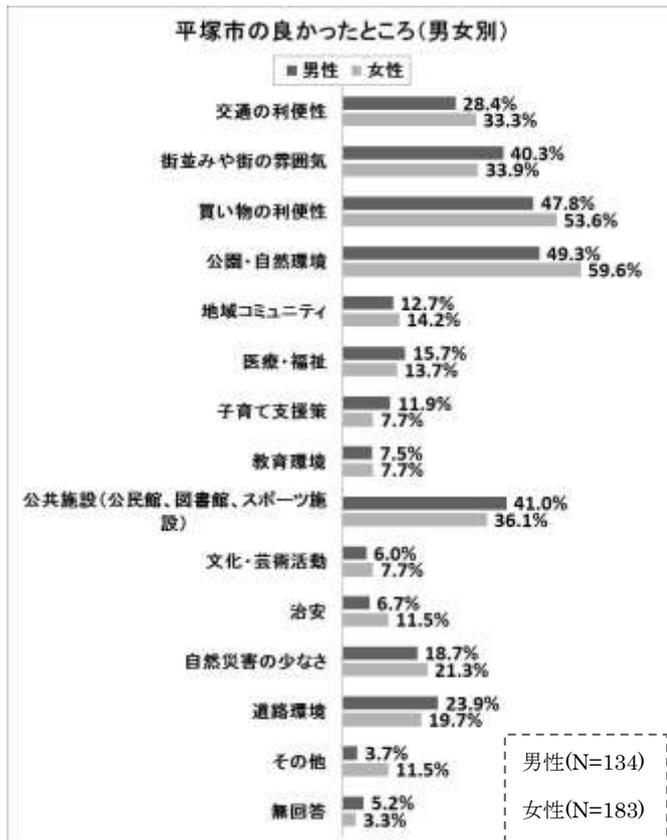
【2】転出者アンケート調査

問20 平塚市に住んでいて良かったところ (※複数回答可)

全体でみると「公園・自然環境」が55.2%で最も高く、以下、「買い物の利便性」51.1%、「公共施設（公民館、図書館、スポーツ施設など）」38.2%、「街並みや街の雰囲気」36.6%、「交通の利便性」31.2%と続いている。

「公園・自然環境」は、男女別、年齢区分別、子どもの有無別のいずれにおいても高い割合を示している。

	印象(良かったところ)	総数	割合
印象(良かったところ)	交通の利便性	99	31.2%
	街並みや街の雰囲気	116	36.6%
	買い物の利便性	162	51.1%
	公園・自然環境	175	55.2%
	地域コミュニティ	43	13.6%
	医療・福祉	46	14.5%
	子育て支援策	30	9.5%
	教育環境	24	7.6%
	公共施設(公民館、図書館、スポーツ施設)	121	38.2%
	文化・芸術活動	22	6.9%
	治安	30	9.5%
	自然災害の少なさ	64	20.2%
	道路環境	68	21.5%
	その他	26	8.2%
	無回答	13	4.1%
計	1039	-	
	回答者数	317	



【2】 転出者アンケート調査

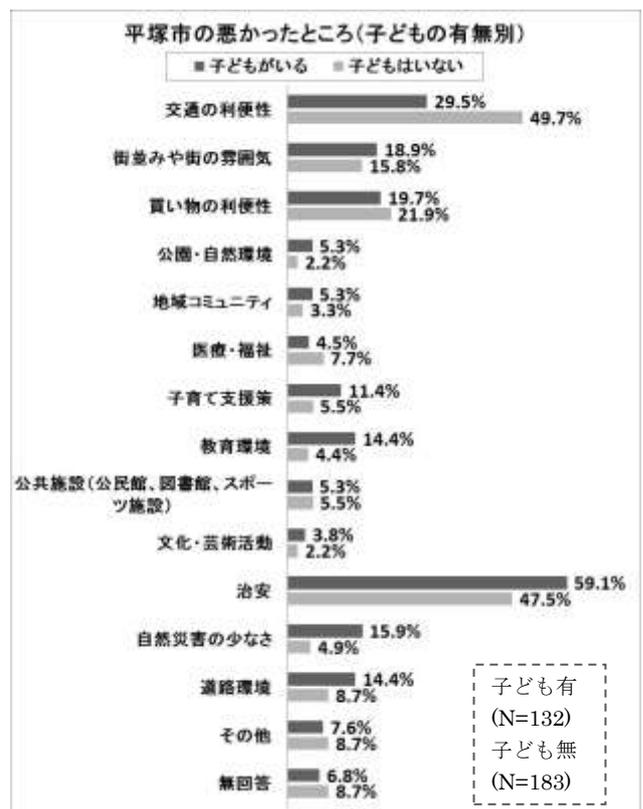
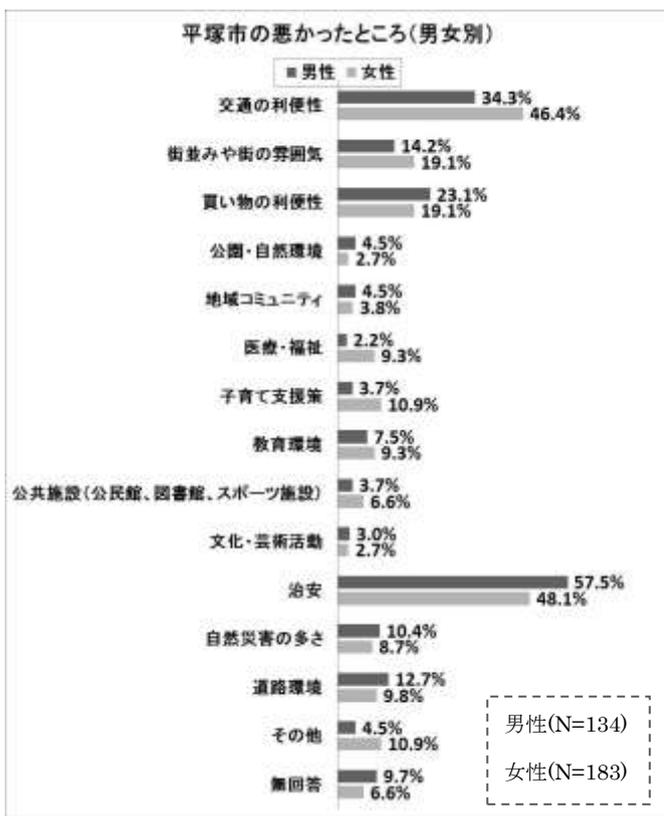
問20 平塚市に住んでいて悪かったところ (※複数回答可)

全体でみると「治安」が52.1%で最も高く、以下、「交通の利便性」41.3%、「買い物の利便性」20.8%、「街並みや街の雰囲気」17.0%と続いている。

男女別にみると、「治安」を選択した割合は、男性が57.5%、女性48.1%となっており、男性の方が女性よりも、平塚市の治安が悪いと感じていることがわかる。

子どもの有無別では、「子どもがいる」方は、「治安」が悪いと59.1%が感じており他の選択肢と比べて非常に高い割合となっている。「子どもはいない」方は「治安」が47.5%と高い割合だが、それ以上に「交通の利便性」49.7%と高い割合であった。

	印象(悪かったところ)	総数	割合
印象(悪かったところ)	交通の利便性	131	41.3%
	街並みや街の雰囲気	54	17.0%
	買い物の利便性	66	20.8%
	公園・自然環境	11	3.5%
	地域コミュニティ	13	4.1%
	医療・福祉	20	6.3%
	子育て支援策	25	7.9%
	教育環境	27	8.5%
	公共施設(公民館、図書館、スポーツ施設)	17	5.4%
	文化・芸術活動	9	2.8%
	治安	165	52.1%
	自然災害の少なさ	30	9.5%
	道路環境	35	11.0%
	その他	26	8.2%
	無回答	25	7.9%
計	654	-	
	回答者数	317	



【2】転出者アンケート調査

問21 問20で答えた平塚市の良かったところ

問20の「良かったところ」で高い割合だった「公園・自然環境」については、海・山・川などの自然の多さや、また総合公園を評価する意見が多かった。「買い物の利便性」については、平塚駅ビルなどの買い物環境や、スーパー、大型量販店などが身近にあり、日常必要なものが何でも揃うことを評価する意見が多かった。「公共施設」については、図書館、総合公園のスポーツ施設、美術館などが充実しているという意見が多かった。

問20選択肢	良かったところ	意見数
1	交通の利便性	35
2	街並みや街の雰囲気	52
3	買い物の利便性	69
4	公園・自然環境	89
5	地域コミュニティ	8
6	医療・福祉	13
7	子育て支援策	14
8	教育環境	11
9	公共施設	32
10	文化・芸術活動	5
11	治安	6
12	自然災害の少なさ	7
13	道路環境	23
14	その他	26
-	該当なし	43
	意見数	433

問22 問20で答えた平塚市の悪かったところ

問20の「悪かったところ」で高い割合だった「治安」については、マスコミによる事件報道や、自転車の盗難、街灯の少なさ、不審者の出没などの意見が見られた。「交通の利便性」については、駅、東海道線が1つしかないことで、駅へのアクセスや、電車が止まった時に代替手段が取りづらいことの不便性、また、バスの定時性がないことや、本数の少なさ、駅までのアクセスにバスを使うことの不便さなどの意見が多かった。

問20選択肢	悪かったところ	意見数
1	交通の利便性	75
2	街並みや街の雰囲気	29
3	買い物の利便性	26
4	公園・自然環境	6
5	地域コミュニティ	0
6	医療・福祉	4
7	子育て支援策	6
8	教育環境	7
9	公共施設	6
10	文化・芸術活動	1
11	治安	90
12	自然災害の発生	10
13	道路環境	19
14	その他	25
-	該当なし	36
	意見数	340

第3章 結果の考察

1. 結果の考察

今回のアンケートでは、移転（転入出）のきっかけ、移転先の決定に重視したこと、実際に移転先を決定した理由、情報源、本市に対する印象の変化などについて伺いました。

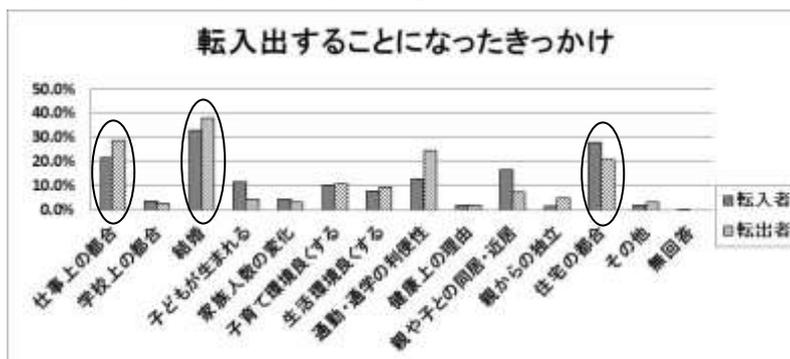
ここでは、本市の人口動態が、近年転出者数が転入者数を上回る社会減となっていることや、平成23年以降死亡数が出生数を上回る自然減となっていることから、本市における将来的な定住人口の維持を見据え、特に若い世代の動向や、雇用や子育て環境の転入出への影響、さらに本市における転入出の特徴など、次の点について考察しました。

- (1) 転入出の全体的な傾向
- (2) 20代及び30代の転入・転出状況
- (3) 転入出と通勤・通学先の関係
- (4) 子育て世代から見た転入・転出状況
- (5) 本市への居住経験、家族とのつながり
- (6) 転出先、転入先の情報源
- (7) アンケートから見た平塚市の強み、弱み

(1) 転入出の全体的な傾向

転入出の全体的な傾向として、転入の主なきっかけは、「結婚」、「住宅の都合」、「仕事上の都合」であり、転出の主なきっかけは、「結婚」、「仕事上の都合」、「通勤・通学の利便性」、「住宅の都合」となっている。転入、転出のいずれも、結婚、仕事、住宅の3つが主なきっかけとなっている。【図1の○囲み部分】

【図1 転入出することになったきっかけ】

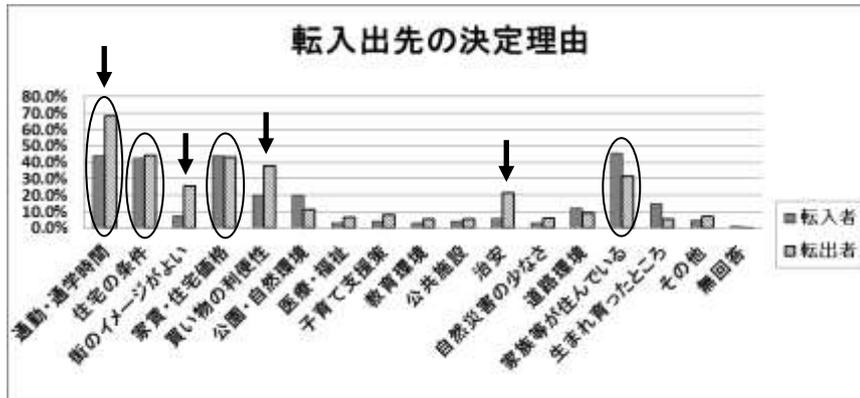


転入出先の決定理由としては、転入、転出ともに「通勤・通学時間」、「住宅の条件」、「家賃・住宅価格」、「家族・親族・知人が（近くに）住んでいる」の割合が高くなっている。【図2の○囲み部分】

「通勤・通学時間」、「買い物の利便性」、「街のイメージがよい」、「治安」は、転出先の決定理由として、転入先の決定理由よりも比較的高い割合を示している。【図2の↓部分】

1. 結果の考察

[図2 転入出先の決定理由]



(2) 20代及び30代の転入・転出状況

ア 20代及び30代の転入・転出のきっかけ

転入、転出のきっかけを表にまとめると次のようになる。

[表1 転入、転出のきっかけ]

年代	転入のきっかけ※複数回答可			転出のきっかけ※複数回答可		
	1位	2位	3位	1位	2位	3位
20代前半	仕事の都合 (45.0%)	結婚 (15.0%)	住宅の都合 (15.0%)	仕事の都合 (71.4%)	通勤・通学の利便性 (42.9%)	結婚 (7.1%)
20代後半	結婚 (40.7%)	仕事上の都合 (27.2%)	通勤・通学の利便性 (21.0%)	結婚 (48.6%)	仕事上の都合 (34.3%)	通勤・通学の利便性 (25.7%)
30代前半	結婚 (38.9%)	住宅の都合 (32.2%)	仕事上の都合 (20.0%)	結婚 (43.9%)	仕事上の都合 (24.4%)	通勤・通学の利便性 (24.4%)
30代後半	住宅の都合 (35.1%)	結婚 (26.0%)	仕事上の都合 (20.8%)	結婚 (48.6%)	仕事上の都合 (27.8%)	住宅の都合 (20.8%)

- ・20代前半は、転入、転出ともに「仕事の都合」の割合が高いが、20代後半から30代になると、「結婚」の割合が高くなっていることがわかる。
- ・20代、30代ともに割合の高低はあるが、転入、転出のきっかけは全体的な傾向と同じく、結婚、仕事、住宅の3つが主なものとなっている。

イ 転入のきっかけ別にみた平塚市に転入を決めた理由

転入の主なきっかけである「仕事上の都合」、「結婚」、「住宅の都合」別に本市への転入を決めた理由を表にまとめると次のようになる。

1. 結果の考察

[表2 転入のきっかけ別、本市への転入を決めた理由]

転入のきっかけ	年代	本市への転入を決めた理由※複数回答可	
		1位	2位
仕事上の都合	20代	通勤・通学時間 (71.4%)	住宅の条件 (52.4%)
	30代	通勤・通学時間 (77.3%)	家賃・住宅価格 (50.0%)
結婚	20代	通勤・通学時間 (60.7%)	家賃・住宅価格 (50.0%)
	30代	家族・親族等が住んでいる (58.1%)	通勤・通学時間 (51.6%)
住宅の都合	20代	住宅の条件 (64.7%)	家賃・住宅価格など (52.9%)
	30代	家賃・住宅価格 (57.1%)	住宅の条件 (55.1%)

- ・「仕事上の都合」がきっかけの場合、20代、30代ともに「通勤・通学時間」が最も高い。2番目には、20代では「住宅の条件」、30代では「家賃・住宅価格」となっている。
- ・「結婚」がきっかけの場合、20代では「通勤・通学時間」、「家賃・住宅価格」の割合が高く、30代では、「家族・親族などが住んでいる」、「通勤・通学時間」の割合が高い。
- ・「住宅の都合」がきっかけの場合、20代では「住宅の条件」、「家賃・住宅価格」及び「家族・親族などが住んでいる」の割合が高く、30代では「家賃・住宅価格」、「住宅の条件」の割合が高い。

ウ 転出のきっかけ別にみた転出先を決めた理由

転出の主なきっかけである「仕事上の都合」、「結婚」、「住宅の都合」別に他の市区町村へ転出先を決めた理由を表にまとめると次のようになる。

[表3 転出のきっかけ別、転出先の市区町村を決めた理由]

転出のきっかけ	年代	転出先を決めた理由※複数回答可	
		1位	2位
仕事上の都合	20代	通勤・通学時間 (90.0%)	家賃・住宅価格 (60.0%)
	30代	通勤・通学時間 (88.0%)	住宅の条件 (52.0%)
結婚	20代	通勤・通学時間 (92.6%)	買い物の利便性 (59.3%)
	30代	通勤・通学時間 (78.3%)	家賃・住宅価格 (52.2%)
住宅の都合	20代	住宅の条件 (100.0%)	通勤・通学時間 (80.0%)
	30代	住宅の条件 (68.2%)	通勤・通学時間 (45.5%)

- ・「仕事上の都合」がきっかけの場合、20代、30代ともに「通勤・通学時間」の割合が最も高く、2番目には20代で「家賃・住宅価格」、30代で「住宅の条件」となっている。
- ・「結婚」がきっかけの場合、20代、30代ともに「通勤・通学時間」の割合が最も高く、2番目には20代で「買い物の利便性」、30代で「家賃・住宅価格」となっている。
- ・「住宅の都合」がきっかけの場合、20代、30代ともに「住宅の条件」の割合が最も高く、2番目には20代で「通勤・通学時間」、30代で「通勤・通学時間」となっている。

1. 結果の考察

エ 20代及び30代の転入・転出の傾向の考察

「結婚」、「仕事上の都合」をきっかけとして、転入、転出する20代、30代は、転入先や転出先の決定に際し、「通勤・通学時間」を重視している結果から、「結婚」の場合は、本人または結婚相手の勤務地、住所地、「仕事上の都合」の場合は、本人または配偶者の勤務地との距離が転入や転出先の決定に大きな影響を与えられと考えられる。

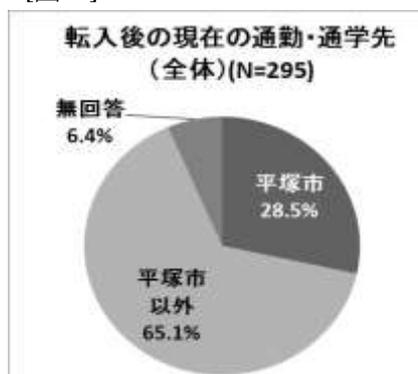
一方、「住宅の都合」をきっかけとして、転入・転出する20代、30代は、転入先や転出先の決定に際し、「住宅の条件（広さ、日当たり、静けさ）」や「家賃・住宅価格」を重視することがわかった。つまり、所得の状況や理想とする住まいの条件など、住まいを選ぶ際の価値観が転入や転出先の決定に大きな影響を与えられと考えられる。

(3) 転入出と通勤・通学先の関係

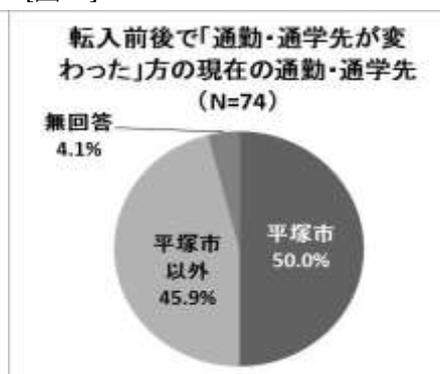
ア 転入者の市内への通勤・通学の状況

本市への転入後の通勤・通学先の状況は次のとおりとなる。

【図3】



【図4】



【図5】

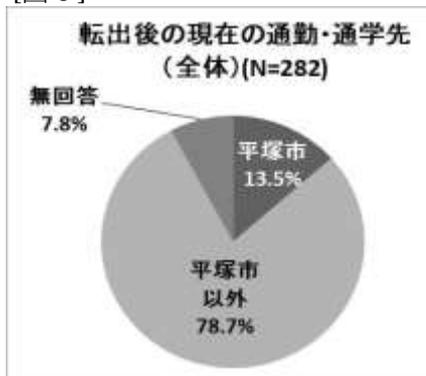


- ・通勤・通学をしている転入者全体では、28.5%は通勤・通学先が本市内であった。【図3】
- ・「通勤・通学先が変わった」方の50%は通勤・通学先が本市内であった。【図4】
- ・「通勤・通学先が変わっていない」方のうち、「通勤・通学の利便性を高める」が転入のきっかけとなった方の58.3%は、通勤・通学先が本市内であった。【図5】

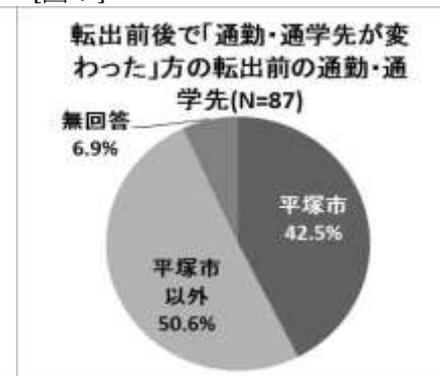
イ 転出者の市内への通勤・通学の状況

本市から転出後の通勤・通学先の状況は次のとおりとなる。

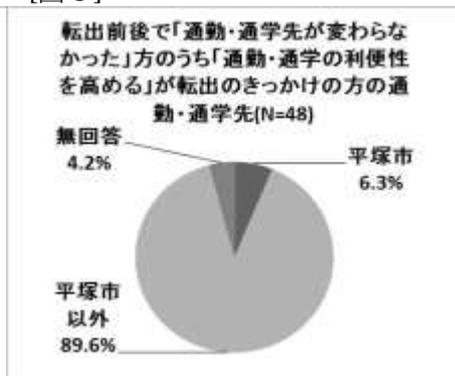
【図6】



【図7】



【図8】



- ・通勤・通学をしている転出者全体では、13.5%は通勤・通学先が本市内であった。【図6】
- ・転出者のうち「通勤・通学先が変わった」方の42.5%は、本市内から市外へ通勤・通学先が変わった方であった。（※対象者87人全員、転出後の通勤・通学先は市外。）【図7】
- ・「通勤・通学先が変わっていない」方のうち、「通勤・通学の利便性を高める」が転出のきっかけとなった方の89.6%は市外に通勤・通学している方であった。【図8】

1. 結果の考察

ウ 通勤・通学先が市内であることの転入出への影響

転入者でみると、(3)アで述べたように「通勤・通学先が変わった」方の50%が転入後の通勤・通学先が本市内であり、また「通勤・通学先が変わっていない」方のうち本市内への転入のきっかけを「通勤・通学の利便性を高める」と選択した方の58.3%が本市内に通勤・通学をしていた。

このことから、市外から本市内に通勤・通学先が変わることをきっかけに、転入の可能性が高まると考えられる。また、市外から市内へ通勤・通学をしている方は、本市内に通勤・通学を続けることが、転入の可能性を高めると考えられる。

転出者でみると、(3)イで述べたように「通勤・通学先が変わった」方の42.5%が転出後の通勤・通学先が本市内から市外へ変わっていること、また「通勤・通学先が変わっていない」方のうち、転出のきっかけを「通勤・通学の利便性を高める」と選択した方の約9割近くの方が、市外へ通勤・通学をしていた。

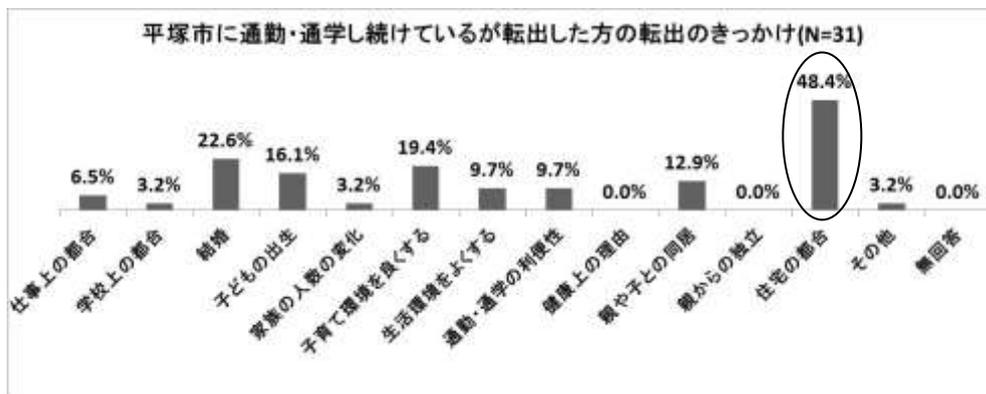
このことから、本市内から市外へ通勤・通学先が変わることをきっかけに、転出の可能性が高まると考えられる。また、本市内から市外に通勤・通学している方が、市外への通勤・通学を続けることで、転出の可能性が高まると考えられる。

これらのことから、市内の雇用環境を充実し、市内に通勤・通学する人を増やすこと、あるいは維持していくことは、転入促進、転出抑制の観点からも重要であると考えられる。

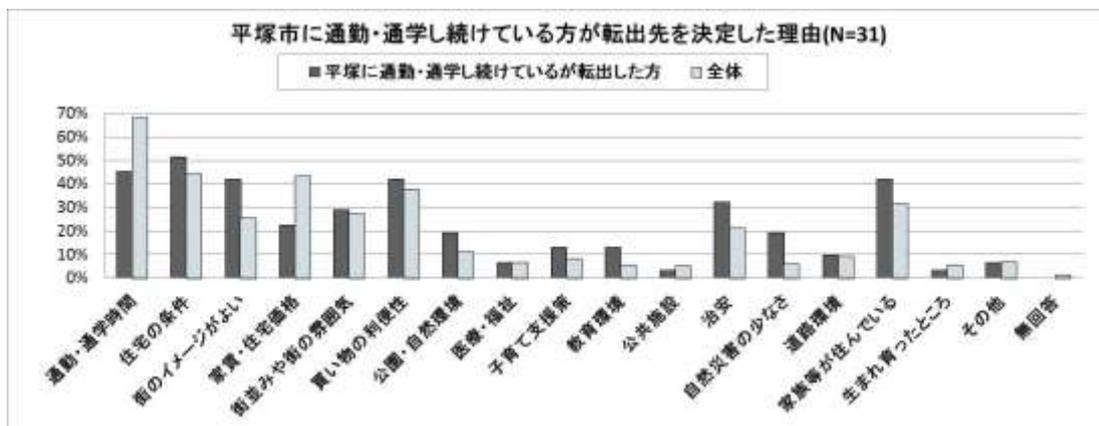
エ 本市内に通勤・通学し続けているのに転出する要因

本市内に通勤・通学し続けているにもかかわらず転出した方が、転出者全体で10%を超えている。転出のきっかけ、転出先の決定理由、平塚市の悪かったところは次のとおり。

[図9 平塚市に通勤・通学し続けているが転出した方の転出のきっかけ]

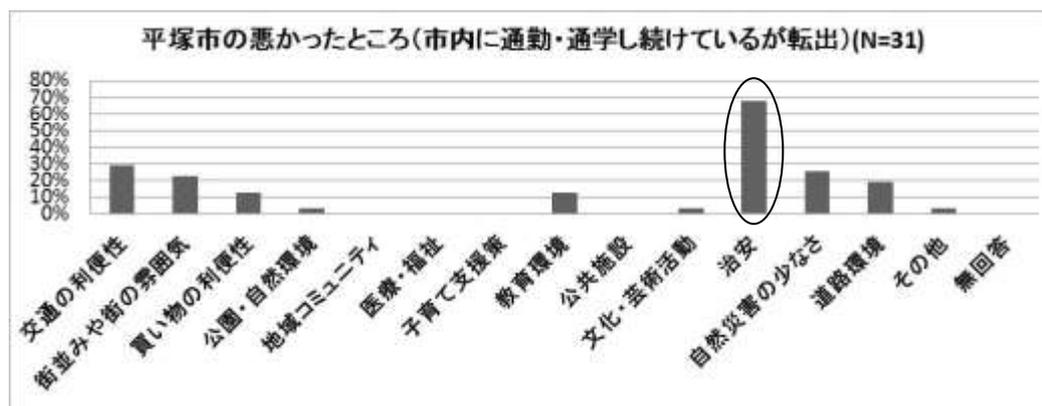


[図10 平塚市に通勤・通学し続けている方が転出先を決定した理由]



1. 結果の考察

【図11】 平塚市に通勤・通学し続けている方が転出先を決定した理由



- ・転出のきっかけは、「住宅の都合」の割合が最も高く【図9】、転出先の決定理由としては、「通勤時間(45.2%)」や「住宅の条件(51.6%)」のほか、「街のイメージ(41.9%)」や「治安(32.3%)」が高い割合を示している【図10】。また、本市内に通勤・通学し続けているにもかかわらず転出した方の67.7%が本市の治安に不安を感じている【図11】。

このことから、「街のイメージ」の好感度を高めることや、「治安」に対する不安を払しょくすることが、転出抑制につながる可能性があると考えられる。

(4) 子育て世帯から見た転入・転出状況

ア 子育て支援策の転入、転出に与える影響

行政サービスを調べたかどうかを子どもの有無別で表にまとめると次のようになる

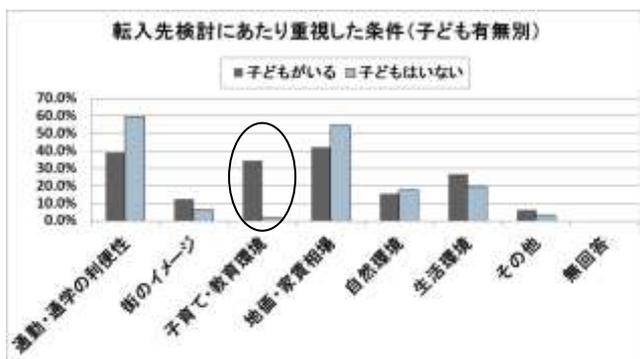
【表4】 行政サービスの調査状況

子どもの有無	転入者			転出者		
	調べた	調べていない	無回答	調べた	調べていない	無回答
子どもがいる	35.4%	63.0%	1.6%	42.2%	56.7%	1.1%
子どもはいない	18.3%	78.9%	2.8%	17.3%	80.6%	2.1%

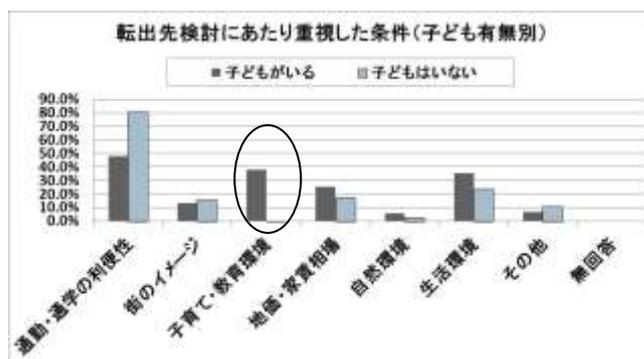
- ・子どもがいる世帯の方が、子どもがいない世帯と比較し、転入、転出ともに行政サービスを調べる傾向が見られた。【表4】

転入出先の検討の際に重視する条件や、転入出先の決定理由などは次のとおり。

【図12】

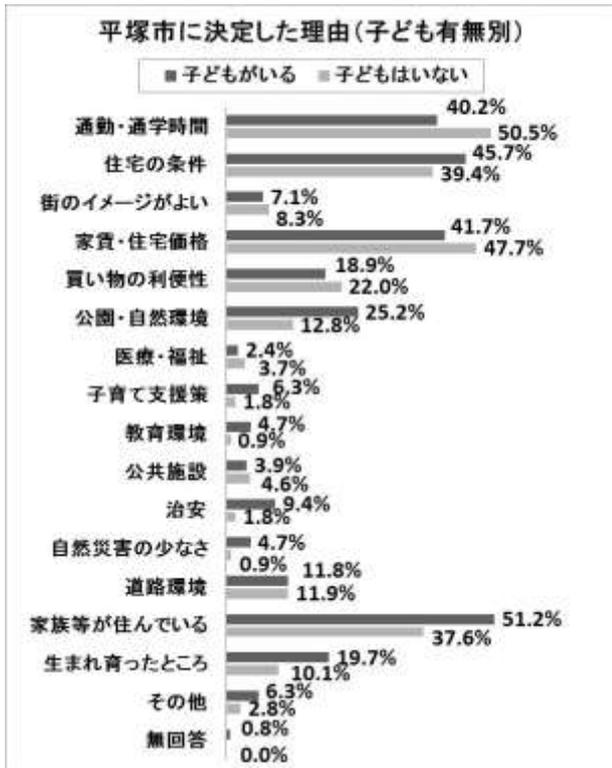


【図13】

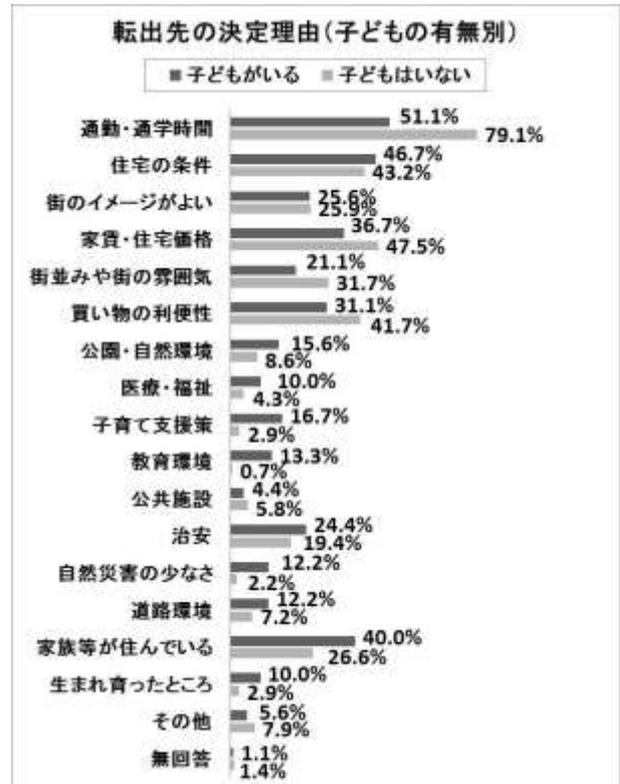


1. 結果の考察

[図 1 4]



[図 1 5]

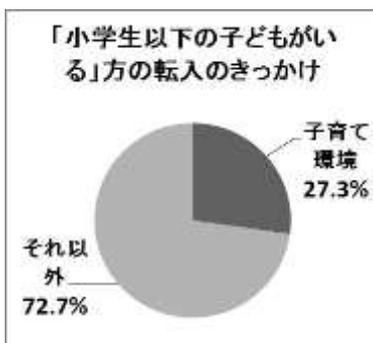


・転出先や転入先の検討にあたって重視する条件としては、「子育て・教育環境」(転出:37.8%、転入:34.4%)が高い割合を示していた。【図 1 2、図 1 3】

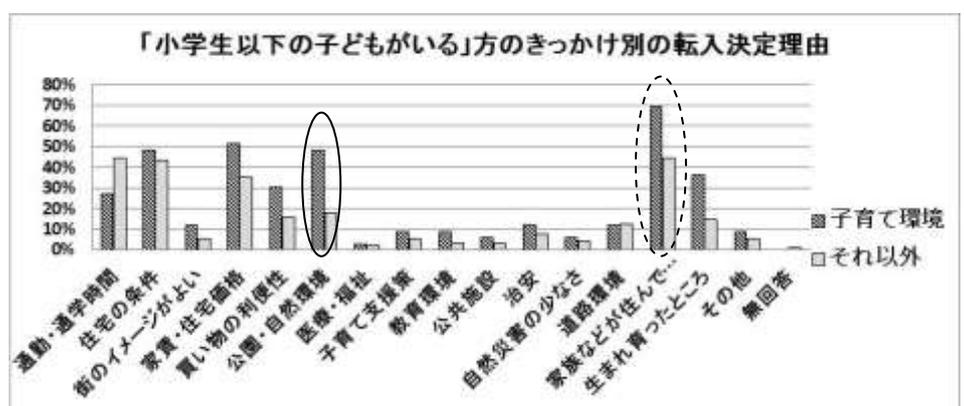
イ 子育て世帯の転入・転出の傾向

子育て世帯のうち、小学生以下の子どもをもつ方で、「子育て環境をよくしたい」が転入出のきっかけとなった方の本市への転入、市外への転出先決定の理由は次のとおり。

[図 1 6]



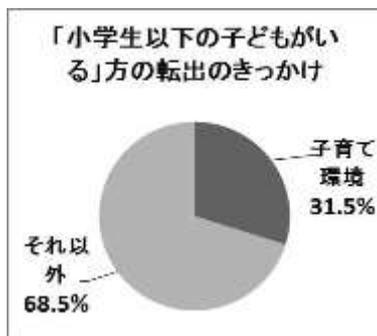
[図 1 7]



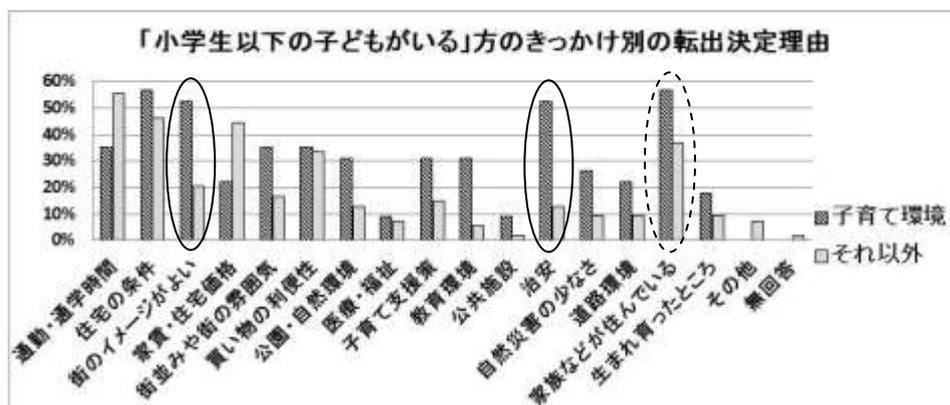
転入者(小学生以下の子ども有) 子育て環境(N=33)
それ以外(N=88)

1. 結果の考察

【図18】



【図19】



転出者（小学生以下の子ども有） 子育て環境(N=23)
それ以外(N=54)

- ・本市へ転入を決定した理由では「公園・自然環境」を選ぶ割合が高く【図17】、市外への転出先を決定した理由では「治安」や「街のイメージがよい」を選ぶ割合が高かった【図19】。また、転入、転出ともに「家族・親族などが住んでいる」が最も高い割合となった【図17、図19】。

ウ 子育て世帯からみた居住地選びの考察

子育て世帯のうち、小学生以下の子どもをもつ方にとって、家族と同居または近くに住むことが、子育て環境を良くするための大きな要素の1つである。特に本市へ転入した方は、この傾向が顕著である【図17】。また、本市は「公園・自然環境」【図17】、他市区町村は「治安」や「街のイメージがよい」などが子育て環境として評価されていることがわかった【図19】。このことから、子育て世帯の定住を促進するためには、公園や自然環境の良さを発信することや、治安に対する不安を解消することが重要であると考えられる。

(5) 本市への居住経験、家族とのつながり

ア 転出者の転出後の本市との関わり

- ・子どもがいない方の転出前後における世帯構成の変化をみると、二世帯同居が63.3%から1.4%に減少していることから、転出者で子どもがいない方の約6割は、就職や進学をきっかけに親元を離れて転出し、転出した方の家族は引き続き平塚市に居住している状況が考えられる。

【表5】

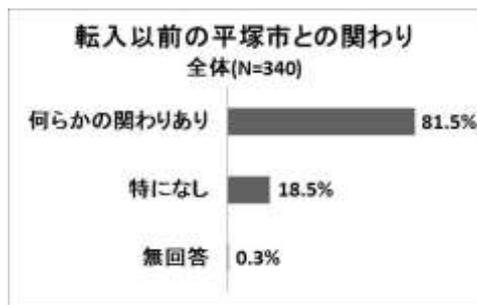
世帯構成(N=139)	転出前	転出後
ひとり暮らし	2.9%	29.5%
夫婦のみ	15.1%	64.7%
二世帯同居(親と子)	63.3%	1.4%
三世帯同居(祖父母と親と子)	14.4%	0.0%
その他	2.2%	2.2%
無回答	2.2%	2.2%

1. 結果の考察

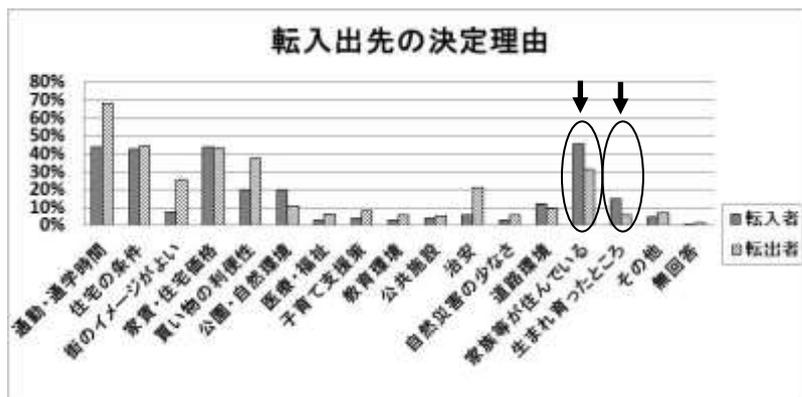
イ 転入者からみる本市との関わり

- ・転入した方の本市との関わりをみると、「親や親族などが住んでいる」が42.6%で最も高く、また「以前に住んでいたことがある」は25.3%であり、その他の選択肢と合わせ本市と何らかの関わりがあった方は全体の約8割にのぼる。【図20】
- ・転入した方のきっかけとしては、「親や子との同居や近くに住む必要」は16.8%ほどであるが、転入の決定理由としては、「家族・親族などが住んでいる」が45.9%と高い割合であった。【図21】

【図20】



【図21】



ウ 本市との関わりと転入への影響

前述の子育て世帯だけでなく、全体としてみても、配偶者の家族・親族などが住んでいることが、本市への転入決定に大きな影響を与えていると考えられる。また、本市との関わりで、4人に1人は「以前住んでいたことがある」と答えていることや、転入の決定理由として「生まれ育ったところだから」が14.9%あることから、家族など人とのつながりの他に、住み慣れた土地というのが、居住先の決定に少なからず影響を与えていると考えられる。

これらのことや、本市に転入した方の約8割は、本市と何らかの関わりがあったことから、過去に本市に居住していて転出した方や、本市に家族などのつながりがある市外に居住している方に対して、結婚、仕事、住宅などをきっかけとして、本市に転入してもらえるような情報発信の検討や、本市を訪れたことがある人を増やすことも、転入促進の面から必要であると考えられる。

(6) 転出先、転入先の情報源

ア 住宅情報、不動産情報と転入、転出先

転入者も転出者も、約60%の方が、転入、転出先の情報源は「住宅情報・不動産情報ホームページ」であったと回答している。

このことから、多くの転入出者がホームページ上で、物件情報を確認し、住宅・家賃価格、通勤・通学時間、住宅の条件（広さ、日当たり、静けさ）により、居住先の候補を検討していると考えられる。情報源や決定理由などを考慮すると、住みたい家やまちのイメージと市内の不動産情報・物件情報とのマッチングがうまくできれば、転入者の増加につながる可能性が高まると考えられる。

住宅情報や不動産情報に関わる企業と連携・協力し、魅力のある物件情報の発信や、本市の行政サービスを合わせてわかりやすくアピールできるような仕組みづくりが必要であろう。

1. 結果の考察

(7) アンケートからみた平塚市の強み、弱み

ア 平塚市の良いところ

本市の「良かったところ」と「悪かったところ」について転入者、転出者の評価は次のとおり。

[表6 転入者]

	転入者		良い		悪い		差
	選択肢		比率	順位	比率	順位	
平塚市の 良いと ころ・悪いと ころ	交通の利便性	28.5%	3	34.4%	2	-5.9%	
	街並みや街の雰囲気	27.1%	4	13.2%	7	13.8%	
	買い物の利便性	38.2%	2	22.1%	3	16.2%	
	公園・自然環境	50.6%	1	5.0%	13	45.6%	
	地域コミュニティ	10.3%	8	3.8%	14	6.5%	
	医療・福祉	7.9%	9	13.5%	6	-5.6%	
	子育て支援策	11.2%	7	15.3%	5	-4.1%	
	教育環境	2.9%	15	6.5%	12	-3.5%	
	公共施設(公民館、図書館、スポーツ施設)	24.1%	5	10.6%	10	13.5%	
	文化・芸術活動	5.0%	14	3.8%	14	1.2%	
	治安	7.9%	9	42.1%	1	-34.1%	
	自然災害の多さ(少なさ)	5.6%	13	10.0%	11	-4.4%	
	道路環境	20.6%	6	17.1%	4	3.5%	
	その他	7.9%	9	13.2%	7	-5.3%	
	無回答	5.9%	12	12.6%	9	-6.8%	
計	-	-	-	-	-		

[表7 転出者]

	転出者		良い		悪い		差
	選択肢		比率	順位	比率	順位	
平塚市の 良いと ころ・悪いと ころ	交通の利便性	31.2%	5	41.3%	2	-10.1%	
	街並みや街の雰囲気	36.6%	4	17.0%	4	19.6%	
	買い物の利便性	51.1%	2	20.8%	3	30.3%	
	公園・自然環境	55.2%	1	3.5%	14	51.7%	
	地域コミュニティ	13.6%	9	4.1%	13	9.5%	
	医療・福祉	14.5%	8	6.3%	11	8.2%	
	子育て支援策	9.5%	10	7.9%	9	1.6%	
	教育環境	7.6%	13	8.5%	7	-0.9%	
	公共施設(公民館、図書館、スポーツ施設)	38.2%	3	5.4%	12	32.8%	
	文化・芸術活動	6.9%	14	2.8%	15	4.1%	
	治安	9.5%	10	52.1%	1	-42.6%	
	自然災害の多さ(少なさ)	20.2%	7	9.5%	6	10.7%	
	道路環境	21.5%	6	11.0%	5	10.4%	
	その他	8.2%	12	8.2%	8	0.0%	
	無回答	4.1%	15	7.9%	9	-3.8%	
計	-	-	-	-	-		

- ・回答割合の差からみると、転入者は「公園・自然環境」が特に高い評価であり、転出者は、「公園・自然環境」、「買い物の利便性」、「公共施設」が高い評価となっていた【表6、表7】。これらのことから、本市が持つ資源である「公園・自然環境」や「公共施設」をうまく活用、連携していくことからはじめる必要があると考えられる。

イ 交通の利便性の向上

転出者、転入者共に本市へ抱く印象として「交通の利便性」を良いとする割合が比較的上位にある一方、悪いと評価する割合も高い。住居から最寄駅、最寄駅から通勤・通学先へのアクセス(距離、時間)が評価につながっていると考えられる。このことは、転入出にあたり、新しい居住先を探す際に重視したことと、実際に決定した際の理由が、共に「通勤・通学時間」の割合が高いことから推測できる。最寄駅から通勤・通学先の交通の改善は難しいが、少なくとも、住居から最寄駅までの交通の利便性の向上は、転入の促進、転出の抑制のためには必要であろう。

1. 結果の考察

ウ ネガティブな治安イメージの克服

転入者、転出者共に、本市の治安へのイメージの悪さを指摘する回答が多くあった。理由としては、報道や伝聞などからのイメージや、軽犯罪に遭ったなどの実体験、街並み、夜道の暗さ、イベントの騒がしさ等が例として挙げられていた。治安に対するイメージの払しょくと、犯罪の抑止という、2つの観点から対策を練る必要があるだろう。

エ 新たなイメージの創出

本市の特色ある資源として、七夕まつり、ベルマーレ、総合公園、囲碁などが挙げられるが、転入者に本市のイメージを聞いたところ、転入前だけでなく転入後においても、「無回答」及び「特にない」とした方が多くいた。また、回答した方も、本市に対して明確なイメージがないからこそ、報道や伝聞などを通して触れた本市の情報がそのままイメージとなってしまっていると考えられる。

したがって、新たなイメージを創出するためには、本市の良い面について、各種メディアを通じて、市内外の多くの人を知る機会を増やす必要があるだろう。

資料編

平塚市に転入された方へ

～ アンケート調査へのご協力をお願いします ～

このたび、平塚市では本市へ転入された方を対象としたアンケート調査を実施することとしました。

この調査は、本市へ転入された皆様の転入のきっかけ、転入前後の生活環境や本市に対するイメージの変化等について伺い、人口減少時代に平塚市が選ばれるまちとなるための施策づくりの参考とするために行うものです。

お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、調査の趣旨を御理解いただき、御協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、このアンケート調査は無記名式のため個人が特定されることはありません。

また、調査結果を調査目的以外に使用することはありません。

- **目 的** : 人口減少時代に平塚市が選ばれるまちとなるための施策づくりの参考とするために行うものです。
- **調査対象** : 平成26年1月1日から平成26年12月31日まで（異動基準日）に平塚市へ転入された方の中から、20歳から49歳までの方について、住民基本台帳から無作為抽出した1,000人を対象としています。
- **調査期間** : 平成27年6月19日（金）から7月3日（金）まで 15日間
（調査の実施については、広報ひらつか6月第3金曜日号及び本市ホームページに掲載しています。）
- **回答方法** : 質問には、封筒の宛名の方による回答をお願いします。
- **提出方法** : 同封させていただきました返信用封筒に調査票を入れて
平成27年7月3日（金）までに最寄りの郵便ポストへ投函してください。（切手を貼る必要はありません。）

ご協力をお願いいたします。

<問い合わせ> 平塚市 企画政策部 企画政策課 計画推進担当
TEL:0463-21-8760(直通)
E-mail:kikaku@city.hiratsuka.kanagawa.jp

あなたご自身やご家族のことについて、お伺いします。

各設問の選択肢の中から、当てはまる番号に○をつけてください。

問1 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問2 あなたの年齢をお答えください。(○は1つ)

- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 1. 20～24 歳 | 2. 25～29 歳 | 3. 30～34 歳 | 4. 35～39 歳 |
| 5. 40～44 歳 | 6. 45～49 歳 | 7. 50 歳以上 | |

問3 あなたのお仕事をお答えください。(○は1つ)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 各種学校・専門学校・短大・大学・大学院生（予備校含む） |
| 2. 会社員・公務員・団体職員 |
| 3. 自営業・会社経営 |
| 4. 家事従事者 |
| 5. パート・アルバイト |
| 6. 無職 |
| 7. その他 [具体的に_____] |

問4 あなたと同居しているお子さんは何人いますか。(○は1つ)

- | | | | |
|------------------|---|--------|-----|
| 1. 1人 | } |→ | 問5へ |
| 2. 2人 | | | |
| 3. 3人 | | | |
| 4. 4人 | | | |
| 5. 5人以上 | | | |
| 6. 同居している子どもはいない | } |→ | 問6へ |

問5 あなたと同居しているお子さんは、次のうちどちらに該当しますか。

(当てはまるもの全てに○)

1. 就学前	5. 専門学校・短大・大学・大学院生など
2. 小学生	6. 既に学校教育を終了している。 (現在の就業状況は問わない)
3. 中学生	7. その他[具体的に_____]
4. 高校生	

問6 転入する以前の市区町村についてお答えください。

都・県	市・区・町・村
-----	---------

横浜市・川崎市・相模原市 の場合行政区まで	→	区
--------------------------	---	---

問7 転入する以前のあなたと平塚市との関わりについてお答えください。

(当てはまるもの全てに○)

1. 買い物や遊びにきたことがある	5. 友人や知人が住んでいる (いた)
2. 通勤や通学で通っていたことがある	6. 特になし
3. 以前に住んでいたことがある	7. その他
4. 親や親族が住んでいる (いた)	[具体的に_____]

転入のきっかけ等について、お伺いします。

問8 転入することになったきっかけは主にどなたによるものですか。(○は1つ)

1. あなた自身
2. 配偶者（妻または夫）
3. 子ども
4. あなたの親または配偶者（妻または夫）の親
5. その他 [具体的に_____]

問9 転入することになったきっかけについてお答えください。

(当てはまるもの全てに○)

1. 仕事上の都合（就職、転勤、転職、退職など）
2. 学校上の都合（入学、進学、転校など）
3. 結婚（事実婚を含む）
4. 子どもが生まれた、または生まれる予定があった
5. 家族の人数の変化（3・4を除く。離婚・死別など）
6. 子育て環境をよくすること
7. 生活環境（6を除く。買い物の利便性、治安など）をよくすること
8. 通勤・通学の利便性を高めるため（時間短縮など）
9. 健康上の理由（通院・病気療養など）
10. 親や子との同居、または近くに住む必要があったこと
11. 親からの独立（1～3を除く）
12. 住宅の都合（住宅の購入、借家の借り換えなど）
13. その他 [具体的に_____]

転入先の検討段階について、お伺いします。

問 10 平塚市以外の市区町村も転入先として検討しましたか。(〇は1つ)

1. 他の市区町村も検討した

…→ **問 11へ**

2. 平塚市に決めていたので、検討しなかった

…→ **問 14へ**

3. 平塚市に住むことが決まっていた (社宅、家族の持ち家など) …→

問 19へ

問 11 転入先の検討にあたり、重視した条件をお答えください。(〇は2つまで)

1. 通勤・通学の利便性

5. 自然環境

2. 街のイメージ

6. 生活環境 (買物の利便性、治安)

3. 子育て・教育環境

7. その他

4. 地価・家賃相場

[具体的に_____]

問 12 平塚市以外で検討した市区町村はどちらですか、2つまでお答えください。

1つ目

都	市・区
県	町・村

横浜・川崎・相模原
市の場合行政区まで → 区

2つ目

都	市・区
県	町・村

横浜・川崎・相模原
市の場合行政区まで → 区

問 13 転入先の地域を探したときの情報源についてお答えください。

(当てはまるもの全てに〇)

1. 市区町村のホームページ

6. ハウスメーカー・建設会社

2. 住宅情報・不動産情報ホームページ

7. 新聞・広告

3. その他インターネット情報

8. 電車バス等の車内広告

[具体的に_____]

9. 家族・親族・知人

4. 住宅情報誌

10. その他

5. 不動産業者

[具体的に_____]

転入先を決めたときのことについて、お伺いします。

問14 現在平塚市のどちらの地区にお住まいですか。(〇は1つ)

※地区については本調査票最終ページの「(参考) 平塚市地区別地図」をご確認ください。

- | | |
|-------|--------|
| 1. 海岸 | 7. 金田 |
| 2. 平塚 | 8. 神田 |
| 3. 大野 | 9. 金目 |
| 4. 豊田 | 10. 土沢 |
| 5. 城島 | 11. 旭 |
| 6. 岡崎 | |

問15 転入先を平塚市に決めた理由についてお答えください。

(当てはまるもの全てに〇)

- | |
|---------------------------------|
| 1. 通勤・通学時間 |
| 2. 住宅の条件(広さ、日当たり、静けさ) |
| 3. 街のイメージが良い |
| 4. 家賃・住宅価格 |
| 5. 買い物の利便性 |
| 6. 公園・自然環境 |
| 7. 医療・福祉 |
| 8. 子育て支援策 |
| 9. 教育環境 |
| 10. 公共施設(公民館、図書館、スポーツ施設など) |
| 11. 治安 |
| 12. 自然災害の少なさ |
| 13. 道路環境(車を使った移動のしやすさ) |
| 14. 家族・親族・知人が住んでいる、または、近くに住んでいる |
| 15. 生まれ育ったところだから |
| 16. その他[具体的に_____] |

問16 転入先を平塚市に決めるにあたり、平塚市の行政サービスについて調べましたか。

(〇は1つ)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

転入前後の変化について、お伺いします。

問17 転入前と現在のお住まいの住居の種類についてお答えください。(○は各々1つ)

転入前	現在(転入後)
1. 持ち家 (一戸建て) 2. 持ち家 (マンション・共同住宅) 3. 民営の借家・アパート・マンション 4. 公営住宅 5. 社宅・寮・宿舍 6. その他[具体的に_____]	1. 持ち家 (一戸建て) 2. 持ち家 (マンション・共同住宅) 3. 民営の借家・アパート・マンション 4. 公営住宅 5. 社宅・寮・宿舍 6. その他[具体的に_____]

問18 転入前と現在の世帯構成についてお答えください。(○は各々1つ)

転入前	現在(転入後)
1. ひとり暮らし 2. 夫婦のみ 3. 二世帯同居 (親と子) 4. 三世帯同居 (祖父母と親子) 5. その他 [具体的に_____]	1. ひとり暮らし 2. 夫婦のみ 3. 二世帯同居 (親と子) 4. 三世帯同居 (祖父母と親子) 5. その他 [具体的に_____]

問19 転入前と現在で通勤・通学場所が変わりましたか。(○は1つ)

※単身で転入した方は「あなた」、家族で転入した方は「主たる家計を支える方」とします。

1. 変わった ※ <u>転入前</u> と <u>現在</u> の通勤・通学場所を記載	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">転入前</td> <td style="text-align: center;">都</td> <td style="text-align: center;">市・区</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">県</td> <td style="text-align: center;">町・村</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">横浜・川崎・相模原 市の場合行政区まで</td> <td style="text-align: center;">区</td> </tr> </table>	転入前	都	市・区		県	町・村		横浜・川崎・相模原 市の場合行政区まで	区
転入前	都	市・区								
	県	町・村								
	横浜・川崎・相模原 市の場合行政区まで	区								
2. 変わっていない ※ <u>現在</u> の通勤・通学場所を記載	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">現在</td> <td style="text-align: center;">都</td> <td style="text-align: center;">市・区</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">県</td> <td style="text-align: center;">町・村</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">横浜・川崎・相模原 市の場合行政区まで</td> <td style="text-align: center;">区</td> </tr> </table>	現在	都	市・区		県	町・村		横浜・川崎・相模原 市の場合行政区まで	区
現在	都	市・区								
	県	町・村								
	横浜・川崎・相模原 市の場合行政区まで	区								
3. 通勤・通学していない										

平塚市について、あなたの印象をお伺いします。

問20 平塚市に住んでみて良かったところ、悪かったところはどのようなことですか。

(それぞれ、当てはまるもの全てに○をつけてください。)

良かったところ

1. 交通の利便性
 2. 街並みや街の雰囲気
 3. 買い物の利便性
 4. 公園・自然環境
 5. 地域コミュニティ
 6. 医療・福祉
 7. 子育て支援策
 8. 教育環境
 9. 公共施設（公民館、図書館、スポーツ施設など）
 10. 文化・芸術活動
 11. 治安
 12. 自然災害の少なさ
 13. 道路環境
 14. その他
- [具体的に_____]

悪かったところ

1. 交通の利便性
 2. 街並みや街の雰囲気
 3. 買い物の利便性
 4. 公園・自然環境
 5. 地域コミュニティ
 6. 医療・福祉
 7. 子育て支援策
 8. 教育環境
 9. 公共施設（公民館、図書館、スポーツ施設など）
 10. 文化・芸術活動
 11. 治安
 12. 自然災害の発生
 13. 道路環境
 14. その他
- [具体的に_____]

問21 転入する以前に、平塚市にどのようなイメージを持っていましたか。

(自由記述)

.....

.....

問22 実際に住んでみて、平塚市に対するイメージはどのように変わりましたか。

(自由記述)

.....

.....

アンケートは以上になります。貴重なご意見をお聞かせいただきありがとうございました！！

同封の返信用封筒にて本アンケート用紙をご送付くださいますようお願いいたします。なお、切手を貼らずに、そのまま郵便ポストにご投函いただけます。

☆☆ **7月3日(金)までにご投函をお願いします。** ☆☆

アンケートの実施については、平塚市の企画政策課ホームページ、並びに広報ひらつか（6月19日号）にてお知らせしています。

なお、結果の概要については、調査結果を集計次第、ホームページ等での公表を予定しております。

<参考>平塚市地区別地図



No.	地区	町丁名
1	海岸	久領堤、黒部丘、幸町、葦平、千石河岸、袖ヶ浜、代官町、高浜台、唐ヶ原、撫子原、虹ヶ浜、花水台、札場町、松風町、桃浜町、八重咲町、夕陽ヶ丘、龍城ヶ丘
2	平塚	明石町、天沼、榎木町、老松町、上平塚、桜ヶ丘、須賀、諏訪町、浅間町、宝町、立野町、達上ヶ丘、堤町、豊原町、中里、中堂、長瀬、錦町、馬入、馬入本町、平塚1～5丁目、富士見町、紅谷町、見附町、宮の前、宮松町、八千代町
3	大野	追分、大原、御殿1～4丁目、四之宮1～7丁目、新町、中原1～3丁目、中原上宿、中原下宿、西真土1～4丁目、西八幡1～4丁目、東真土1～4丁目、東中原1～2丁目、東八幡1～5丁目、南原1～4丁目
4	豊田	北豊田、豊田打間木、豊田小嶺、豊田平等寺、豊田本郷、豊田宮下、東豊田、南豊田
5	城島	大島、城所、小鍋島、下島
6	岡崎	岡崎、ふじみ野1～2丁目
7	金田	飯島、入野、入部、寺田縄、長持
8	神田	大神、田村1～9丁目、横内、吉際
9	金目	片岡、北金目、北金目1～4丁目、真田、真田1～4丁目、千須谷、広川、南金目
10	土沢	上吉沢、下吉沢、土屋、めぐみが丘1～2丁目
11	旭	出縄、公所、河内、高根、高村、徳延、根坂間、日向岡1～2丁目、纏、万田、山下

平塚市から転出された方へ

～ アンケート調査へのご協力をお願いします ～

このたび、平塚市では本市から転出された方を対象としたアンケート調査を実施することとしました。

この調査は、本市から転出された皆様の転出のきっかけ、転出前後の生活環境や本市に対するイメージ等について伺い、人口減少時代に平塚市が選ばれるまちとなるための施策づくりの参考とするために行うものです。

お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、調査の趣旨を御理解いただき、御協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、このアンケート調査は無記名式のため個人が特定されることはありません。

また、調査結果を調査目的以外に使用することはありません。

- **目 的** : 人口減少時代に平塚市が選ばれるまちとなるための施策づくりの参考とするために行うものです。
- **調査対象** : 平成26年1月1日から平成26年12月31日まで（異動基準日）に平塚市から転出された方の中から、20歳から49歳までの方について、住民基本台帳から無作為抽出した1,000人を対象としています。
- **調査期間** : 平成27年6月19日（金）から7月3日（金）まで 15日間
（調査の実施については、広報ひらつか6月第3金曜日号及び本市ホームページに掲載しています。）
- **回答方法** : 質問には、封筒の宛名の方による回答をお願いします。
- **提出方法** : 同封させていただきます返信用封筒に調査票を入れて
平成27年7月3日（金）までに最寄りの郵便ポストへ投函してください。（切手を貼る必要はありません。）

ご協力をお願いいたします。

<問い合わせ> 平塚市 企画政策部 企画政策課 計画推進担当

TEL:0463-21-8760(直通)

E-mail:kikaku@city.hiratsuka.kanagawa.jp

あなたご自身やご家族のことについて、お伺いします。

各設問の選択肢の中から、当てはまる番号に○をつけてください。

問1 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問2 あなたの年齢をお答えください。(○は1つ)

- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 1. 20～24 歳 | 2. 25～29 歳 | 3. 30～34 歳 | 4. 35～39 歳 |
| 5. 40～44 歳 | 6. 45～49 歳 | 7. 50 歳以上 | |

問3 あなたのお仕事をお答えください。(○は1つ)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 各種学校・専門学校・短大・大学・大学院生（予備校含む） |
| 2. 会社員・公務員・団体職員 |
| 3. 自営業・会社経営 |
| 4. 家事従事者 |
| 5. パート・アルバイト |
| 6. 無職 |
| 7. その他 [具体的に_____] |

問4 あなたと同居しているお子さんは何人いますか。(○は1つ)

- | | | | |
|------------------|---|--------|-----|
| 1. 1人 | } |→ | 問5へ |
| 2. 2人 | | | |
| 3. 3人 | | | |
| 4. 4人 | | | |
| 5. 5人以上 | | | |
| 6. 同居している子どもはいない | } |→ | 問6へ |

問5 あなたと同居しているお子さんは、次のうちどちらに該当しますか。

(当てはまるもの全てに○)

- | | |
|--------|---------------------------------|
| 1. 就学前 | 5. 専門学校・短大・大学・大学院生など |
| 2. 小学生 | 6. 既に学校教育を終了している。(現在の就業状況は問わない) |
| 3. 中学生 | 7. その他[具体的に_____] |
| 4. 高校生 | |

問6 転出前は平塚市のどちらの地区にお住まいでしたか。(○は1つ)

※地域については本調査票最終ページの「(参考)平塚市地区別地図」をご確認ください。

- | | |
|-------|--------|
| 1. 海岸 | 7. 金田 |
| 2. 平塚 | 8. 神田 |
| 3. 大野 | 9. 金目 |
| 4. 豊田 | 10. 土沢 |
| 5. 城島 | 11. 旭 |
| 6. 岡崎 | |

問7 あなたの平塚市での居住期間(転出するまで)についてお答えください。

(○は1つ)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 1年未満 | 4. 10年以上20年未満 |
| 2. 1年以上5年未満 | 5. 20年以上 |
| 3. 5年以上10年未満 | 6. 生まれてからずっと |

転出のきっかけ等について、お伺いします。

問8 転出することになったきっかけは主にどなたによるものですか。(○は1つ)

1. あなた自身
2. 配偶者（妻または夫）
3. 子ども
4. あなたの親または配偶者（妻または夫）の親
5. その他 [具体的に_____]

問9 転出することになったきっかけについてお答えください。

(当てはまるもの全てに○)

1. 仕事上の都合（就職、転勤、転職、退職など）
2. 学校上の都合（入学、進学、転校など）
3. 結婚（事実婚を含む）
4. 子どもが生まれた、または生まれる予定があった
5. 家族の人数の変化（3・4を除く。離婚・死別など）
6. 子育て環境をよくすること
7. 生活環境（6を除く。買い物の利便性、治安など）をよくすること
8. 通勤・通学の利便性を高めるため（時間短縮など）
9. 健康上の理由（通院・病気療養など）
10. 親や子との同居、または近くに住む必要があったこと
11. 親からの独立（1～3を除く）
12. 住宅の都合（住宅の購入、借家の借り換えなど）
13. その他 [具体的に_____]

転出先の検討段階について、お伺いします。

問 1 0 転出にあたり、平塚市内での転居を検討したかお答えください。(○は1つ)

1. 平塚市内も検討したが、他市区町村に決めた	}→	問 1 1 へ
2. 平塚市は検討しなかった			
3. 現在の住所へ住むことが決まっていた (例、社宅、家族の持ち家など)	→	問 1 9 へ

問 1 1 転出先の検討にあたり、重視した条件をお答えください。(○は2つまで)

1. 通勤・通学の利便性	5. 自然環境
2. 街のイメージ	6. 生活環境 (買物の利便性、治安)
3. 子育て・教育環境	7. その他
4. 地価・家賃相場	[具体的に_____]

問 1 2 転出先 (現在) の市区町村以外に検討した市区町村があれば、2つまでお答えください。

1つ目	2つ目								
<table border="1"> <tr> <td>都</td> <td>市・区</td> </tr> <tr> <td>県</td> <td>町・村</td> </tr> </table>	都	市・区	県	町・村	<table border="1"> <tr> <td>都</td> <td>市・区</td> </tr> <tr> <td>県</td> <td>町・村</td> </tr> </table>	都	市・区	県	町・村
都	市・区								
県	町・村								
都	市・区								
県	町・村								
<table border="1"> <tr> <td>横浜・川崎・相模原 市の場合行政区まで</td> <td>→</td> <td>区</td> </tr> </table>	横浜・川崎・相模原 市の場合行政区まで	→	区	<table border="1"> <tr> <td>横浜・川崎・相模原 市の場合行政区まで</td> <td>→</td> <td>区</td> </tr> </table>	横浜・川崎・相模原 市の場合行政区まで	→	区		
横浜・川崎・相模原 市の場合行政区まで	→	区							
横浜・川崎・相模原 市の場合行政区まで	→	区							

**問 1 3 転出先の地域を探したときの情報源についてお答えください。
(当てはまるもの全てに○)**

1. 市区町村のホームページ	6. ハウスメーカー・建設会社
2. 住宅情報・不動産情報ホームページ	7. 新聞・広告
3. その他インターネット情報 [具体的に_____]	8. 電車バス等の車内広告
4. 住宅情報誌	9. 家族・親族・知人
5. 不動産業者	1 0. その他 [具体的に_____]

転出先を決めたときのことについて、お伺いします。

問14 転出先（現在）の市区町村についてお答えください。

都・県	市・区・町・村
-----	---------

横浜市・川崎市・相模原市 の場合行政区まで	→	区
--------------------------	---	---

問15 転出先（現在）の市区町村に決めた理由についてお答えください。

（当てはまるもの全てに○）

1. 通勤・通学時間
2. 住宅の条件（広さ、日当たり、静けさ）
3. 街のイメージが良い
4. 家賃・住宅価格
5. 街並みや街の雰囲気
6. 買い物の利便性
7. 公園・自然環境
8. 医療・福祉
9. 子育て支援策
10. 教育環境
11. 公共施設（公民館、図書館、スポーツ施設など）
12. 治安
13. 自然災害の少なさ
14. 道路環境（車を使った移動のしやすさ）
15. 家族・親族・知人が住んでいる、または、近くに住んでいる
16. 生まれ育ったところだから
17. その他[具体的に_____]

問16 転出先を決めるにあたり、転出先（現在）の市区町村の行政サービスについて調べましたか。（○は1つ）

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

転出前後の変化について、お伺いします。

問 17 転出前と現在お住まいの住居の種類についてお答えください。(○は各々1つ)

転出前	現在(転出後)
1. 持ち家 (一戸建て) 2. 持ち家 (マンション・共同住宅) 3. 民営の借家・アパート・マンション 4. 公営住宅 5. 社宅・寮・宿舎 6. その他 [具体的に_____]	1. 持ち家 (一戸建て) 2. 持ち家 (マンション・共同住宅) 3. 民営の借家・アパート・マンション 4. 公営住宅 5. 社宅・寮・宿舎 6. その他 [具体的に_____]

問 18 転出前と現在の世帯構成についてお答えください。(○は各々1つ)

転出前	現在(転出後)
1. ひとり暮らし 2. 夫婦のみ 3. 二世帯同居 (親と子) 4. 三世帯同居 (祖父母と親子) 5. その他 [具体的に_____]	1. ひとり暮らし 2. 夫婦のみ 3. 二世帯同居 (親と子) 4. 三世帯同居 (祖父母と親子) 5. その他 [具体的に_____]

問 19 転出前と現在で通勤・通学場所が変わりましたか。(○は1つ)

※単身で転出した方は「あなた」、家族で転出した方は「主たる家計を支える方」とします。

1. 変わった -----> ※ <u>転出前</u> と <u>現在</u> の通勤・通学場所を記載	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">転出前</td> <td style="text-align: center;">都 市・区 県 町・村</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">横浜・川崎・相模原 市の場合行政区まで</td> <td style="text-align: center;">-> 区</td> </tr> </table>	転出前	都 市・区 県 町・村	横浜・川崎・相模原 市の場合行政区まで	-> 区
転出前	都 市・区 県 町・村				
横浜・川崎・相模原 市の場合行政区まで	-> 区				
2. 変わっていない> ※ <u>現在</u> の通勤・通学場所を記載	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">現在</td> <td style="text-align: center;">都 市・区 県 町・村</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">横浜・川崎・相模原 市の場合行政区まで</td> <td style="text-align: center;">-> 区</td> </tr> </table>	現在	都 市・区 県 町・村	横浜・川崎・相模原 市の場合行政区まで	-> 区
現在	都 市・区 県 町・村				
横浜・川崎・相模原 市の場合行政区まで	-> 区				
3. 通勤・通学していない					

平塚市について、あなたの印象をお伺いします。

問20 今回の転出以前に平塚市に住んでいて良かったところ、悪かったところはどのようなことですか。(それぞれ、当てはまるもの全てに○をつけてください。)

良かったところ

1. 交通の利便性
 2. 街並みや街の雰囲気
 3. 買い物の利便性
 4. 公園・自然環境
 5. 地域コミュニティ
 6. 医療・福祉
 7. 子育て支援策
 8. 教育環境
 9. 公共施設（公民館、図書館、スポーツ施設など）
 10. 文化・芸術活動
 11. 治安
 12. 自然災害の少なさ
 13. 道路環境
 14. その他
- [具体的に_____]

悪かったところ

1. 交通の利便性
 2. 街並みや街の雰囲気
 3. 買い物の利便性
 4. 公園・自然環境
 5. 地域コミュニティ
 6. 医療・福祉
 7. 子育て支援策
 8. 教育環境
 9. 公共施設（公民館、図書館、スポーツ施設など）
 10. 文化・芸術活動
 11. 治安
 12. 自然災害の発生
 13. 道路環境
 14. その他
- [具体的に_____]

問21 問20でお答えいただいた平塚市の良かったところはどのようなことですか。
(自由記述)

.....

.....

問22 問20でお答えいただいた平塚市の悪かったところはどのようなことですか。
(自由記述)

.....

.....

アンケートは以上になります。貴重なご意見をお聞かせいただきありがとうございました！！

同封の返信用封筒にて本アンケート用紙をご送付くださいますようお願いいたします。なお、切手を貼らずに、そのまま郵便ポストにご投函いただけます。

☆☆ **7月3日(金)までにご投函をお願いします。** ☆☆

アンケートの実施については、平塚市の企画政策課ホームページ、並びに広報ひらつか（6月19日号）にてお知らせしています。

なお、結果の概要については、調査結果を集計次第、ホームページ等での公表を予定しております。

<参考>平塚市地区別地図



No.	地区	町丁名
1	海岸	久領堤、黒部丘、幸町、葦平、千石河岸、袖ヶ浜、代官町、高浜台、唐ヶ原、撫子原、虹ヶ浜、花水台、札場町、松風町、桃浜町、八重咲町、夕陽ヶ丘、龍城ヶ丘
2	平塚	明石町、天沼、榎木町、老松町、上平塚、桜ヶ丘、須賀、諏訪町、浅間町、宝町、立野町、達上ヶ丘、堤町、豊原町、中里、中堂、長瀬、錦町、馬入、馬入本町、平塚1～5丁目、富士見町、紅谷町、見附町、宮の前、宮松町、八千代町
3	大野	追分、大原、御殿1～4丁目、四之宮1～7丁目、新町、中原1～3丁目、中原上宿、中原下宿、西真土1～4丁目、西八幡1～4丁目、東真土1～4丁目、東中原1～2丁目、東八幡1～5丁目、南原1～4丁目
4	豊田	北豊田、豊田打間木、豊田小嶺、豊田平等寺、豊田本郷、豊田宮下、東豊田、南豊田
5	城島	大島、城所、小鍋島、下島
6	岡崎	岡崎、ふじみ野1～2丁目
7	金田	飯島、入野、入部、寺田縄、長持
8	神田	大神、田村1～9丁目、横内、吉際
9	金目	片岡、北金目、北金目1～4丁目、真田、真田1～4丁目、千須谷、広川、南金目
10	土沢	上吉沢、下吉沢、土屋、めぐみが丘1～2丁目
11	旭	出縄、公所、河内、高根、高村、徳延、根坂間、日向岡1～2丁目、纏、万田、山下

平成27年度 平塚市転入出者アンケート調査結果報告書

編集・発行 平塚市企画政策部企画政策課

〒254-8686 神奈川県平塚市浅間町9番1号

電話 0463-23-1111 (代表)

0463-21-8760 (ダイヤルイン)

FAX 0463-23-9467

e-mail kikaku@city.hiratsuka.kanagawa.jp